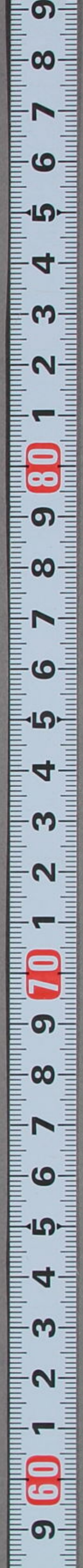


古事記傳

一

リ 5  
9177  
1







りぐはふいよ序目録の一をしり  
 その借目十條をしりてしりて  
 りてしりてしりてしりてしりて  
 りてしりてしりてしりてしりて  
 りてしりてしりてしりてしりて

木海苑のりりりりりりりり







き物なり。其比ソノコロより有りて之をむかして書紀修撰ツクラし給ひし頃コロの古記フルキフミも多し有りて見えし。彼神代卷カミヤマト一  
ふが多きをフナリ小治田宮コヂリノミヤの御宇ミコトノミヤの天皇の御世ミコトノミヤ二十八年ニヤチハチノシの聖  
徳太子命トクノミコノミコトノミヤ蘇我馬子スロミヤノミコトノミヤ大臣オホミの共トモに天皇記スメラギノミコトノミヤ及國記クニノミコトノミヤ臣連オミノミヤ伴造トモツクリ國  
造ミヤツクリ百八十部ヒヤクハチノベ并公民ナラヒタカミ等本記ミコトノミヤを録シレし給ふや書紀シキの所トコロは是コトを  
其事コトの物モノと見えし。始ハジメより有ける。又飛鳥アスカノキヨミ淨御原スガノミヤ宮ミヤの御  
宇ミコトノミヤし天皇の御代ミコトノミヤ十年トウシの川カハ鳥ニ皇子ノミコ等ナド十二人トウニニヒトと詔オホミコトせしむ。此コトの  
帝紀スメラギノミヤ及上古諸事カミコノモロクノコトモを記定シメシメサし給ふや然シカドモも此コトの  
記シの共トモに世ヨの傳ツタはしむ。平城宮ナラノミヤ御宇ミコトノミヤ天津御代アサヒノミヤ豊國  
成姫トヨノミヤ天皇御代ミコトノミヤ和銅四年ワツトウノシ九月十八日クニノヒトと太朝臣オホノアソミヤス安万侶ヤスマチノと詔オホミコト

おめせし。この古事記コトワザノキを撰録ツクラし給ふ。同五年トウノシの云イハ年トシは正  
月マシ二十八日ニヤチハチノヒのふむ。其功ソノコト終ハヒて貢進タテマツしむ。序シの見えし。り。  
續紀ツグキの此コト然シカドモも今イマの傳ツタはしむ。古記フルキの中ナカの此コト記シが最古モトモフル  
のり。さして書紀シキの同官トウカン御宇ミコトノミヤ高瑞淨足タカシズケ姫ヒメ天皇御世ミコトノミヤ養老  
四年ヤウロウノシのいづき。續紀ツグキに記シしむ。彼カレの此コト記シは八年  
のいづき。成ナリりける。さして此コト記シの字ジの文フミをもむ。さして  
びて。さして古語フルコトをむ。古の實コトはあり。さして失ウシは  
は。勤ツトメしむ。序シの見え。又今次イマノツギは云イハが如カドし。然シカドモるふ  
彼書紀カレノシキいで。さして世人セニヤのいづき。彼カレをのみ尊タフトみ用モチひ  
て。此コト記シの名ナをさし。知チぬも多オホシし。其所以ソノユエのいづき。いづき。



漢籍の学問ニナビはりりふ行りて、何事も彼國のさるるをのみ。  
人毎カクようやみ好むコトに、書紀の、それ漢國カラクニ乃國史や云、  
ふみのさるふ似ニたる哉カよろしびて、此記のほかなあを  
見て、正チカし記國史の體サマはあ、びなや云て、取ラびなりぬる  
ものぞ、或人かく云をゆやしみて問ヒふ、此記りてさる  
いづれもあ、さるふ、又書紀を撰ミし、賜タマする、い、此記は  
誤アらる、故コトな、さる、やい、已答オケを、さる、然シカる、い、何ら、い、此記あ  
ふ、さる、更サに書紀を撰ミし、賜タマする、い、そのあみ公オホヤケも、漢  
学問ニナビを盛サカし好コトませ、さるふをりあ、なり、さる、ば、此記のあ  
まり、さる、ゆり、さる、飭カザリな、さる、あ、の漢カラの國史やも、さる、さる、い、

ば、見ミた、さる、さる、浅アサクくや、聞クゆる、を、不アカズ足ズおもほ、さる、更サに廣ヒロクく  
事コトやもを考カる、加カる、年トシ紀キを立タテな、さる、は、さ、漢カラ免マり、記キ語ゴや  
を、さる、添ソヘあ、さる、して、漢カラ文章ブモノを、さる、か、さ、の、ふ、似ニと  
は、國史クニシや、立タテむ、さる、さる、撰ミし、賜タマする、を、む、い、て、其由ユを委ツカ  
曲カとい、む、い、先ツあ、の、川カハ鳥ト皇ミコ子ノ等ト、ふ、仰オホせ、て、帝ミカド紀キ等トを撰ミ、  
し、賜タマひ、さる、上ウヘとい、さる、あ、さる、さる、其後シノチ又マタ和銅ワド七シチ年ネン  
も、紀キ、朝アサ臣シ清スミ人ヒト三ミ宅トク、臣シ藤フジ麻マ呂ロ、ふ、詔オホコトな、さる、せ、て、國史クニシを撰ミ、し  
賜タマひ、さる、續ツグ紀キは、見ミゆ、此コノ、二ニ度ニの撰ミの中ナカ、ふ、川カハ嶋ト皇ミコ子ノ等ト  
の、い、此記コノキの章マツメ創ハジメや、同ドウく、浄御原スミヤカハラに、大御世オホミヨなる中ナカ、此記コノキ  
は、始ハジメ、い、彼カノ、より、前マヘなり、さる、後ノチなり、さる、か、知チ、さる、さる、を、さる、彼カノ







せるがゆゑにさへしされば書紀を撰ぐ所の此記の誤、  
あるが故よのあはれもゆるり其趣をゆるりそのありを  
一誤ありて改め撰ぶ所の是もかの二の史乃如  
くそのかみりやく廢るはきよ。此記のみ。今の世まで  
傳りたるはれし。又或人後世まで傳りたるは傳はら  
ざるゆゑにわのちりこれゆゑにわあはれかたむべし宜き  
よよりて傳はり宜しわにざるによりて傳りざるはも  
あはざるはれし。元て漢も此間も古の書れいゆるし  
たも絶えざるはゆるぬも廣く傳りゆる。あはれ多きよあら  
あやや疑ふ答ふもゆる。大わゆる。こゆるゆるゆるもこれ

のやが然らど先彼二乃史の書紀續紀も其事を記する  
はあはれよして公の書ゆるべし。わのちりよ絶ゆるむ  
の。あはれゆる。あはれゆる。世間もゆる。人もあはれ。後  
代も。其名ばりゆる。あはれ遺るはきよ。わゆる。その名をた  
よ。あはれ。既く平城乃代もゆる。知人もあはれゆる。わ。万葉  
集。古の事。證ゆる。註ゆる。あはれ。引ゆる。を見。然るも  
此記の潤色ゆる。あはれ。記して。漢の國史ゆる。體ゆる  
は。ゆる。異なる物もゆる。もし誤多かりゆる。さ。漢  
籍好まゆる。世ゆる。わ。廢らゆる。ゆる。見る人も有まゆる。  
ま。後代もゆる。傳りゆる。ま。物ゆる。ふ。千年の後まで



も傳りり来ぬを思ふべしそのかみ書紀りできてもなかな  
志うけがよ公オホヤケも用ひしれ世人も讀むべし見えたるかの  
万葉抄やみも往ヲリクこよ引出せるものをや上件の趣はな  
ら秘ヒせも序の詞やかのニニの史撰シばき一跡アトやを考カウ合せ  
てかくも有アきむや思シはる一ひぢを一し一りい一るなり  
又問彼川嶋皇子等以仰せし撰乃事ハ書紀よ見え和銅七  
年れや書紀やの事も續紀よ載られし一此古事記を撰  
ばし束給ひしあやの見えぬを思ふべし此記ハ彼史やもの  
如き嚴重オモき公事オホヤケコトふのあ一で一ぬ内ウチに一れ小事イサカコトや見え又書  
紀よ神代卷カミヨや一一書ヒトや一て一擧アゲられし一數スベテある中一此  
記を取トルし一りや一お一ぢ一たも一何れ一此記ハそのあみ如カ是

亦記録キやも多サふ有アきむ中一れ一一書ヒトや見えぬゆ一て一書紀ハ  
その記録キやも皆撰ヒび取トルして一此も彼も集ツめて足タラりぬ一や  
な一備ソナへ一ば一さ一ふ一此記キの比ヒよ一あ一ぢ一此記キハい一ぢ一ぢ  
其レや一等トシや一み一尚タラび用ヒふ一か一や一答コタへ一此記キハかの一書ヒトやも  
乃中一れ一一一み一して一みな書紀キよえ一び取トルして一お一ぢ一は事備ソナへ  
且一やの論ロハ一謂イハし一り一誠マコトよ書紀キハ事コトを記シす一こ一や一廣ヒロく  
は一其年月日ツキヒトや一ま一で一詳コトし一て一不ア足カこ一や一な一き一史コトや一れ一ば一此  
記の及レば一ざる一こ一や一も多サき一の一云一も一さ一り一然シカら一あ一ぢ一やも  
又一此記の優トクむ一事コトをい一は一む一の一先ツ上ツ代ツよ一書籍キや一云一物モノな  
ら一して一ぬ一ぢ一人の口クハよ一言傳イヒツタふ一ぬ一事コトハ必カナラ書紀キの文コト乃ハ如







のかみ漢學カラフニナヒのみさうりに行りて天下に御制ミサダメまでもよ  
ろが漢様カラザマとなり來ぬる世よしあはれはあは書典フミの類ヒま  
でひよぬる小漢カラさうりたるを悦びて表オモテよ立られ上代ツの正ココ  
實トあるいしを返ウラて裏ウラとなりて私物シモノの如くぞ有アリむ故カレ  
其撰定シラビの事も續紀ツギキなりぬも載られざりけるなるはしは  
て後ノチのいよ其心ココロば育ユクりて取トル見る人も罕マレらとなり世  
乃識者チシヤは是コトを正シし即國史クニシの體サマよあはれやしてなり  
ざりに思オモひや次ツギにいよもく哀カナしむれ抑皇國ヨシキクニよ古き國  
史シのいふ物外ホカよ傳ツタはれざれば其體サマや例タトヘよ引ヒキの漢カラのいふ  
言コトをればその體備サマまりやいふも漢カラのよ似ニたるをよろこ

ぶなり。もし漢カラよ邊ヘなりぬ心ココロなりぬば彼レよ似ニはれ何事  
りのあはれはなして萬マンの事漢カラを主ミやしてよさあを定  
むる世のちひひりやをなれ爰コゝよ吾岡部カウカ大人ウシ賀茂カモ  
主ヌシ東國トホクニカドの遠朝廷トモト乃御許ミモトよして古學コクニナヒをいざやむ賜タマするに  
よめて千年チヤトセにもわらへ餘アヒるまで久キウしく心乃底シモソコよ染着シメツキぬ  
は漢籍カラフニシヨ意イのきぬるや且カクもさやぬる人ヒトのてきて  
此記コトの尊タトきこや字ジ世人ニヤヒも知初チシラメするは學マナヒの道ミチよ神代カミヤよ  
るぬがひもなき彼大人カウカの功イササよありき宣長ノボナガは此  
御蔭ミカゲよ頼ヨリて此意コトを悟サトり初ハジメて年月トキを經ツるまよくいよ益ミズ  
益ニズわらまみぐるる乃穢汚キダナきこや字ジなり上代ウツの清キヨら



なる正實ニコトをわむ。熟クマらよ見ミ得エてしあれば。此記を以てあるが中カれ最上カミしる史フ典ミや定サめて書紀をば。是レが次タツに立タツる物モノが。かりや。然スも皇大御國ミタラオホミタクニの學問モノミナヒに心ココロざし。なを徒トモカフにゆえ。此意をなやもひ誤アヤり。

○書紀の論アヤシひ

今古事記を解トクやして書紀を論カふとい。いゆめや云イハふ。古昔ムカシよりの世間ヨシナカあしなはれて。只此書紀をのみ。人あやび用ヨウひて。世々乃物知モノチり人も。是レよいつく心をとらぬ。言コト痛イタきまでその神代卷カムヤマトよりの註釋チュウシヤクや。多オホかるふ。此記をば。いづちかざり。又思過オモヒスして。心を用ヨウひむ物や。も思オモひし。は。是レ何故ナニニシテより。

や尋イシねるよ。世人セニジンも。漢籍カンシヤク意イののみや。秘ヒみて。大御國オホミツクニの古コ意イを忘ワスはてし。れば。故カレ其漢意カンシヤクイの惑ニトヒをさや。此記の尊ウツクシぶ。彦ヒコき由ユを顯アラハして。皇國ミヤクニの學問モノミナヒ乃道ミチ志シる。彦ヒコせむや。な。其ソノ先書紀サキカキ乃潤色カザリあ。ちき。や。な。知チり。其撰述センシツの趣オモヒをよ。く悟サトらざれば。漢意カンシヤクイの痼疾コウシヤク去サら。く。此病シヤク去サら。く。此記の宜ヨシき。や。顯アラハせ。が。く。此記の宜ヨシき。や。成ナリる。古學コガクに正ただし。記道路キダウジの知チらる。ま。げ。き。ば。なり。いで。其論シヤクの。ま。あ。日ヒ本書紀ホンカキや。り。小題號コタイガウし。り。心得ココロエる。漢の國史カンノクニシの。漢書カンシヤク晋書シンシヤクや。り。小名コナよ。倣オラヒて。御國ミツクニの號ナを標アラゲら。れ。る。な。れ。や。も。漢國カンクニは。代タテる。小國號コクガウの。か。り。る。故ナに。其代タテ乃號ナも。て。名ナを。け。ざ。れ。ば。



分<sup>ワカ</sup>難<sup>ガタ</sup>を<sup>レ</sup>得<sup>ル</sup>了<sup>ス</sup>所<sup>ニ</sup>皇國<sup>ノ</sup>天地<sup>ノ</sup>共遠<sup>ク</sup>長<sup>ク</sup>天津日嗣<sup>ニ</sup>  
續<sup>ツキ</sup>坐<sup>シ</sup>て<sup>カ</sup>り<sup>シ</sup>賜<sup>フ</sup>ふ<sup>コ</sup>ゆ<sup>シ</sup>無<sup>キ</sup>れ<sup>バ</sup>其<sup>レ</sup>分<sup>ケ</sup>て<sup>云</sup>信<sup>ス</sup>き<sup>小</sup>  
何<sup>レ</sup>民<sup>カ</sup>あ<sup>ハ</sup>は<sup>ス</sup>小國<sup>ノ</sup>號<sup>ヲ</sup>を<sup>ア</sup>ぐる<sup>ハ</sup>並<sup>ニ</sup>ぶ<sup>コ</sup>る<sup>ハ</sup>ある<sup>時</sup>  
の<sup>わ</sup>が<sup>ぢ</sup>ぢ<sup>ぢ</sup>小<sup>ノ</sup>是<sup>ハ</sup>何<sup>ニ</sup>對<sup>シ</sup>する<sup>名</sup>ぢ<sup>ぢ</sup>漢國<sup>ニ</sup>對<sup>シ</sup>  
ら<sup>レ</sup>り<sup>見</sup>え<sup>テ</sup>彼<sup>ノ</sup>邊<sup>ヲ</sup>守<sup>ル</sup>る<sup>題</sup>號<sup>ヲ</sup>め<sup>カ</sup>し<sup>後</sup>の<sup>史</sup>  
又<sup>是</sup>又<sup>な</sup>り<sup>て</sup>名<sup>ヲ</sup>け<sup>ラ</sup>る<sup>也</sup>文德<sup>三</sup>代<sup>ノ</sup>實錄<sup>ニ</sup>然<sup>ル</sup>を<sup>後</sup>  
代<sup>ノ</sup>人<sup>乃</sup>返<sup>テ</sup>是<sup>ヲ</sup>け<sup>キ</sup>事<sup>小</sup>稱<sup>思</sup>ふ<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>る<sup>也</sup>已<sup>レ</sup>  
心<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>る<sup>所</sup>邊<sup>ヲ</sup>み<sup>ル</sup>題<sup>号</sup>や<sup>そ</sup>お<sup>も</sup>り<sup>し</sup>或<sup>人</sup>  
此<sup>書</sup>ハ<sup>漢</sup>國<sup>ヲ</sup>見<sup>セ</sup>給<sup>ハ</sup>る<sup>也</sup>意<sup>ハ</sup>名<sup>ヲ</sup>か<sup>ク</sup>る<sup>也</sup>  
然<sup>ル</sup>も<sup>外</sup>國<sup>人</sup>見<sup>セ</sup>む<sup>コ</sup>ゆ<sup>シ</sup>也<sup>主</sup>然<sup>ル</sup>も<sup>記</sup>  
記<sup>ス</sup>る<sup>名</sup>ぢ<sup>ぢ</sup>い<sup>ハ</sup>る<sup>也</sup>



體<sup>ノ</sup>ハ<sup>漢</sup>ノ<sup>似</sup>る<sup>也</sup>勤<sup>ク</sup>ら<sup>レ</sup>る<sup>也</sup>  
小<sup>ノ</sup>意<sup>モ</sup>詞<sup>モ</sup>ぢ<sup>ぢ</sup>ぢ<sup>ぢ</sup>の<sup>ぢ</sup>ぢ<sup>ぢ</sup>ぢ<sup>ぢ</sup>人<sup>ノ</sup>言<sup>語</sup>物<sup>ト</sup>  
乃<sup>實</sup>まで<sup>上</sup>代<sup>乃</sup>違<sup>フ</sup>る<sup>事</sup>ぢ<sup>ぢ</sup>多<sup>ク</sup>か<sup>り</sup>ける<sup>也</sup>神<sup>代</sup>卷<sup>ノ</sup>  
の<sup>首</sup>古<sup>天地</sup>未<sup>割</sup>陰<sup>陽</sup>不<sup>分</sup>渾<sup>沌</sup>如<sup>鷄</sup>子<sup>云</sup>然<sup>後</sup>神<sup>聖</sup>生<sup>ル</sup>  
其<sup>中</sup>烏<sup>也</sup>い<sup>ハ</sup>る<sup>也</sup>是<sup>ハ</sup>み<sup>ハ</sup>る<sup>漢</sup>籍<sup>也</sup>も<sup>レ</sup>文<sup>ヲ</sup>を<sup>レ</sup>取<sup>リ</sup>集<sup>メ</sup>  
て<sup>書</sup>加<sup>フ</sup>る<sup>也</sup>撰<sup>者</sup>私<sup>説</sup>め<sup>テ</sup>決<sup>メ</sup>て<sup>古</sup>ノ<sup>傳</sup>説<sup>ヲ</sup>い<sup>ハ</sup>  
非<sup>次</sup>次<sup>ニ</sup>故<sup>曰</sup>開<sup>闢</sup>之<sup>時</sup>洲<sup>壤</sup>浮<sup>漂</sup>譬<sup>猶</sup>游<sup>魚</sup>之<sup>浮</sup>水<sup>上</sup>也<sup>云</sup>  
云<sup>也</sup>是<sup>ハ</sup>實<sup>ノ</sup>上<sup>代</sup>レ<sup>傳</sup>説<sup>ノ</sup>有<sup>ケ</sup>る<sup>也</sup>故<sup>曰</sup>也<sup>ある</sup>小<sup>ノ</sup>  
て<sup>そ</sup>れ<sup>よ</sup>り<sup>上</sup>ハ<sup>新</sup>ニ<sup>加</sup>ふ<sup>也</sup>潤<sup>色</sup>ノ<sup>文</sup>ぢ<sup>ぢ</sup>あ<sup>ら</sup>ず<sup>知</sup>  
ら<sup>レ</sup>り<sup>若</sup>然<sup>ら</sup>ば<sup>此</sup>二<sup>字</sup>ハ<sup>何</sup>ノ<sup>意</sup>ぢ<sup>ぢ</sup>初<sup>メ</sup>ノ<sup>説</sup>ハ<sup>其</sup>趣<sup>ト</sup>



次なるてあざり〜疑もなき漢意ありてさ〜皇國乃  
上代乃意は非ば古をよ〜考知ま〜む人のわのぢの〜辨  
可初造し〜も〜天地乃初發のありさぬい誠は古傳説の  
如く〜有むむをい〜言痛き異國のさ  
か〜ら説を假用ひて先首〜も舉ら〜りを也纂疏  
を見ま〜故曰を一日やせり〜れ正〜本な〜殊  
よいは〜其故の異國乃説を主〜御國の古傳を  
ば傍〜し〜記〜て漢籍乃説い此天地のほ〜のさ  
し〜あり〜記〜て漢籍乃説い此天地のほ〜のさ  
ま〜何もみ〜凡人の己〜心も〜如此有〜理ぞ  
あ〜あ〜思定〜て作〜るものなり此間の古傳り然  
所〜誰云出〜言やも〜い〜上代より語〜傳り來

初るま〜なり此二初を〜造て見るは漢籍の方の理深  
く聞えて信小然〜有むを〜思りれ古傳の方の物げな  
く浅〜聞ゆるか〜誰も彼〜のみ心引ま〜舍人親王  
をば〜世〜れ識者今〜至は〜感いぬ〜かく人  
皆の惑ひ溺〜ゆゑい〜てか〜ゆみれ説やい物い  
〜〜昔の人〜もの萬乃事を深く考其理を求〜て我  
も人も實〜然〜信〜造〜定〜てか〜  
筆も〜巧〜い〜し〜然〜も人の智ハ限の  
あり〜實の理ハ得測識〜ものい〜さ〜天地の初な  
〜も〜如此ある造〜理〜い〜て〜知造〜











みよ書れしる言をねや。此文でも。後代に至りてかくらぬ  
ざりの邪説ヨコサミゴトを招く媒ナカメなりて。まよやれ道のありりぬる  
と根モト本みぞ有む。まよやれ陰陽の理やいふやの  
いや昔より。世人乃心の底又深く染着シメツキしるまよよて。誰も  
誰も。天地乃自然オツカラの理よて。何ゆる物も事も。此理をば  
まよしるや。思ふ思ふ。そはち印漢籍説カラフミゴトと惑ミドする  
心なり。漢籍カラフミゴト心を清く洗アラひ去て。よく思ふ。天地いよて天  
地男女メヲヒミツいよて男女水火ヒミツいよて。水のくみの性質アハル  
情状カタチのあれやも。そのみな神の御所ミシラガ為ありて。然るゆゑ乃  
あやまりい。いよもく奇靈クニスレく微妙ヘなる物あり。何れは。まよ

小人乃よく測知ハカリシレなきなり。然るを漢國人カラクニヒト乃癖クセや  
して。已がわかれ心をもて。萬の理を強シヒて考求カウキウせし。此  
陰陽インヤウのいふ名を作ツクりて。天地萬物テンチマンブツを。此理乃外ソトなるが如  
く説トキせむるものなり。かくの如く陰陽インヤウのいふ。漢人の作ツクり出  
なるが故ユヘ。他國タカクニよりそのまよ。無きまよ。おぢりして。天  
竺テンシク乃佛經ハツキョウ論ロンを見る。小世界コセカイ乃始ハジ。又人身ニジンシや。みよ。地水火風  
乃四大ニシヨのいふ物を以て説トキて。次ツギなる陰陽インヤウ五行ゴコウの説トキの  
いふ。まよ。其文字シジゴトのまよ。見ゆれやも。そのまよ。漢語カンゴ  
漢語カンゴは譯カタしる文章ブツ乃うまのまよ。事や。あほし。実マコトも其  
理をいする。あやれ。漢の漢めも。まよ。りて。な  
か言コト痛イタく物乃理をいふ國クニなる。ひら。かく。乃まよ。な  
あを以て。陰陽インヤウの漢國カンクニ乃私説シセなる。まよ。まよ。し。  
まよ。か。こ人乃よく考求カウキウし。作出ツクし。まよ。十トウ六ロク  
七シチの當アタまよ。が如く。なる。故ユヘ。世ヨの人人皆みなこを信用シヤウイニて。疑ウタガ



あるやちをいれども其陰陽の又いふる理よりて陰陽  
なるやちいりむよ其理の知るやあさりば太極無極なる  
いふやちも何れどもそれなりといふる理より太極無極  
なるやちいりむよ終よその元乃理の知かこきふ落然れ  
ば誠よの陰陽も太極無極も何乃益もなきいこぢり説よ  
ていづいささる人の智れ測知はき限の内乃小理よささ  
ざまや名を設きしるのみよぞ有ける抑天照大御神の日  
神よ坐まりて女神月夜見命の月神みして男神よ坐まり  
是を以て陰陽のいふやちのまこや乃理よりなるは古傳  
よ背けるやちをささるは然るを猶彼理よ泥み惑ひて

返て此をささる其理よかなるやち強て説曲ふるやちいふ  
ふも足ぬるやちなりかして又美都波能賣神を罔象女綿  
津見を少童やちかして類も漢よ可なりして快かぬ  
書さぬなりかして又神武御卷よ至る天皇の詔やち是  
時運屬鴻荒時鍾草昧故蒙以養正治此西偏皇祖皇考乃神  
乃聖積慶重暉やちあるふがひ意も語もささる上代のさ  
よ何れ全潤色のささる撰者の作加りしる文なり  
崇神御卷よ詔曰惟我皇祖諸天皇等光臨宸極者豈為一身  
乎云々不亦可乎それも同じ大り御代御代乃詔詞此類  
なるは上代の卷なるは潤色よ加りしる物や見え











神御卷又淡路嶋の事を峯巖紛錯陵谷相續芳草蒼蔚長瀾  
潺湲ゆるり雄畧御卷又馬を稱て漢畧而龍翥歛聳擢而鴻  
驚異體峯生殊相逸發ゆるりふがひゆるりも潤色過てい  
ゆるりまた漢文なり又神武御卷又弟猾大設牛酒以勞餐  
皇師焉崇神御卷又蓋命神龜以極致災之所由也これの  
文かざり又よめて實を失ひゆるり害ゆるり皇國よハ  
上代ゆるり牛を食するゆるり又ト小龜を用ひる  
ゆるり古ゆるり事あるゆるり牛酒神龜ゆるり書ゆるりは  
撰者乃意ゆるり漢文の潤  
色乃みゆるり後人ゆるりこれを實ゆるり思多故又学問乃害ゆるり  
ゆるりあり牛を食ひト小龜を用ゆるり外国の俗ゆるり  
也景行御卷倭建命の東國言向又幸行ゆるり處又天

皇持斧鉞以授日本武尊曰云々ゆるり古ゆるり時ゆるり矛  
劍ゆるり賜ゆるり斧鉞を賜ゆるり事ゆるりゆるり故  
これも此記又給比々羅木之八尋矛ゆるり實ゆるりける  
を強て漢ゆるりゆるり斧鉞ゆるり書ゆるりゆるり語をかざ  
ゆるりゆるりゆるりゆるりゆるりゆるり物ゆるり  
又替て書ゆるりゆるりゆるりゆるりゆるり類あり看む人  
心ゆるり又繼躰天皇乃未越前の三國又大坐ゆるり臣連  
等相議て迎奉て天津日嗣所看ゆるりゆるり謝び賜  
ゆるり處又大男迹天皇西向讓者三南向讓者再ゆるりゆるり  
かみかゆるり事ゆるりゆるりゆるり此前後の文ゆるり次ゆるり漢







小論する如く、漢籍カラヅミのふめをなすひて其、かざりの文多きを  
とらひなり。これ文乃まゝに訓まむりの字音なげをもま  
とす。そをほくわくふみを讀ヨムぶゆへに又よむばよさぬわれ  
やも。又をゆへに訓注を加す。古言を顯アハされしるこゆも  
ある哉思ふ。然シカしつづる漢籍の如く讀ばきふも非び。  
然らば全タテく古言よよむむゆへによな。さふはに訓が  
き處おわく。又其字の意を得て強シヒてよやゆき。言ハ皇國  
の言よなりても。その連ツギ接キの意ゆへにや漢なるこゆ多し。  
然らば全タテく古言古意又訓むゆな。さふ文又拘カらば。  
字よゆへに。其所ココのゆへにこれ意をよく思て古事記

万葉の語乃格サをよく考す。訓法し。然せむよ。十字二十  
字なげをも。みゆへに捨ステて讀ムま。た處るゆへに有レばきを  
とらひ。あゆも。今世人のゆへに。又今の癖クセなる物  
なれば。さして上代の意言を。しる。かを違ヒふ。ちづり  
ふ。さなり。明ら。あやも。え有リか。ゆへに。わさ。あ  
ゆへに。かより。ゆへに。訓得トか。書なめ。し。た  
て。今本の訓。ある。ばき限リ。古言ゆ訓スる物ありて。此記  
よあ  
る。ゆへに。多く其言  
よ。ち。ゆへに。古き言やも。是レよ。ゆへに。多し。さ。ゆへに  
を漢文のかざり。處なるゆへに。其文のまゝに。字よゆへに  
訓る故。さふ古意よ。ゆへに。言れ。ちづき。ゆへに。



も。とほ。漢籍訓なり。此意を思ひて看ばし。

○舊事紀のしる書乃論

世に舊事本紀の名をけし。十卷乃書あり。此の後人の偽  
て輯せしる物なり。さうふかの聖徳太子命の撰び給し。  
真の紀の非。序も書紀推古御卷乃事。然も無き  
事をし。造りて書はも。此記の書紀  
も取合せて集めたり。其の卷を披きて一も見せら  
い。よく知。疑りむ人もあ。神代  
乃事記せる所を心や。看よ。事毎に此記の文の書  
紀の文を皆本のま。交りて擧ぐる故。文躰一

物なり。木ふ竹を接。云が如し。又此記なる  
をも書紀なるをも。取て。一事の重なる。さ有て。  
い。よくみ。か。此記の書紀の文  
れ。物名の字。異なるを。雑りて取  
。その。分。又往古語拾  
遺をも取。是も其文のま。分  
を以て見。大同より後。物なり。か  
され。中。天皇。見。か  
武天皇より以降の御世。書紀のみを取て。事  
を。是も書紀の文全。同。神武御卷ののみを  
且歌のみを。い。神武御卷ののみを











るさるに附<sup>ツ</sup>り。されや又まゝふり。己がさか<sup>ラ</sup>らをも加<sup>ス</sup>  
りて。字をも改<sup>メ</sup>知<sup>ル</sup>見<sup>ス</sup>え。中<sup>ニ</sup>なるこやもあり。此人<sup>ハ</sup>  
だて古語をた<sup>シ</sup>べ<sup>シ</sup>。事<sup>ハ</sup>趣<sup>ヲ</sup>をのみ。一<sup>ニ</sup>り思<sup>ヒ</sup>て。訓<sup>ヲ</sup>  
ま<sup>シ</sup>。其訓<sup>ハ</sup>。言<sup>ハ</sup>も意<sup>ハ</sup>も。い<sup>ハ</sup>く古<sup>ノ</sup>よ<sup>ク</sup>め<sup>テ</sup>ひ<sup>テ</sup>。後<sup>ノ</sup>世<sup>ニ</sup>なるや。漢<sup>ノ</sup>  
なるやのみ。ひ<sup>キ</sup>。さ<sup>シ</sup>。用<sup>ハ</sup>ふ<sup>ル</sup>法<sup>ヲ</sup>き<sup>ク</sup>。あ<sup>ハ</sup>。か<sup>シ</sup>て右<sup>ノ</sup>の二<sup>ツ</sup>  
をお<sup>キ</sup>。古<sup>ノ</sup>本<sup>ハ</sup>のい<sup>ハ</sup>。ま<sup>シ</sup>。今<sup>ハ</sup>のい<sup>ハ</sup>。得<sup>ル</sup>。た<sup>シ</sup>を。  
己<sup>レ</sup>。か<sup>シ</sup>。一<sup>ニ</sup>部<sup>ヲ</sup>得<sup>テ</sup>見<sup>ル</sup>。ふ<sup>レ</sup>。誤<sup>リ</sup>。な<sup>リ</sup>。多<sup>ク</sup>  
よ<sup>ク</sup>む有<sup>ル</sup>。近<sup>キ</sup>。又<sup>ハ</sup>。か<sup>ノ</sup>。延<sup>佳</sup>。は<sup>レ</sup>。久<sup>ク</sup>。異<sup>本</sup>。や<sup>も</sup>  
を比<sup>シ</sup>。校<sup>ス</sup>。て。れ<sup>も</sup>。か<sup>シ</sup>。書<sup>キ</sup>。入<sup>レ</sup>。る<sup>本</sup>。を。寫<sup>シ</sup>。る<sup>本</sup>。又<sup>ハ</sup>。京<sup>ノ</sup>  
村<sup>井</sup>氏<sup>敬</sup>。義<sup>ガ</sup>。所<sup>モ</sup>。蔵<sup>ル</sup>。古<sup>キ</sup>。本<sup>を</sup>。見<sup>ル</sup>。ふ<sup>レ</sup>。此<sup>レ</sup>。は<sup>レ</sup>。殊<sup>ある</sup>。こ

やもな<sup>り</sup>て。誤<sup>ノ</sup>のみ多<sup>ク</sup>。村<sup>井</sup>が<sup>ハ</sup>。大<sup>カ</sup>。と。舊<sup>キ</sup>。印<sup>本</sup>。も。近<sup>キ</sup>  
かり<sup>き</sup>。其<sup>後</sup>。又<sup>ハ</sup>。尾<sup>張</sup>。國<sup>名</sup>。兒<sup>屋</sup>。あ<sup>る</sup>。真<sup>福</sup>。寺<sup>や</sup>。い<sup>ふ</sup>。寺<sup>俗</sup>。大<sup>洲</sup>  
の觀<sup>音</sup>。ふ<sup>レ</sup>。昔<sup>ヨ</sup>。り。傳<sup>言</sup>。蔵<sup>ル</sup>。本<sup>を</sup>。寫<sup>セ</sup>。る<sup>を</sup>。見<sup>ル</sup>。ふ<sup>レ</sup>。こ<sup>ハ</sup>。餘<sup>カ</sup>。の  
本<sup>や</sup>。も。や<sup>ハ</sup>。の。異<sup>コト</sup>。あ<sup>る</sup>。然<sup>レ</sup>。事<sup>も</sup>。を。り<sup>く</sup>。あ<sup>る</sup>。を。字<sup>ハ</sup>。の。脱<sup>オチ</sup>  
し<sup>る</sup>。誤<sup>キ</sup>。る。な<sup>り</sup>。殊<sup>ニ</sup>。あ<sup>る</sup>。と。あ<sup>る</sup>。か<sup>レ</sup>。れ<sup>バ</sup>。な<sup>り</sup>。今<sup>ノ</sup>。世<sup>ハ</sup>  
も。誤<sup>キ</sup>。る。古<sup>ノ</sup>。本<sup>ハ</sup>。在<sup>リ</sup>。か<sup>シ</sup>。ま<sup>な</sup>。り。さ<sup>レ</sup>。右<sup>ノ</sup>。本<sup>や</sup>。も  
も。れ<sup>レ</sup>。得<sup>ル</sup>。失<sup>ル</sup>。互<sup>ニ</sup>。あ<sup>る</sup>。見<sup>合</sup>。は<sup>レ</sup>。益<sup>ハ</sup>。な<sup>る</sup>。あ<sup>る</sup>  
や<sup>も</sup>。多<sup>シ</sup>。

○此記むくしとを註釋あるこやをきうび。元々集や  
り。物<sup>ハ</sup>。或<sup>レ</sup>。記<sup>ス</sup>。云<sup>フ</sup>。古<sup>ノ</sup>。事<sup>ノ</sup>。記<sup>釋</sup>。註<sup>ニ</sup>。曰<sup>ク</sup>。云<sup>フ</sup>。こ<sup>ハ</sup>。あ<sup>る</sup>



いむりし釋註やいふもの有しふりやその誰作せりしに  
ら其名どふ他よの見えぬまゝ今に聞えぬ物なり。或偽書  
此記の註やして名を作らして引くこと  
あぬぞ。そごやなぬばりいふこと

○カキザニ 文體の事

いふその文漢文の格よ書けり抑此記のものは古語を  
傳ふる故旨やせしれぬる書あれば中昔れ物語文やその  
如く皇國乃語のまゝに一ももごうぶ假字書ふて  
せしはばいふいふ物せしれぬるもの  
つかりしで其ゆゑを委曲よ示さむ先大御國もや文字  
はなかりしりべ。今神代乃文字やいふ物あるは上代の  
後世人の偽作よ。いふこと

古事やも何も直よ人の口よ言傳耳よ聽傳り來ぬ  
ふをや後よ外國より書籍や云物渡參來て。西土の文字  
來りし記よ應神天皇の御世よ百濟乃國より和迹吉師  
てめ人よ記よ論語や千字文やを貢しりや。此時よ  
もや。奈良乃る伝も然言傳りしや。此や。見え  
みも。外國人の參入しり。書紀よ崇神天皇乃御世よ始て弥  
摩那國人又無仁天皇の御世よ新羅國主天子之日乎や  
いふや。書籍のいふと渡らざりむ。異國やあや  
通ふことば。漢國乃書り。あや。漢や。代より  
御國乃使あし。至きや。云り。皇朝よ。い  
よ。彼國よ大御使を遣はし。後推古天皇の御世  
ぞ始。又韓の國よ。遣はし。奉り。神功  
皇后の。乃國言向坐し。の事や。書籍乃。來  
し。決り。和迹が。時。思  
ふ。然る。神武天皇の御時より。既く文字の有りし  
思ふ人もあや。その書紀を一見り見て。あや。



















ふもまぬの用ひしり。平城のころまづの凡て此借字と書は常此事として云きてゆきまづ。假字や同ドるやあるを後世にわめていふ。文字よのみ心を起るる故よ。これをもあしむぬぬ古の言を主として字よのさしも拘らざりしり。いりさぬも借てかきまなり。四よの右の三種の内を。此彼交りて書はものあり。さて上件ウの四よの外の又所由ヨりて書あしり。一種ある。日下春日飛鳥大神長谷他田三枝のふがひ是なり。

○假字の事

此記よ用ひしり。假字のかぶり城左よあが。

ア 阿 此外よ延佳本又一本よ白檮原宮段よ。亞アのあ假字あれやも。誤字ア見えり。其由ハ彼處アハ辨ア。

イ 伊

ウ 宇 汗 此中ハ汗字ハ。上卷石屋戸段よ。伏汗氣ウ。一あはみあり。

エ 延 愛

此中よ愛字ハ。上卷よ愛表登古愛表登賣エ。神名愛比賣エのみあり。

オ 淤 意 隱

此外よ下卷高津宮段歌よ。於志且流オ。一於字何れやも。一本ハ淤オ。後の誤なり。隱字ハ。國名隱伎オのみあり。







かひり。歌みも此。幾字ハ。河内の地名志幾のみなり。大倭乃ハ  
字を書也。岐ノネキシ  
かひり。吉字ハ。國名吉備。歌ハハ岐ノネキシ  
備ヤ書也。姓吉師のみなり。疑字ハ  
上卷ハ佐疑理。霧。中卷ハ泥疑。三。須疑。過。乃みあり。  
棄字ハ。上卷ハ奴棄字豆。あるのみなり。同。今ハ一。此  
ハ。奴岐  
ハ。書也。

ク久玖 音濁 具

ケ氣祁 音濁 宜下牙

此中ハ下字ハ上卷ハ久羅下。海。牙。あるのみあり。牙字ハ中卷ハ佐夜牙流。あるのみあり。

コ許古故胡高去 音濁 碁其

此中ハ故字ハ上卷歌ハ故。志能久迹。只一。あるのみなり。文。ハ高。胡字ハ中卷白檮



原宮段ハ盈。志夜胡志夜。下卷瓊栗宮段歌ハ宇良胡  
本斯。のみなり。去字ハ白檮原宮段ハ志祁去岐。ある  
のみなり。ハ古字を誤也。高字ハ地名高志。人名高目  
郎女丸高王。のみなり。碁字ハ或ハ碁字ハ作。處  
もあり。是ハ本よりニ。か。思。ハ。諸本互ハ異。し  
て。定。本ハ一。なり。誤。二。あり。  
なり。か。何。正。今言。ハ。姑。多。さ  
方ハ定。碁字ハ誤。上卷歌ハ只一。あり。  
み。ハ。其。字ハ。上卷歌ハ只一。あり。  
サ 佐沙左 音濁 邪奢 此中ハ沙字ハ神名人地名ハ往



往用ひ又中卷よ沙庭サニハやもあふ。ろれろれみなり。左字の國、  
名土左トサのみなり。又佐字を二所作フタトヨや作る本所カケなり。上卷麻都  
夫作迹ブサニまゝ岐作理持キサリモチろれなり。是の皆誤コなり。邪字おろく  
耶カケや作て誤カケよいあゝろれなり。漢籍カラジミみも此二字通ヒはし用  
俗邪字イや。ちや邪を正スしやれどし奢字シヤの神名シ久比奢母ヒシヤモ知  
奥奢オキザ加流カル伊奢イザ沙和氣サワケ人名伊奢イザ之真若ニマカあや。辞コトバもも中卷小  
伊奢イザニやあゝろれろれみなり。

シ斯志師色紫芝 濁音 士自 此中小師字の壹師吉師の

みなり。師シ木キ味ミ師シちやの師シの訓シと取シるる。色シ字の人名シれ  
色許シコラ男シ色許シコラ賣シのみなり。紫シ字の筑紫ツクシのみなり。芝シ字の下卷

高津宮段歌よ芝賀シガや只一あるれみなり。自字の地名伊自  
牟人名志シ自牟シ乃みなり。さて右の字やも此外よ中卷水垣  
宮段歌よ式字一。輕嶋宮段歌よ支字一。下卷高津宮段歌よ  
之字一。あゝやもいや疑シは誤シあゝむろ。ちや其處トコロく小論  
も。

ス須洲州周 濁音 受 此中小洲字の上卷よ久羅下那洲

州シあゝれみなり。堅洲カタシマ國クニ洲シマ羽海ウミやの洲シマの訓シを用シ州シ字の  
上卷よ州須シマ煤スな。ちやろる乃ちあり。洲州の内一の一を誤シ  
はももあゝむろ。周字の國名周シマ芳シマみなり。さて右の字や  
もの外よ中卷水垣宮段歌よ素字一。あゝやもその表字の







あり其の本字の誤りなり疑あるなり。

千知智 濁音 遲治地 此中小地字ハ神名字比地迹意富

斗能地乃みなり。

ツ都 濁音豆

テ且帝 濁音 傳殿 此中小帝字ハ神名布帝耳中卷ノ佐

夜藝帝やあるのみなり殿字ハ上卷ノ志殿 並ナ 乃みなり。

ト登斗刀等土 濁音 杼度勝騰 此中小等字ハ上卷小表

寺古まゝ美許等下卷ノ等母迹 乃 のみなり土字ハ國

名土左乃みなり勝字ハ神名淤勝山津見のみなり騰字ハ

曾富騰やあるのみなり 中卷ノ勝騰門比賣や 此勝騰

乃内一ハ一を誤りもあなり。

ナ那

二邇爾

又奴怒濃努 此中小濃字ハ國名美濃のみなり凡て古

濃やりの又の假字又用ひりノの音ハあ 努字ハ中

卷ノ美努村やあるのみなり。

ネ泥屋禰 此中小屋字ハ上卷ノ加屋 金ナ まゝ阿多屋

都岐やあるのみなり禰字ハ宿禰 スクネ まゝ輕嶋宮段又沙禰王

この彌の誤り 乃 のみなり。

ノ能乃 此中ノ乃字ハ上卷ノ大斗乃辨神下卷ノ余能







われ用ひしり。

一 麻摩

三 美微彌味

此中小彌字ハ神名彌都波能賣彌豆麻岐

まゝ下卷高津宮段ニ意富岐彌此言餘ハ美遠飛鳥宮段ニ

和賀多彌ワガタ彌ミろめミみミなり。味字ハ中卷ニ佐味那志尔サミナシニ

を一なり。

ム 牟无武

此中小无字ハ國名无邪志のみあり武字ハ

國名相武サガム乃みなり。相摸サガム作サガム本サガムもあ

メ 米賣咩

此中小咩字ハ中卷輕嶋宮段末人名當麻之

咩メ斐ヒのみなり。咩メ作メ字メなり。

モ 母毛

此外ニ下卷高津宮段歌ニ文字一あり誤メ

る ぼし

ヤ 夜也

此中小也字ハ上卷歌の結トビニ曾サ也ヤ只ツ一あり

此メみミもモ疑メ何ナニをナニ姑メくクあアるル也ヤ。此メハ云クぼしシ。

ユ 由

ヨ 余用與豫 此中小豫字ハ國名伊豫イヨ中卷下卷チウケンヨリヨリ又

豫母都志許賣ヨモツシシメのみなり。

ラ 羅良

リ 理

ル 琉流留









して中昔よりややくは右乃音やもねのく乱せり。つふ  
あはれか物に書みもその別なきあり。一音に二やも  
の假字ありて其の無用なる如くはやありを其  
後、京極中納言定家卿歌書に假字ありて定家らるる  
世より世みあはれなり。又古書に依らば心も定家  
既に人の語音別らば又古書に依らば心も定家  
異なり。然るを其後乃歌人乃思ふ。古の假字の差別  
あかりしを。彼卿やを始給て定家給て思ふあり。  
又近き世に至りては。音の軽重を以て辨ふは。難波  
ふ説やもあはれなり。古書を知らぬ妄言なり。こゝに難波  
ふ契沖やの僧。古書をよく考て。古の假字なり。こゝに  
の正しありしやを。始給て見得たり。元て古学の道  
に。此僧よめが。初なる。ゆやもく有。あはれき功  
有。か。て其正し。記書やもの中。此記や書紀や萬葉  
集や。殊に正しき。其の中。此記の又殊に正しき。なり。  
し。そのさ。を委曲。云む。の。ま。續紀より。以来の書

やもの假字の清濁分。濁音の所。清音假字を用ひ  
ふのみ。清音濁音字を  
も。又音や訓やを雜用ひ。此記書紀萬葉ハ  
用ひ。又音や訓やを雜用ひ。此記書紀萬葉ハ  
清濁を分て。此記及書紀萬葉の假字清濁を分て。此記  
辨む。その後世の濁言を古の清てい。多  
し。見。山の枕詞。濁言。又宮人。鳴。鳥  
家。鳥。の。ト。乃。古書。も。い。清。音  
の假字をのみ用ひて濁音なるのみ。此類多し。又後  
世の清む言。濁音乃假字をのみ用ひ。多し。これ  
ら。假字。の。み。今。の。心。も。疑。ふ。言  
の清濁乃變。今。の。心。も。疑。ふ。言  
き。あ。濁音乃假字を用ひ。誤。も。又後  
あり。の。の。は。誤。も。又後  
字。誤。も。此記。殊に。違ひ。い  
の。見。え。其。中。十。ば。の。婆。字。の。ハ。一  
本。の。波。作。乃。二。三。の。婆。も。ハ。波。なり。







宜<sup>ゲ</sup>をギヤもよみ用<sup>ヨ</sup>をユヤもよ  
 じふがひの<sup>ハ</sup>みまひが<sup>ハ</sup>くやあり。又入聲字を用ひし  
 あやをさく無し。才<sup>ノ</sup>お意字を用ひし。入聲なり。是  
 億字乃偏を省<sup>ク</sup>きし。ものなり。古<sup>ハ</sup>の偏を省<sup>ク</sup>きて書例多し。  
 此事傳十之卷吳公<sup>ノ</sup>乃<sup>ト</sup>下<sup>ニ</sup>委<sup>シ</sup>云<sup>シ</sup>。億憶<sup>ハ</sup>や<sup>ハ</sup>も書紀<sup>ハ</sup>お  
 乃<sup>ハ</sup>假字<sup>ハ</sup>お用<sup>ヒ</sup>ひし。又意字<sup>ハ</sup>億<sup>ハ</sup>乃<sup>ハ</sup>音<sup>モ</sup>あり。臆<sup>ハ</sup>通<sup>ス</sup>多<sup>ク</sup>あ  
 億<sup>ハ</sup>乃<sup>ハ</sup>偏<sup>ハ</sup>を省<sup>ク</sup>け。又<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>や<sup>ハ</sup>ま<sup>ハ</sup>よ<sup>シ</sup>。め色<sup>ハ</sup>字<sup>ハ</sup>か<sup>ハ</sup>お<sup>ハ</sup>甲<sup>ハ</sup>字<sup>ハ</sup>ぶ<sup>ハ</sup>お<sup>ハ</sup>服<sup>ハ</sup>字  
 を書<sup>ク</sup>ふ<sup>ハ</sup>く<sup>ハ</sup>や<sup>ハ</sup>あり。あ<sup>ハ</sup>れ<sup>ハ</sup>し<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>由<sup>ハ</sup>あり。乃<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>必<sup>ス</sup>下<sup>ニ</sup>お<sup>ハ</sup>其<sup>ハ</sup>韻<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>通<sup>ス</sup>音  
 此<sup>ハ</sup>連<sup>ス</sup>き<sup>ハ</sup>ゆる<sup>ハ</sup>處<sup>ハ</sup>は<sup>ハ</sup>り。色<sup>ハ</sup>字<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>人<sup>ハ</sup>名<sup>ハ</sup>よ<sup>シ</sup>色<sup>ハ</sup>許<sup>ハ</sup>や<sup>ハ</sup>連<sup>ス</sup>き<sup>ハ</sup>ゆる<sup>ハ</sup>め<sup>ハ</sup>の  
 音<sup>ハ</sup>なり。甲<sup>ハ</sup>字<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>。甲<sup>ハ</sup>斐<sup>ハ</sup>や<sup>ハ</sup>連<sup>ス</sup>き<sup>ハ</sup>ゆる<sup>ハ</sup>言<sup>ハ</sup>ふ<sup>ハ</sup>乃<sup>ハ</sup>み<sup>ハ</sup>書<sup>ク</sup>ふ<sup>ハ</sup>。甲<sup>ハ</sup>乃<sup>ハ</sup>韻<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>フ  
 乃<sup>ハ</sup>服<sup>ハ</sup>乃<sup>ハ</sup>韻<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>ク<sup>ハ</sup>あ<sup>ハ</sup>して<sup>ハ</sup>岐<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>其<sup>ハ</sup>通<sup>ス</sup>音<sup>ハ</sup>なり。あ<sup>ハ</sup>わ<sup>ハ</sup>か<sup>ハ</sup>く<sup>ハ</sup>あ<sup>ハ</sup>れ<sup>ハ</sup>し<sup>ハ</sup>。  
 此外<sup>ハ</sup>吉<sup>ハ</sup>備<sup>ハ</sup>吉<sup>ハ</sup>師<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>吉<sup>ハ</sup>字<sup>ハ</sup>あ<sup>ハ</sup>れ<sup>ハ</sup>や<sup>ハ</sup>も。國<sup>ハ</sup>名<sup>ハ</sup>又<sup>ハ</sup>姓<sup>ハ</sup>なり。正<sup>ハ</sup>し<sup>ハ</sup>き<sup>ハ</sup>假

字<sup>ハ</sup>例<sup>ハ</sup>や<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>し<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>異<sup>ハ</sup>なり。故<sup>ハ</sup>よ<sup>ハ</sup>吉<sup>ハ</sup>備<sup>ハ</sup>も<sup>ハ</sup>歌<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>岐<sup>ハ</sup>備<sup>ハ</sup>なり。  
 き假字の例<sup>ハ</sup>さ<sup>ハ</sup>して又同音<sup>ハ</sup>れ<sup>ハ</sup>中<sup>ハ</sup>お<sup>ハ</sup>も<sup>ハ</sup>其<sup>ハ</sup>言<sup>ハ</sup>に<sup>ハ</sup>隨<sup>ヒ</sup>て<sup>ハ</sup>用<sup>フ</sup>る<sup>ハ</sup>假<sup>ハ</sup>字  
 異<sup>ハ</sup>あ<sup>ハ</sup>して<sup>ハ</sup>各<sup>ハ</sup>定<sup>マ</sup>る<sup>ハ</sup>あ<sup>ハ</sup>や<sup>ハ</sup>多<sup>ク</sup>あり。其<sup>ハ</sup>例<sup>ハ</sup>を<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>は<sup>ハ</sup>ぐ<sup>ハ</sup>。コ<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>假  
 字<sup>ハ</sup>お<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>普<sup>ハ</sup>く<sup>ハ</sup>許<sup>ハ</sup>古<sup>ハ</sup>二<sup>ハ</sup>字<sup>ハ</sup>を<sup>ハ</sup>用<sup>ヒ</sup>し<sup>ハ</sup>中<sup>ハ</sup>お<sup>ハ</sup>子<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>古<sup>ハ</sup>字<sup>ハ</sup>を<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>み  
 書<sup>ク</sup>て<sup>ハ</sup>許<sup>ハ</sup>字<sup>ハ</sup>を<sup>ハ</sup>書<sup>ク</sup>ふ<sup>ハ</sup>く<sup>ハ</sup>や<sup>ハ</sup>あり。彦<sup>ハ</sup>壯<sup>ハ</sup>士<sup>ハ</sup>なり。メ<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>假<sup>ハ</sup>字<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>普<sup>ハ</sup>く  
 米<sup>ハ</sup>賣<sup>ハ</sup>二<sup>ハ</sup>字<sup>ハ</sup>を<sup>ハ</sup>用<sup>ヒ</sup>し<sup>ハ</sup>中<sup>ハ</sup>お<sup>ハ</sup>女<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>賣<sup>ハ</sup>字<sup>ハ</sup>を<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>み<sup>ハ</sup>書<sup>ク</sup>て<sup>ハ</sup>米<sup>ハ</sup>字<sup>ハ</sup>を  
 書<sup>ク</sup>る<sup>ハ</sup>く<sup>ハ</sup>や<sup>ハ</sup>あり。姫<sup>ハ</sup>處<sup>ハ</sup>女<sup>ハ</sup>なり。キ<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>岐<sup>ハ</sup>岐<sup>ハ</sup>紀<sup>ハ</sup>を<sup>ハ</sup>普<sup>ハ</sup>く<sup>ハ</sup>用<sup>ヒ</sup>し<sup>ハ</sup>  
 中<sup>ハ</sup>お<sup>ハ</sup>木<sup>ハ</sup>城<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>紀<sup>ハ</sup>を<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>み<sup>ハ</sup>書<sup>ク</sup>て<sup>ハ</sup>伎<sup>ハ</sup>岐<sup>ハ</sup>を<sup>ハ</sup>か<sup>ハ</sup>く<sup>ハ</sup>ト<sup>ハ</sup>お<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>登<sup>ハ</sup>斗<sup>ハ</sup>刀  
 を<sup>ハ</sup>普<sup>ハ</sup>く<sup>ハ</sup>用<sup>ヒ</sup>し<sup>ハ</sup>中<sup>ハ</sup>お<sup>ハ</sup>戸<sup>ハ</sup>太<sup>ハ</sup>問<sup>ハ</sup>乃<sup>ハ</sup>ト<sup>ハ</sup>お<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>斗<sup>ハ</sup>刀<sup>ハ</sup>を<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>み<sup>ハ</sup>書<sup>ク</sup>て<sup>ハ</sup>登<sup>ハ</sup>  
 を<sup>ハ</sup>か<sup>ハ</sup>く<sup>ハ</sup>ト<sup>ハ</sup>お<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>美<sup>ハ</sup>微<sup>ハ</sup>を<sup>ハ</sup>普<sup>ハ</sup>く<sup>ハ</sup>用<sup>ヒ</sup>し<sup>ハ</sup>中<sup>ハ</sup>お<sup>ハ</sup>神<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>三<sup>ハ</sup>木<sup>ハ</sup>草<sup>ハ</sup>の







○二合の假字

ろの人名や地名あり。

アム 淹 淹知 アムチ イニ 印 印惠命 印色之入日子命 イニエノイニシキノイリビコ イチ

壹 壹比韋壹師 イチヒキイチシ カグ 香 香山香用比賣 カグヤニカグヨヒメ カゴ 香 香 カゴ

余理比賣香坂王 ヨリヒヒメカゴサカノミコ グリ 群 平群 ヘグリ サガ 相 相模相樂 サガムサガカ

サヌ 讚 讚岐 サヌギ レキ 色 印色之入日子命 イニシキノイリビコ スク 宿 宿 スク

祢 夕二丹且 丹波且波 タニハタニハ タギ 當 當麻 タギマ チキ 直 阿 チキア

直 夕筑竺 筑紫竺紫 ツクシツクシ ツミ 曇 阿曇 アツミ ナニ 難 難 ナニ

波 夕伯 伯伎 夕力博 博多 ハカタ ホム 品 品遲部品 ホムヂベホム

夜和氣命 品陀和氣命 ヤワケノホムダワケノミコ ツ 末 末羅 ツラ ムク 目 高目郎 コムクシイラ

女 夕力樂 相樂 ツメラカ 凡て古書地名小此類の多し。

○借字 是も人名や地名の多し。

ウ 菟 工 江枝 力 鹿 蚊 キ 木 寸 ケ 毛 コ 子 サ 狹

シ 師 シハモウ音やををやぐて訓みし。借字は用ひ

夕 田 手 夕道千乳 ツ 津 テ 手代 ト 戸 砥 ナ 名

二 丹 又 野 沼 ネ 根 ハ 羽 齒 ヒ 日 氷 ヘ 戸 ホ 穂 大

一 間 真 目 三 見 海 御 三 メ 目 モ 裳 ヤ 屋 八 矢 ユ

湯 辛 井 ヲ 尾 小 男

上件の字やも常以多く借字小用ひし。但し此字やもを  
書るは皆借字なりし。正字ある處も多し。



又正字やも借字やもさざらふ辨子かきまやうと多々  
 正。又借字の此字がもに限るもあはれぬが大かき  
 挙はのみやめ。或人借字も即假字あはれ。別は借字やい  
 ろやの有はれもあはれ。又古書に假字ふ。訓を用ひしあ  
 かなやも云はれし。或やいふに精し。或假字借字い  
 ひもてゆまの同じあはれ。此記も書紀も。歌又  
 訓注や。訓を用ひしあはれ。一もなし。其の正しき假字  
 乃例は非るが故なり。此をもて。借字の別は一種あはれ  
 を知はし。別は一種あはれ。故は。其目を立て。借字やい云  
 ○二合れ借字

アナ穴	イク活	イチ市	イナ縮	イハ石	イヒ飯
イリ入	オシ忍押	カタ方	カネ金	カリ刈	クシ櫛
クヒ杖叩	クニ熊	クラ倉	サカ坂酒	シロ代	
スキ鋸	ツチ椎	ツヌ角	トリ鳥	ハタ幡	フル振
ニタ俣	ニヘ前	ミ、耳	モロ諸	ヨリ依	ワケ別
ヲリ折	こやうり一音れ借字や全ら同じ。二合				

の借字。上件乃外や。いや多かるを。今い。其中あま  
 と處は見あはれ。をえり出で。此彼あはれ。みあり。

○訓法の事

凡て古書の。語を嚴重め。なす中み。此記の殊は然ある







ア〜ッバ。古語を違字で記す。い〜の書取が〜を故。ま  
が人乃口ふ熟誦あ〜い〜を後。其言の随ふ書録さし  
免むの大御心より有る事むかし。當時書籍あ〜編む。人の語  
失は〜ぬ代われば。阿礼がよみや〜ひぢるも。漢文乃舊記  
は本始くや〜の云やも。語乃ふりや〜此間乃古語はか〜して  
口ふ唱あ〜る。免賜するものぞ。然せ〜て直は書  
より書ふあ〜る。免賜するものぞ。本乃漢文のあり離れあ〜る。れ  
ばなり。或人其時既は諸家乃記録やも。誤あり〜やあ〜る。ば  
阿礼の何の書ふよりや〜。実の古語をば。誦な〜る。ふら  
や疑ふ。其のそのあ〜る。誤なり。記録  
と遺しりもむを。よく擇〜る。取〜る。此大御志をよく思  
ひはより奉て。古語乃あ〜る。ふ次ま〜る。や。或知法し。  
ろゆが。大御國の學問の本なりを。〜し。語はあ〜る。ば  
〜る。義理をのみ旨やせむり。記録を作ら〜る。免むや

して。先人乃口ふ誦習は〜賜つむ。無用ごや〜る。然  
て次は。此記を撰らせ〜る。事を云る處も。舊辞の〜の  
ひゆ〜あやを惜み賜ひ。先紀の誤あるを正し給はる。や  
て。安万侶朝臣ふ仰せて。かの阿礼が誦ら〜る。勅語の  
舊辞を撰録さ〜る。あり。此處も。舊辞やあ〜る。を以て。此  
大御世の天皇に大御心ごし。或は。は〜り奉はる。彼  
淨御原天皇の撰録は及び賜りて。崩坐〜る。あ乃舊辞の  
阿礼が口は留まり〜る。此平城の大御世は至て。事遂行の  
せ賜り〜る。故安万侶朝臣の撰録さ〜る。〜る。彼天  
皇〜らの大御志のま〜る。旨や古語を嚴重くせ〜る。



わび灼然イナシロとして。高天原の註は訓高下天云阿麻アマトや志シ。天  
比登都柱ヒトツバシラの註は訓天如天テラノカミや志シ。或は讀聲ヨムコエに上下  
をさすふ委曲ツブラカし示シメし論サトしおのりしを也。如此有カレべ今是  
を訓むやほるあも。又上件ウヘノキの意をよく得て一字一言ヒトモシヒトコトの  
まじりもあざりふの法ホウまじり物モノぞして然シカるし。み嚴重オモシく  
ほるよあきそひの漢籍カラフミまじり後世ノチノヨ乃書ナラフをよむやの異コトありて。  
いゆしやほかぬあざりぬ。いで其由をいは争先マカて古  
記の漢文カンブンとして書キしゆべ。文乃まじり訓ムやきりしゆべ。一  
乃言の古言コトコトも其連接ツギキざる言コトばまじり。なほ漢文のふり  
にして皇國ミヤクニのよらあざり。故書紀コトコト乃古き訓ムあやも。文コトは拘カバ

らびて古語コトコト乃ふりれまじり附ツケし處おほし。然シカるゆも彼  
訓も後人の所為シラガれまじりゆりやおがし。猶漢文カラフミ訓のお  
りきりゆ。上は論ムネすまじり。如しおやわし平城ナラのころまじり。  
世人古語コトコトのふりをよくまじり。又當時ソノトキの言も。ゆり古レかりけ  
ゆ故は漢文カラフミ訓の差別ケヂメの。おのりしよく辨シすまじり。我  
後世ノチノヨの只漢籍カラフミはゆみ眼メやゆ。其讀ヨミはゆみ耳ミミ馴ナる癖クセの着ツキ  
ては。大か。これ語のさる。其漢カラのゆりや。此方コノれありゆ。をを  
辨シすは。か。さる。漢カラの方を美ミき。が如く聽キあて。萬マンの  
言。おのりし。其ふりゆ。移ウツり来キぬ。こゆ。おち。近代キ乃人  
古の詞コトがゆ。ひをばえ。まじり。文章ブツや。書キを見る。よ。次ツギ居  
て漢語カンゴ乃ふりゆ。まじり。漢文を假字カゼふか。まじり。如く







まゆイタ甚コトく異コトなりけるあゆを。おはうり知ルはうり。さて全モラ古語を以て訓むゆはうり。そのゆはうりかゝぬさざり。其故に古書のみに漢文として書て全ニタく古語のまゝなるが無ナきゆは。今何イッもふりよむ。そのゆはうりかゝぬさざり。とふ古記の中ゆ。往ヨウく古語のまゝゆ記シレせる處。さて續紀わゆの宣命ニシトの詞。まゝ延喜式の八卷なる諸祝詞ニシトわゆ。それらツぎ連ツきさツも何ニも。大方オホカタ此方コれ語乃コまゝわゆ。まゝさツまツさツも熟ウく讀ヨミ習ナラひて古語のふりもば知ルはうり。さて又此記や書紀や小載コも。歌ウタまゝ万葉集を熟ウく誦ヨミなツゆ。さツまツさツも殊ニは此記や書紀やの歌の露ツづツりも漢カラさツまツれツら

ぬ古コれ意言コノコトバめツていツゆもツ貴タカくありがツも物なり。此歌をよク見ミゆツ。言語ゴノコトバのさツまツいツはツ古コの世ヨナ間カ乃ナありまツ。人乃ヒト心ココロばツまツまツおツはツりツ知ルらツぬツ。後世コノヨ人のさツまツ乃ナ。むツがツさツまツさツまツ。義理コトワリ深コげツるツ説ツもツ。さツまツさツまツ。其の數カおツかツかツ。びツ廣ヒロうツ。ゆツて事コト足タラつぬを。万葉の歌數カいツ多タくツて。其中ナカの古言コノコトバのあツまツ縮チヂムくツ乃ナもツゆるツ。ゆツかツし。此集も訓ツの後世コノヨ誤アりツ。古言コノコトバゆツぬツさツまツいツゆツ多タくツ。その假字カはツかツまツ。哥ウタまツ。他乃ヒト哥ウタれ例コトバやツゆツをツよク考カ合アせて古語を撰ツぶツ。さて上ウ件ケンの書シヤゆツも則ツて訓ツはツうツ就ツて。又其中ナカゆツはツぐの意得コノコトあり。まツ古記の中ナカゆツもツ古語コノコトバゆツもツいツゆツ古コくツしてツみツやツびツやツのツなツゆツもツ助辞テニあツゆツ畧リヤクわツりツゆツ。聯ツ續ツさツまツの詳サタあツゆツ。次ツは宣命ニシト詞コトバ。那良ナラの朝チカ







多し大か<sup>ナラ</sup>那良よりあまの<sup>カ</sup>古語や定む<sup>カ</sup>今、  
京ゆ<sup>カ</sup>あて<sup>カ</sup>あ<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>次<sup>カ</sup>な<sup>カ</sup>て<sup>カ</sup>れ<sup>カ</sup>り<sup>カ</sup>ひ<sup>カ</sup>ご<sup>カ</sup>ま<sup>カ</sup>も<sup>カ</sup>古<sup>カ</sup>や<sup>カ</sup>變<sup>カ</sup>り<sup>カ</sup>る<sup>カ</sup>  
る<sup>カ</sup>や<sup>カ</sup>多<sup>カ</sup>く<sup>カ</sup>或<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>音<sup>カ</sup>便<sup>カ</sup>よ<sup>カ</sup>り<sup>カ</sup>て<sup>カ</sup>類<sup>カ</sup>多<sup>カ</sup>し<sup>カ</sup>言<sup>カ</sup>も<sup>カ</sup>多<sup>カ</sup>し<sup>カ</sup>音<sup>カ</sup>便<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>言<sup>カ</sup>  
書<sup>カ</sup>此<sup>カ</sup>訓<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>用<sup>カ</sup>ふ<sup>カ</sup>ま<sup>カ</sup>じ<sup>カ</sup>き<sup>カ</sup>る<sup>カ</sup>や<sup>カ</sup>り<sup>カ</sup>大<sup>カ</sup>御<sup>カ</sup>神<sup>カ</sup>を<sup>カ</sup>あ<sup>カ</sup>り<sup>カ</sup>ん<sup>カ</sup>か<sup>カ</sup>み<sup>カ</sup>臣<sup>カ</sup>  
を<sup>カ</sup>あ<sup>カ</sup>ん<sup>カ</sup>や<sup>カ</sup>讀<sup>カ</sup>む<sup>カ</sup>を<sup>カ</sup>ひ<sup>カ</sup>る<sup>カ</sup>ゆ<sup>カ</sup>り<sup>カ</sup>書<sup>カ</sup>紀<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>訓<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>か<sup>カ</sup>く<sup>カ</sup>こ<sup>カ</sup>ま<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>音<sup>カ</sup>  
便<sup>カ</sup>乃<sup>カ</sup>言<sup>カ</sup>わ<sup>カ</sup>り<sup>カ</sup>し<sup>カ</sup>○古<sup>カ</sup>今<sup>カ</sup>集<sup>カ</sup>を<sup>カ</sup>始<sup>カ</sup>め<sup>カ</sup>て<sup>カ</sup>物<sup>カ</sup>語<sup>カ</sup>文<sup>カ</sup>や<sup>カ</sup>り<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>か<sup>カ</sup>く<sup>カ</sup>こ<sup>カ</sup>ま<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>音<sup>カ</sup>  
中<sup>カ</sup>古<sup>カ</sup>乃<sup>カ</sup>雅<sup>カ</sup>言<sup>カ</sup>なり<sup>カ</sup>伊<sup>カ</sup>勢<sup>カ</sup>源<sup>カ</sup>氏<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>餘<sup>カ</sup>も<sup>カ</sup>物<sup>カ</sup>語<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>本<sup>カ</sup>より<sup>カ</sup>假<sup>カ</sup>字<sup>カ</sup>も<sup>カ</sup>  
て<sup>カ</sup>書<sup>カ</sup>く<sup>カ</sup>る<sup>カ</sup>物<sup>カ</sup>なる<sup>カ</sup>故<sup>カ</sup>に<sup>カ</sup>返<sup>カ</sup>て<sup>カ</sup>古<sup>カ</sup>書<sup>カ</sup>より<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>語<sup>カ</sup>好<sup>カ</sup>き<sup>カ</sup>ふ<sup>カ</sup>漢<sup>カ</sup>氣<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>ま<sup>カ</sup>  
い<sup>カ</sup>ら<sup>カ</sup>び<sup>カ</sup>て<sup>カ</sup>ま<sup>カ</sup>さ<sup>カ</sup>め<sup>カ</sup>る<sup>カ</sup>る<sup>カ</sup>や<sup>カ</sup>あり<sup>カ</sup>さ<sup>カ</sup>る<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>漢<sup>カ</sup>文<sup>カ</sup>より<sup>カ</sup>出<sup>カ</sup>る<sup>カ</sup>語<sup>カ</sup>も<sup>カ</sup>  
多<sup>カ</sup>く<sup>カ</sup>字<sup>カ</sup>音<sup>カ</sup>れ<sup>カ</sup>言<sup>カ</sup>も<sup>カ</sup>あ<sup>カ</sup>り<sup>カ</sup>ゆ<sup>カ</sup>り<sup>カ</sup>ゆ<sup>カ</sup>も<sup>カ</sup>そ<sup>カ</sup>ゆ<sup>カ</sup>り<sup>カ</sup>な<sup>カ</sup>が<sup>カ</sup>い<sup>カ</sup>皇<sup>カ</sup>國<sup>カ</sup>語<sup>カ</sup>乃<sup>カ</sup>ふ<sup>カ</sup>  
ま<sup>カ</sup>ふ<sup>カ</sup>か<sup>カ</sup>ま<sup>カ</sup>れ<sup>カ</sup>ば<sup>カ</sup>漢<sup>カ</sup>あ<sup>カ</sup>る<sup>カ</sup>ご<sup>カ</sup>好<sup>カ</sup>なり<sup>カ</sup>ゆ<sup>カ</sup>り<sup>カ</sup>中<sup>カ</sup>古<sup>カ</sup>乃<sup>カ</sup>文<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>事<sup>カ</sup>も<sup>カ</sup>別<sup>カ</sup>に<sup>カ</sup>  
委<sup>カ</sup>き<sup>カ</sup>論<sup>カ</sup>但<sup>カ</sup>し<sup>カ</sup>古<sup>カ</sup>や<sup>カ</sup>後<sup>カ</sup>世<sup>カ</sup>や<sup>カ</sup>も<sup>カ</sup>ろ<sup>カ</sup>く<sup>カ</sup>れ<sup>カ</sup>言<sup>カ</sup>あ<sup>カ</sup>ゆ<sup>カ</sup>ぐ<sup>カ</sup>異<sup>カ</sup>なる<sup>カ</sup>もの<sup>カ</sup>  
あり<sup>カ</sup>み<sup>カ</sup>も<sup>カ</sup>あ<sup>カ</sup>る<sup>カ</sup>中<sup>カ</sup>古<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>神<sup>カ</sup>代<sup>カ</sup>も<sup>カ</sup>中<sup>カ</sup>古<sup>カ</sup>も<sup>カ</sup>今<sup>カ</sup>世<sup>カ</sup>も<sup>カ</sup>全<sup>カ</sup>同<sup>カ</sup>く<sup>カ</sup>て<sup>カ</sup>か<sup>カ</sup>は<sup>カ</sup>る<sup>カ</sup>  
ぬ<sup>カ</sup>言<sup>カ</sup>も<sup>カ</sup>亦<sup>カ</sup>多<sup>カ</sup>あ<sup>カ</sup>る<sup>カ</sup>其<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>必<sup>カ</sup>し<sup>カ</sup>も<sup>カ</sup>後<sup>カ</sup>世<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>り<sup>カ</sup>ひ<sup>カ</sup>ご<sup>カ</sup>ま<sup>カ</sup>ふ<sup>カ</sup>同<sup>カ</sup>く<sup>カ</sup>や<sup>カ</sup>

て<sup>カ</sup>避<sup>カ</sup>け<sup>カ</sup>よ<sup>カ</sup>ふ<sup>カ</sup>あ<sup>カ</sup>る<sup>カ</sup>然<sup>カ</sup>る<sup>カ</sup>後<sup>カ</sup>世<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>言<sup>カ</sup>や<sup>カ</sup>同<sup>カ</sup>く<sup>カ</sup>き<sup>カ</sup>を<sup>カ</sup>ば<sup>カ</sup>嫌<sup>カ</sup>ひ<sup>カ</sup>て<sup>カ</sup>  
き<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>中<sup>カ</sup>く<sup>カ</sup>強<sup>カ</sup>事<sup>カ</sup>な<sup>カ</sup>り<sup>カ</sup>て<sup>カ</sup>正<sup>カ</sup>し<sup>カ</sup>か<sup>カ</sup>く<sup>カ</sup>ご<sup>カ</sup>る<sup>カ</sup>る<sup>カ</sup>や<sup>カ</sup>多<sup>カ</sup>し<sup>カ</sup>近<sup>カ</sup>き<sup>カ</sup>あ<sup>カ</sup>  
る<sup>カ</sup>古<sup>カ</sup>学<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>ゆ<sup>カ</sup>り<sup>カ</sup>も<sup>カ</sup>か<sup>カ</sup>る<sup>カ</sup>元<sup>カ</sup>て<sup>カ</sup>那<sup>カ</sup>ご<sup>カ</sup>る<sup>カ</sup>う<sup>カ</sup>ゆ<sup>カ</sup>耳<sup>カ</sup>な<sup>カ</sup>れ<sup>カ</sup>る<sup>カ</sup>言<sup>カ</sup>を<sup>カ</sup>ば<sup>カ</sup>  
み<sup>カ</sup>な<sup>カ</sup>後<sup>カ</sup>世<sup>カ</sup>乃<sup>カ</sup>こ<sup>カ</sup>も<sup>カ</sup>や<sup>カ</sup>心<sup>カ</sup>得<sup>カ</sup>て<sup>カ</sup>必<sup>カ</sup>ず<sup>カ</sup>な<sup>カ</sup>る<sup>カ</sup>る<sup>カ</sup>い<sup>カ</sup>ら<sup>カ</sup>聞<sup>カ</sup>な<sup>カ</sup>れ<sup>カ</sup>  
ぬ<sup>カ</sup>さ<sup>カ</sup>ら<sup>カ</sup>なる<sup>カ</sup>を<sup>カ</sup>乃<sup>カ</sup>み<sup>カ</sup>古<sup>カ</sup>言<sup>カ</sup>や<sup>カ</sup>り<sup>カ</sup>る<sup>カ</sup>い<sup>カ</sup>ひ<sup>カ</sup>が<sup>カ</sup>あ<sup>カ</sup>ゆ<sup>カ</sup>なり<sup>カ</sup>さて<sup>カ</sup>又<sup>カ</sup>古<sup>カ</sup>  
書<sup>カ</sup>れ<sup>カ</sup>中<sup>カ</sup>古<sup>カ</sup>い<sup>カ</sup>ら<sup>カ</sup>考<sup>カ</sup>へ<sup>カ</sup>る<sup>カ</sup>も<sup>カ</sup>真<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>古<sup>カ</sup>言<sup>カ</sup>め<sup>カ</sup>訓<sup>カ</sup>が<sup>カ</sup>る<sup>カ</sup>る<sup>カ</sup>や<sup>カ</sup>あり<sup>カ</sup>  
其<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>も<sup>カ</sup>や<sup>カ</sup>古<sup>カ</sup>言<sup>カ</sup>れ<sup>カ</sup>傳<sup>カ</sup>へ<sup>カ</sup>る<sup>カ</sup>る<sup>カ</sup>後<sup>カ</sup>に<sup>カ</sup>漢<sup>カ</sup>字<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>移<sup>カ</sup>せ<sup>カ</sup>る<sup>カ</sup>や<sup>カ</sup>れ<sup>カ</sup>  
ば<sup>カ</sup>本<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>古<sup>カ</sup>言<sup>カ</sup>め<sup>カ</sup>復<sup>カ</sup>へ<sup>カ</sup>る<sup>カ</sup>難<sup>カ</sup>き<sup>カ</sup>こ<sup>カ</sup>ゆ<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>あ<sup>カ</sup>る<sup>カ</sup>ま<sup>カ</sup>じ<sup>カ</sup>き<sup>カ</sup>る<sup>カ</sup>や<sup>カ</sup>あり<sup>カ</sup>な<sup>カ</sup>  
る<sup>カ</sup>が<sup>カ</sup>も<sup>カ</sup>漢<sup>カ</sup>文<sup>カ</sup>よ<sup>カ</sup>り<sup>カ</sup>傳<sup>カ</sup>へ<sup>カ</sup>る<sup>カ</sup>後<sup>カ</sup>初<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>古<sup>カ</sup>言<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>絶<sup>カ</sup>て<sup>カ</sup>お<sup>カ</sup>る<sup>カ</sup>る<sup>カ</sup>  
ゆ<sup>カ</sup>も<sup>カ</sup>有<sup>カ</sup>る<sup>カ</sup>又<sup>カ</sup>皇<sup>カ</sup>國<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>上<sup>カ</sup>代<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>萬<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>物<sup>カ</sup>も<sup>カ</sup>事<sup>カ</sup>に<sup>カ</sup>も<sup>カ</sup>あ<sup>カ</sup>ま<sup>カ</sup>り<sup>カ</sup>細<sup>カ</sup>  
よ<sup>カ</sup>分<sup>カ</sup>て<sup>カ</sup>名<sup>カ</sup>稱<sup>カ</sup>を<sup>カ</sup>い<sup>カ</sup>著<sup>カ</sup>げ<sup>カ</sup>な<sup>カ</sup>る<sup>カ</sup>る<sup>カ</sup>れ<sup>カ</sup>言<sup>カ</sup>語<sup>カ</sup>は<sup>カ</sup>く<sup>カ</sup>な<sup>カ</sup>る<sup>カ</sup>る<sup>カ</sup>あ<sup>カ</sup>ゆ<sup>カ</sup>足<sup>カ</sup>せ<sup>カ</sup>  
る<sup>カ</sup>城<sup>カ</sup>漢<sup>カ</sup>國<sup>カ</sup>な<sup>カ</sup>る<sup>カ</sup>る<sup>カ</sup>や<sup>カ</sup>な<sup>カ</sup>る<sup>カ</sup>言<sup>カ</sup>痛<sup>カ</sup>き<sup>カ</sup>風<sup>カ</sup>俗<sup>カ</sup>よ<sup>カ</sup>り<sup>カ</sup>何<sup>カ</sup>事<sup>カ</sup>も<sup>カ</sup>あ<sup>カ</sup>る<sup>カ</sup>も<sup>カ</sup>あ<sup>カ</sup>ま<sup>カ</sup>



アヤシキマゴト細小名称のあるやれば此間よのぬが大方  
小言傳ヲ来ルコト也。文字小移以ヤキ其レ名称のあ  
はる當テ書ふコト也。有テ。さる類ハ本ヨリレ古言  
ハ無キヤ。ハズテ字音あぐの讀ハ。な。ひ。あ。り。し  
ク。其。状。ニ。從。ヒ。テ。新。小。訓。を。造。ア。ル。も。有。テ。し。あ。や。か。ら。那  
ヤ。マ。ダ。ウ。ノ。ヨ。ウ。ガ。ノ。名。稱。ヤ。ヤ。も。字。音。な。ぐ。唱。ふ。る。コト。ハ。  
を。さ。く。な。り。ゆ。き。漢。籍。を。よ。む。み。し。よ。ま。あ。か。ざ。り。ハ。訓。小  
ヨ。ミ。其。ハ。真。レ。古。言。ヤ。ハ。お。の。ち。く。同。ジ。カ。ク。物。ヤ。ハ。ヤ  
も。那。良。ま。ぐ。ふ。出。來。ル。ハ。ヤ。カ。古。言。ヤ。定。案。テ。衣。さ。ぬ。時  
ハ。用。ふ。テ。し。さ。そ。又。此。記。ハ。彼。阿。礼。ガ。口。小。誦。習。ヲ。録。シ  
ル。物。ヤ。中。小。ハ。上。代。の。ま。く。小。傳。ハ。ウ。リ。ヤ。聞。ゆ。語

も多ク。又當時の語ヲヤ。お。か。た。處。も。お。や。れ。ば。悉。く  
上。代。の。語。ハ。訓。カ。ク。し。さ。れ。ば。な。げ。し。地。を。阿。礼。ガ。語。ヤ  
定。免。テ。そ。の。代。乃。ク。後。リ。字。を。も。テ。訓。讀。キ。ヤ。リ。さ。そ。又。意  
得。テ。ハ。あ。や。あり。同。言。レ。い。く。處。も。あ。る。を。一。ハ。委。く。書。キ。  
一。ハ。字。を。畧。キ。し。る。ハ。委。キ。方。ヤ。相。照。シ。テ。畧。シ。方。を。も。辞  
を。添。テ。訓。讀。キ。ヤ。リ。其。例。を。い。は。ぶ。成。坐。流。神。之。御。名。者。ハ。い  
ぬ。語。を。成。神。名。ヤ。も。所。成。坐。神。名。ヤ。も。所。成。神。御。名。ヤ。も。書。シ  
は。が。如。キ。所。字。坐。字。御。字。ノ。ゴ。ヒ。小。畧。キ。も。一。詳。も。書。は。し  
テ。皆。同。語。ナ。リ。夜。見。國。の。汚。穢。ハ。因。テ。成。キ。ル。ハ。十。禰。津。日。神  
神。ノ。ウ。ラ。ヨ。ハ。天。照。大。御。神。ノ。以。テ。只。所。成。ヤ。カ。キ。テ。坐。字。を。畧  
キ。ハ。是。意。あり。て。あ。や。さ。く。か。く。書。ふ。物。ハ。一。テ。畧。キ。ル



方あり。必添て訓法集法を志せしむ。然るに此格を  
さしおぼしめし。ゆくりゆくり本に乱れ誤り。物やわりの  
ひびあ。まこと上巻ふ天照大御神の詔。如拜吾前云々。中巻  
は大物主神の御言ふ。令祭我御前者云々。御字畧け  
依方あり。必添て訓法よあゆ志し。元て御坐賜奉むの  
字の多し。畧けし。又添ても書は處のあるを以て。  
餘をも准り訓法し。又同言を。一の假字。一の漢文。又書は  
やあり。其の漢文なる方も。假字の方ふ。ひて訓法し。  
立天浮橋やも書き。於天浮橋多く志やもか。あつがあゆし。  
此立字の注。訓立云多し。志やある。元て此類。不伏  
假字書の方。倣ひて訓法し。例字思ひせむ。物やめ。不伏  
人。麻都漏波奴人。やも書は。是も同じ。又同じ。あゆれあ

やも。一の古語。あ。一の漢文の格。又書はあゆあり。神世  
七代乃注。上二柱。獨神各云。一代。次。雙十神。各合。二神云。一  
代也。や書るが如き。二柱の古語。十神二神の漢文。あゆ。古  
語の方。倣ひて。十神をも。十柱。二神。二柱。や訓法し。如  
此一段の内。同格の言を。古語や漢文。又書變し。古  
語の方を。則や。訓法し。元ての例を志し。他  
段。神の数の擧。或の若干神。或の若干柱。書  
し。あ。みな准り。訓法し。中下巻。御世。の皇子。の  
又二柱。神三柱。神。や。書は。此類。の柱。小言を添。ま。神字を  
も訓法し。其処の文の。又全。一句。や。あゆ



の漢文にして古語のいひ遠き書ざまなる處も往々に  
あるものなる殊に字には拘りもなきに其意を得て其  
事此と爲るは隨ひてかたよひなき古言を思ひ求めて訓  
書紀神代卷小顧眊之間此云美屢摩沙可利尔也  
其例なり又崇峻御卷哀不忍聽也あるとイトホシガリ  
又二ヒテ也訓るなりも訓注のなきものも其例はかたよ  
り凡て書紀の訓は古語多し其の多く此記の本を據て  
附くる物ぞ也ト部氏の釋もいすも信小然なり文字小  
かたよぬ古き訓は此記の言を取らざる多し然るも今  
又此記の訓を求むる返して又書紀の訓を取らざる也

を多し其の此記は漢文は読み書て假字書びざるも  
處あつて漏るる古語のこまかく彼紀の訓はなされる  
とありはなり此記を訓なきあつるば言大概上件の如し  
なり其處もいふは

○凡て言ひ且尔表波を以て連接はれあつてその且尔  
表波より言連接のさかぐれ意もあらは分はる  
ざるなりかして是を用ふるは上下相協ひて嚴ある格なり  
しあれは今古記を古語に訓むもそのよき考へて正  
しくはざるなり然るに漢文の助字もあれ且尔表波  
はのみして且尔表波の如くあまりに意を分ちざる  
に及ばぬものなり故助字のなるとも文意の聞ゆるなり



さて古記のみを漢文なり。其を訓ふ。且尔表波の訓者乃  
心もて定むる。且尔表波の訓者乃。其格まりを明  
らう。知識する人なくして。誤るる。常多し。抑漢文の意を  
どうも。得てよ。然る。其訓語も。意のり。ゆゑも。違ひ。ざれ。や。も。  
且尔表波の。や。ひの。違ひ。その格。や。も。字。いは。多。よ。の。種。  
ら。ひ。の。雅語。よ。の。あ。ひ。の。違ひ。その格。や。も。字。いは。多。よ。の。種。  
種。の。あ。ひ。あり。て。甚。く。長。を。ぬ。ば。し。や。次。く。此。の。如。く。難。  
し。故。此。の。別。ふ。委。曲。よ。あ。る。せ。は。物。あ。る。なり。

○假字の清濁乃事。上ふ云は如く。此記まこと書紀万葉の分  
て用ひし。中ふ。此記の殊。正し。をぬ。ば。嚴。よ。その清濁を  
守。り。て。讀。ま。し。し。一。や。し。守。り。て。私。よ。輒。く。變。讀。ま。し。ふ。あ。る。は。  
古。の。後。世。や。の。清。濁。の。か。り。ぬ。る。言。も。多。を。ぬ。ば。今。世。の。言。れ  
例。よ。の。か。り。は。り。ぬ。る。を。ぬ。ば。なり。官。人。里。人。の。如。き。官。人。の  
比。よ。の。古。書。の。假。字。何。も。

もみ。清音の比を乃み書き。里人の比よの濁音乃昆をの  
み書き。然るを此類。凡て連言。比下乃言の頭。皆濁る。例。や。  
心得る。が。あ。や。き。の。む。が。あ。や。なり。其言よ。ゆ。り。て。清。濁。定。ま  
ら。ざる。あ。や。右。乃。ご。や。し。大方。近。き。る。古。学。乃。徒。殊。濁。音  
を。好。み。て。濁。ゆ。ま。し。き。言。を。も。多。く。濁。る。を。古。言。乃。ご。や。思。ふ  
然。る。の。む。が。あ。や。なり。あ。や。古。書。の。假。字。が。あ。ひ。を。よ。く。考。合  
せ。し。よ。む。は。き。  
ま。ご。ご。か。

○古言れ聲の上。下。の事。神御名。や。の。内。上。字。を。小  
く書添。し。る。處。あ。る。の。漢。國。よ。定。む。四。聲。れ。目。を。假。て。讀  
音。の。上。下。或。示。し。ぬ。る。もの。なり。凡て漢語の音よの。平。上。去  
入。や。四。乃。別。あり。此。方。れ。語。も。彼。よ。准。り。て。云。ば。平。上。去。の。三  
聲。あり。入。声。の。や。し。其。由。の。契。沖。が。云。く。平。上。去。の。三。聲。を。一  
別。よ。委。く。り。ぬ。は。し。契。沖。が。云。く。平。上。去。の。三。聲。を。一  
音。の。言。よ。て。い。は。ぶ。日。の。平。樋。の。上。火。の。去。なり。毛。の。平。聲。の











しゝぬいゝうりぢや。

○いゝゆゑ 助字ジヨシの類ヒコラシクニ記中用ひざる種クサビあり。或いゝ漢文の方タスケれ助は置タケはのみよて古語クワの關ツカらぬも有り。或ハ漢文の方タスケよいぢや。いゝて置タケるがやがて古語クワよわなすも有。或ハ漢文のわタケよて置タケるがやがて古語クワよわなすも有。いぢもいゝよれぢよハ漢籍カンシヤクよて讀クやハ異イあるあやあり。故コト今イマこゝおその助字ジヨシれレもひ。又其餘ホカも常トクお出デは字ジやも字ジも。此コノ彼集ヒツ出デして訓クニはけをあげぢや。之コノ能スや訓クニよ尋常ヨソツネれぢや。但シし必ス讀ムはけを必ス讀ムはけ也。あり。大凡オホカマ用言ハタラキコトよ属ツキゝ。漢文カンブン乃格ノキあり。捨スレて訓クニはけ

らレ吾アガ所生ウメレ之子ノミコ。まレ出向イデムカラ之時ノトキ。この類レを能スや。よむハ皇国語クニ。又レ漢籍カンシヤク讀ム乃癖ノクセの移ウツリ也。いゝあも之ノを加カす。體言キコトバハ属ツキは必ス讀ムはけ。天アメ之某國ノナニクニ之某ノナニの類レ淡路ヒアサ之穗ノホ之狹別ノサワケあり。如カ此クも此ク能スて小辞コジ讀ム添ソフはけ處トコロハ。丁寧タシカに之ノ字ジを書キ添ソフて。古語コゴを明アらりおせり。後世コトノチお誤アり。能スを畧ハブキてよむもひ。此コノ記キよ依ヨて正タはる。國クニ之常立トクニタチ神カミをクニトコト。又レ一方ツコの昔ムカシハ漢文カンブンよ用ヨウひなす。之ノ字ジあり。凡ソトて句終クワヘあり。小置コヅキる。漢人カンジン乃書カキる格キお違チガふ。書紀シキやぢも多オホシきあり。そのあぢひ必ス訓クニはけ。云クニハ之ノぢや。之ノ字ジもよむはけ。まレ云クニ字ジや互タカヒよ写カキし誤アり。處トコロ多オホシし。詔ミコトノコト之ノを詔ミコトノコト云クニやも作カけ



類あり。この何れも古語の方よあぢくぐれ。訓  
 ぬ例あり。於<sup>ニ</sup>近<sup>ニ</sup>訓字なり。於<sup>ニ</sup>某<sup>ナニ</sup>用ひし。凡て古書此  
 格多し。者<sup>ハ</sup>波<sup>ハ</sup>訓<sup>ニ</sup>之<sup>ヲ</sup>部<sup>ニ</sup>ぬ<sup>ル</sup>乃<sup>ハ</sup>如<sup>シ</sup>。又<sup>ニ</sup>於<sup>ニ</sup>今<sup>ニ</sup>者<sup>ハ</sup>ある。この  
 伊<sup>ハ</sup>麻<sup>ハ</sup>云<sup>フ</sup>添<sup>ル</sup>。この別<sup>ニ</sup>者<sup>ハ</sup>字<sup>ハ</sup>のよむまじきなり。又  
 者也<sup>ハ</sup>ある者<sup>ハ</sup>字<sup>ハ</sup>も。訓<sup>ニ</sup>之<sup>ヲ</sup>部<sup>ニ</sup>ぬ<sup>ル</sup>。而<sup>レ</sup>且<sup>テ</sup>訓<sup>ニ</sup>之<sup>ヲ</sup>部<sup>ニ</sup>ぬ<sup>ル</sup>の<sup>ハ</sup>乃<sup>ハ</sup>ぞや  
 一<sup>ニ</sup>又<sup>ニ</sup>從<sup>ニ</sup>八十<sup>ノ</sup>神<sup>ノ</sup>之<sup>ヲ</sup>教<sup>ニ</sup>而<sup>レ</sup>之<sup>ヲ</sup>志<sup>ニ</sup>氏<sup>ヲ</sup>訓<sup>ニ</sup>て<sup>シ</sup>爲<sup>シ</sup>而<sup>レ</sup>の<sup>ハ</sup>意<sup>ハ</sup>あり。  
 常<sup>ニ</sup>志<sup>ニ</sup>氏<sup>ヲ</sup>訓<sup>ニ</sup>て<sup>シ</sup>の<sup>ハ</sup>意<sup>ハ</sup>異<sup>ニ</sup>なり。又<sup>ニ</sup>常<sup>ノ</sup>の<sup>ハ</sup>如<sup>シ</sup>ま<sup>シ</sup>。隨<sup>ニ</sup>云<sup>ク</sup>而<sup>レ</sup>也<sup>ハ</sup>  
 教<sup>ニ</sup>之<sup>ヲ</sup>ガ<sup>ハ</sup>テ<sup>ハ</sup>訓<sup>ニ</sup>も<sup>ハ</sup>古<sup>ノ</sup>語<sup>ハ</sup>非<sup>ズ</sup>。ま<sup>シ</sup>。隨<sup>ニ</sup>云<sup>ク</sup>而<sup>レ</sup>也<sup>ハ</sup>  
 此<sup>ハ</sup>隨<sup>ニ</sup>を<sup>レ</sup>麻<sup>ニ</sup>爾<sup>ニ</sup>麻<sup>ニ</sup>爾<sup>ニ</sup>訓<sup>ニ</sup>て<sup>シ</sup>而<sup>レ</sup>字<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>訓<sup>ニ</sup>之<sup>ヲ</sup>部<sup>ニ</sup>ぬ<sup>ル</sup>。字<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>シ<sup>カ</sup>ガ  
 漢<sup>ノ</sup>文<sup>ハ</sup>ぞま<sup>シ</sup>添<sup>ル</sup>て<sup>シ</sup>書<sup>ク</sup>る<sup>ハ</sup>なり。○凡て而<sup>レ</sup>字<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>漢<sup>ノ</sup>文<sup>ハ</sup>ぞま<sup>シ</sup>の<sup>ハ</sup>  
 句<sup>ハ</sup>頭<sup>ニ</sup>よ<sup>リ</sup>め<sup>ル</sup>也<sup>ハ</sup>。御<sup>ノ</sup>國<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>必<sup>ズ</sup>言<sup>フ</sup>乃<sup>ハ</sup>下<sup>ニ</sup>附<sup>シ</sup>辭<sup>ハ</sup>なり。矣<sup>ハ</sup>袁<sup>ノ</sup>  
 此<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>辭<sup>ハ</sup>用<sup>ヒ</sup>し<sup>ハ</sup>地<sup>ハ</sup>矣<sup>ハ</sup>阿<sup>ハ</sup>多<sup>ハ</sup>良<sup>ハ</sup>斯<sup>ハ</sup>登<sup>ハ</sup>許<sup>ハ</sup>曾<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>如<sup>シ</sup>。此<sup>ハ</sup>

例万葉あぢくも多し。後<sup>ニ</sup>世<sup>ノ</sup>の<sup>ハ</sup>絶<sup>テ</sup>て<sup>シ</sup>又<sup>ニ</sup>漢<sup>ノ</sup>文<sup>ハ</sup>乃<sup>ハ</sup>助<sup>ノ</sup>字<sup>ハ</sup>あ  
 ほもあり。乎<sup>ハ</sup>夜<sup>ハ</sup>也<sup>ハ</sup>。加<sup>カ</sup>也<sup>ハ</sup>。夜<sup>ハ</sup>母<sup>ハ</sup>也<sup>ハ</sup>。加<sup>カ</sup>母<sup>ハ</sup>也<sup>ハ</sup>。語<sup>ノ</sup>の<sup>ハ</sup>さ<sup>ハ</sup>る<sup>ハ</sup>  
 隨<sup>ニ</sup>て<sup>シ</sup>訓<sup>ニ</sup>之<sup>ヲ</sup>部<sup>ニ</sup>ぬ<sup>ル</sup>。哉<sup>ハ</sup>大<sup>ニ</sup>乎<sup>ノ</sup>字<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>訓<sup>ニ</sup>之<sup>ヲ</sup>部<sup>ニ</sup>ぬ<sup>ル</sup>。同<sup>シ</sup>。加<sup>カ</sup>那<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>古<sup>ノ</sup>言<sup>ハ</sup>  
 ろま<sup>シ</sup>の<sup>ハ</sup>加<sup>カ</sup>那<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>辭<sup>ハ</sup>なり。其<sup>ノ</sup>ハ<sup>ハ</sup>万<sup>ノ</sup>葉<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>み<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>加<sup>カ</sup>  
 母<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>辭<sup>ハ</sup>なり。其<sup>ノ</sup>ハ<sup>ハ</sup>万<sup>ノ</sup>葉<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>み<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>加<sup>カ</sup>  
 訓<sup>ニ</sup>之<sup>ヲ</sup>部<sup>ニ</sup>ぬ<sup>ル</sup>。誤<sup>ニ</sup>なり。書<sup>ニ</sup>紀<sup>ニ</sup>も<sup>ハ</sup>此<sup>ノ</sup>字<sup>ハ</sup>也<sup>ハ</sup>。加<sup>カ</sup>也<sup>ハ</sup>。漢<sup>ノ</sup>文<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>助<sup>ノ</sup>字<sup>ハ</sup>も<sup>ハ</sup>用<sup>ヒ</sup>  
 夜<sup>ハ</sup>ま<sup>シ</sup>。柯<sup>ハ</sup>安<sup>ハ</sup>也<sup>ハ</sup>。訓<sup>ニ</sup>注<sup>ニ</sup>あり。也<sup>ハ</sup>。漢<sup>ノ</sup>文<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>助<sup>ノ</sup>字<sup>ハ</sup>も<sup>ハ</sup>用<sup>ヒ</sup>  
 あり。其中<sup>ニ</sup>那<sup>ハ</sup>理<sup>ハ</sup>云<sup>フ</sup>て<sup>シ</sup>宜<sup>シ</sup>き<sup>ハ</sup>處<sup>ニ</sup>置<sup>ク</sup>る<sup>ハ</sup>多<sup>シ</sup>き<sup>ハ</sup>なり。漢<sup>ノ</sup>籍<sup>ハ</sup>  
 も。那<sup>ハ</sup>理<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>辭<sup>ハ</sup>なり。其<sup>ノ</sup>ハ<sup>ハ</sup>万<sup>ノ</sup>葉<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>み<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>加<sup>カ</sup>  
 訓<sup>ニ</sup>之<sup>ヲ</sup>部<sup>ニ</sup>ぬ<sup>ル</sup>。然<sup>レ</sup>も<sup>ハ</sup>奈<sup>ハ</sup>良<sup>ハ</sup>乃<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>辭<sup>ハ</sup>なり。其<sup>ノ</sup>ハ<sup>ハ</sup>万<sup>ノ</sup>葉<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>み<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>加<sup>カ</sup>  
 字<sup>ハ</sup>を<sup>レ</sup>定<sup>メ</sup>て<sup>シ</sup>用<sup>ヒ</sup>る<sup>ハ</sup>乃<sup>ハ</sup>み<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>辭<sup>ハ</sup>なり。其<sup>ノ</sup>ハ<sup>ハ</sup>万<sup>ノ</sup>葉<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>み<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>加<sup>カ</sup>  
 用<sup>ヒ</sup>る<sup>ハ</sup>乃<sup>ハ</sup>み<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>辭<sup>ハ</sup>なり。其<sup>ノ</sup>ハ<sup>ハ</sup>万<sup>ノ</sup>葉<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>み<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>加<sup>カ</sup>  
 ま<sup>シ</sup>の<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>辭<sup>ハ</sup>なり。其<sup>ノ</sup>ハ<sup>ハ</sup>万<sup>ノ</sup>葉<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>み<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>加<sup>カ</sup>  
 此<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>辭<sup>ハ</sup>なり。其<sup>ノ</sup>ハ<sup>ハ</sup>万<sup>ノ</sup>葉<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>み<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>加<sup>カ</sup>  
 只<sup>ハ</sup>馬<sup>ハ</sup>字<sup>ハ</sup>なり。同<sup>シ</sup>の<sup>ハ</sup>助<sup>ノ</sup>字<sup>ハ</sup>も<sup>ハ</sup>置<sup>ク</sup>る<sup>ハ</sup>書<sup>ニ</sup>紀<sup>ニ</sup>も<sup>ハ</sup>然<sup>ル</sup>例<sup>ハ</sup>



あり。焉カ漢文乃方礼助字なり。故語の下にあり。由惠ユエ也。由惠ユエ尔ニ也。訓之。常礼如カ。輕嶋宮段大御哥志波カ。書紀雄畧御卷哥也。耶麼能謎能故思廢古喻カ。又句頭カあり。衛尔ニ云々。か。ま。は。是。も。り。や。古。き。言。を。あ。り。又。句。頭。に。あ。る。を。ば。迦礼カや訓レ也。其の記中礼殊カあり。其中礼此字礼意カ。まはあ。び。て。次乃語を發カひ。て。於是カ。や。い。ふ。法。よ。處カに置カは。い。や。多。し。そ。れ。よ。お。も。て。思。ふ。よ。迦礼カの。迦礼カの。迦礼カの。切カ也。辞カあ。る。多。う。迦礼カの。迦礼カの。如カ此有者カ。上を承カて。次乃語を發カひ。言。を。あ。り。て。其。を。切カ也。い。迦礼カの。迦礼カの。い。ふ。法。よ。婆カを。も。畧カげ。る。い。い。う。み。や。い。ふ。よ。古語カよ。婆カを。畧カま。て。婆カ乃意カあり。例多カし。

此例万葉多し。又長哥也。奴礼婆都礼婆カ。出カ。

あ。や。云。法。き。處。を。婆カを。省カま。て。奴礼カ都礼カ然カて。その。迦礼カの。故。字。を。書。は。い。い。う。なる。由カら。い。い。ふ。よ。元カて。祁婆カ泥カ婆カ閑カ婆カ。礼カ婆カの。類カの。由カ惠カの。い。ぬ。意カに。通カふ。例。多。し。也。第四音より。故乃意カに。通カふ。多。し。ゆ。け。ば。な。り。ま。る。や。い。ま。る。ゆ。く。故カなり。あり。れ。意カに。通カひ。あ。れ。ば。な。り。や。い。ま。る。あ。る。故カな。り。や。い。い。ふ。よ。通カふ。如カし。迦礼カの。礼カ婆カの。如カ是有故カの。い。い。ふ。よ。通カふ。を。以。て。此字カを。當カる。る。に。い。ふ。法。よ。良カの。礼カの。加カ良カ乃カ法カ轉カき。ま。る。る。か。や。い。ふ。法。よ。思カふ。子カ也。然カり。の。あ。い。ふ。法。よ。良カの。別カを。い。ふ。法。よ。又カ漢籍カよ。て。句カ頭カに。あ。る。故カ字カを。ば。加カ流カ賀カ由カ惠カの。い。ふ。法。よ。是カも。加カ流カ賀カ由カ惠カの。切カ也。なる。物カなる。法。よ。又カ句頭カなる。而カ字カを。志カ加カ斯カ。且カや。訓カ例カよ。よ。い。ふ。法。よ。然カる。が。ゆ。ゑ。の。志カを。省カま。る。よ。も。あ。る。む。爾カ此字カの。殊カに。多。く。用カひ。い。ふ。法。よ。お。や。い。い。ふ。許カる。尔カの。訓カ法カ。又。處カよ。よ。い。ふ。法。よ。迦礼カの。訓カて。宜カき。も。あ。る。な。り。抑カ此記カ乃カ文法カ。



次なる一連<sup>トツキ</sup>乃語終<sup>リ</sup>て。次乃語の首<sup>シメ</sup>より。うむうむ。於<sup>コニ</sup>是<sup>ニ</sup>也<sup>ニ</sup>。  
も。故<sup>カレ</sup>也<sup>ニ</sup>。爾<sup>コニ</sup>也<sup>ニ</sup>。もい<sup>フ</sup>る。此<sup>ニ</sup>三<sup>ツ</sup>乃<sup>ニ</sup>辞<sup>ヲ</sup>を用<sup>ヒ</sup>ひ。こ<sup>ト</sup>を考<sup>ヘ</sup>る  
合<sup>ヒ</sup>る。よ。こ<sup>ト</sup>其<sup>ノ</sup>處<sup>ノ</sup>の語<sup>ヲ</sup>乃<sup>ニ</sup>勢<sup>ニ</sup>隨<sup>ヒ</sup>。調<sup>ヲ</sup>任<sup>セ</sup>て置<sup>ル</sup>乃<sup>ニ</sup>み  
あ<sup>リ</sup>て。必<sup>ズ</sup>も各<sup>ノ</sup>異<sup>ヲ</sup>あ<sup>ル</sup>意<sup>ノ</sup>あ<sup>ル</sup>よ<sup>リ</sup>何<sup>レ</sup>も。び。さ。れ。ば。ま。  
故<sup>カレ</sup>爾<sup>コニ</sup>也<sup>ニ</sup>。故<sup>カレ</sup>於<sup>コニ</sup>是<sup>ニ</sup>也<sup>ニ</sup>。重<sup>カサ</sup>ぬ<sup>ル</sup>も置<sup>ル</sup>。其<sup>ノ</sup>も同<sup>ジ</sup>く。や。あ。但  
一<sup>ツ</sup>右<sup>ニ</sup>乃<sup>ニ</sup>三<sup>ツ</sup>の<sup>ツ</sup>ら。爾<sup>ノ</sup>字<sup>ノ</sup>。於<sup>コニ</sup>是<sup>ニ</sup>也<sup>ニ</sup>。あ<sup>ル</sup>處<sup>ノ</sup>。同<sup>ジ</sup>く。勢<sup>ニ</sup>あ<sup>ル</sup>處<sup>ニ</sup>  
多<sup>ク</sup>。ま。故<sup>カレ</sup>爾<sup>コニ</sup>也<sup>ニ</sup>。重<sup>カサ</sup>ぬ<sup>ル</sup>。の<sup>ツ</sup>多<sup>ク</sup>あ<sup>ル</sup>也<sup>ニ</sup>。爾<sup>ノ</sup>於<sup>コニ</sup>是<sup>ニ</sup>也<sup>ニ</sup>。重<sup>カサ</sup>  
ぬ<sup>ル</sup>。處<sup>ノ</sup>無<sup>ク</sup>。を思<sup>フ</sup>る。み。許<sup>コニ</sup>。尔<sup>ニ</sup>。訓<sup>ク</sup>。して。  
迦<sup>カレ</sup>礼<sup>レ</sup>也<sup>ニ</sup>。訓<sup>ク</sup>。ま。じ。き。が。如<sup>シ</sup>。然<sup>ル</sup>。也<sup>ニ</sup>。又<sup>モ</sup>稀<sup>レ</sup>。の。故<sup>カレ</sup>字<sup>ヲ</sup>を置<sup>ル</sup>  
勢<sup>ニ</sup>全<sup>ク</sup>同<sup>ジ</sup>く。許<sup>コニ</sup>。尔<sup>ニ</sup>。訓<sup>ク</sup>。よ。あ<sup>ル</sup>。迦<sup>カレ</sup>礼<sup>レ</sup>也<sup>ニ</sup>。訓<sup>ク</sup>。が。優<sup>ニ</sup>

亦<sup>レ</sup>處<sup>ニ</sup>もあ<sup>リ</sup>。又<sup>モ</sup>あ<sup>リ</sup>。頻<sup>ニ</sup>多<sup>ク</sup>あ<sup>ル</sup>處<sup>ニ</sup>あ<sup>ル</sup>。棄<sup>テ</sup>讀<sup>ム</sup>ま<sup>じ</sup>  
き<sup>も</sup>何<sup>レ</sup>もあ<sup>リ</sup>。大<sup>ク</sup>。爾<sup>ノ</sup>也<sup>ニ</sup>。於<sup>コニ</sup>是<sup>ニ</sup>也<sup>ニ</sup>。故<sup>カレ</sup>也<sup>ニ</sup>。あ<sup>ル</sup>。の。み。な  
字<sup>ノ</sup>。曾<sup>ニ</sup>能<sup>ク</sup>。也<sup>ニ</sup>。訓<sup>ク</sup>。ま。じ。き。が。如<sup>シ</sup>。然<sup>ル</sup>。也<sup>ニ</sup>。又<sup>モ</sup>稀<sup>レ</sup>。の。故<sup>カレ</sup>字<sup>ヲ</sup>を置<sup>ル</sup>  
爾<sup>ノ</sup>時<sup>ノ</sup>。曾<sup>ニ</sup>能<sup>ク</sup>。也<sup>ニ</sup>。訓<sup>ク</sup>。ま。じ。き。が。如<sup>シ</sup>。然<sup>ル</sup>。也<sup>ニ</sup>。又<sup>モ</sup>稀<sup>レ</sup>。の。故<sup>カレ</sup>字<sup>ヲ</sup>を置<sup>ル</sup>  
能<sup>ク</sup>。許<sup>コニ</sup>。尔<sup>ニ</sup>。訓<sup>ク</sup>。よ。あ<sup>ル</sup>。迦<sup>カレ</sup>礼<sup>レ</sup>也<sup>ニ</sup>。訓<sup>ク</sup>。が。優<sup>ニ</sup>  
者<sup>ノ</sup>。乃<sup>レ</sup>切<sup>リ</sup>。也<sup>ニ</sup>。又<sup>モ</sup>上<sup>ニ</sup>卷<sup>ニ</sup>。自<sup>ラ</sup>爾<sup>ノ</sup>也<sup>ニ</sup>。あ<sup>ル</sup>。の。曾<sup>ニ</sup>能<sup>ク</sup>。也<sup>ニ</sup>。  
迦<sup>カレ</sup>礼<sup>レ</sup>也<sup>ニ</sup>。訓<sup>ク</sup>。ま。じ。き。が。如<sup>シ</sup>。然<sup>ル</sup>。也<sup>ニ</sup>。又<sup>モ</sup>稀<sup>レ</sup>。の。故<sup>カレ</sup>字<sup>ヲ</sup>を置<sup>ル</sup>  
也<sup>ニ</sup>。許<sup>コニ</sup>。余<sup>ニ</sup>。理<sup>リ</sup>。也<sup>ニ</sup>。訓<sup>ク</sup>。ま。じ。き。が。如<sup>シ</sup>。然<sup>ル</sup>。也<sup>ニ</sup>。又<sup>モ</sup>稀<sup>レ</sup>。の。故<sup>カレ</sup>字<sup>ヲ</sup>を置<sup>ル</sup>  
理<sup>リ</sup>。也<sup>ニ</sup>。許<sup>コニ</sup>。能<sup>ク</sup>。多<sup>ク</sup>。理<sup>リ</sup>。也<sup>ニ</sup>。訓<sup>ク</sup>。ま。じ。き。が。如<sup>シ</sup>。然<sup>ル</sup>。也<sup>ニ</sup>。又<sup>モ</sup>稀<sup>レ</sup>。の。故<sup>カレ</sup>字<sup>ヲ</sup>を置<sup>ル</sup>  
此<sup>ノ</sup>字<sup>ノ</sup>。ま。爾<sup>ノ</sup>字<sup>ノ</sup>。也<sup>ニ</sup>。古<sup>ク</sup>。伊<sup>ノ</sup>麻<sup>ノ</sup>志<sup>ノ</sup>。訓<sup>ク</sup>。ま。じ。き。が。如<sup>シ</sup>。然<sup>ル</sup>。也<sup>ニ</sup>。又<sup>モ</sup>稀<sup>レ</sup>。の。故<sup>カレ</sup>字<sup>ヲ</sup>を置<sup>ル</sup>  
ぎ<sup>レ</sup>。れ。也<sup>ニ</sup>。又<sup>モ</sup>多<sup>ク</sup>。所<sup>ノ</sup>。あ<sup>ル</sup>。也<sup>ニ</sup>。又<sup>モ</sup>只<sup>ニ</sup>漢<sup>ノ</sup>文<sup>ノ</sup>。の。方<sup>ニ</sup>。あ<sup>リ</sup>。置<sup>ル</sup>。也<sup>ニ</sup>。  
集<sup>テ</sup>。あ<sup>ル</sup>。也<sup>ニ</sup>。然<sup>ル</sup>。也<sup>ニ</sup>。捨<sup>テ</sup>。讀<sup>ム</sup>。ま<sup>じ</sup>。き。が。如<sup>シ</sup>。然<sup>ル</sup>。也<sup>ニ</sup>。又<sup>モ</sup>稀<sup>レ</sup>。の。故<sup>カレ</sup>字<sup>ヲ</sup>を置<sup>ル</sup>  
見<sup>ユ</sup>。も。あ<sup>リ</sup>。然<sup>ル</sup>。也<sup>ニ</sup>。捨<sup>テ</sup>。讀<sup>ム</sup>。ま<sup>じ</sup>。き。が。如<sup>シ</sup>。然<sup>ル</sup>。也<sup>ニ</sup>。又<sup>モ</sup>稀<sup>レ</sup>。の。故<sup>カレ</sup>字<sup>ヲ</sup>を置<sup>ル</sup>  
即<sup>チ</sup>。乃<sup>レ</sup>。字<sup>ノ</sup>。也<sup>ニ</sup>。同<sup>ジ</sup>く。







も稀<sup>ニレ</sup>あり又尋常<sup>ヨソツネ</sup>に如く訓處も多し其中ふい本より此  
古語<sup>カラブミヨミ</sup>の漢文訓<sup>ウツ</sup>の後<sup>ウツ</sup>多し有<sup>レ</sup>は是<sup>コトヲモテ</sup>以<sup>レ</sup>ち乃<sup>モテ</sup>以<sup>レ</sup>の用<sup>ツカ</sup>ひ  
ま其<sup>ハジメ</sup>初の漢文訓<sup>ミ</sup>よりや出<sup>テ</sup>まむさ<sup>レ</sup>ゆ<sup>レ</sup>此類<sup>モ</sup>い<sup>レ</sup>ゆ<sup>レ</sup>古<sup>ノ</sup>  
<sup>コト</sup>のい<sup>レ</sup>ひ<sup>レ</sup>ち<sup>レ</sup>も<sup>レ</sup>多<sup>シ</sup>し古言<sup>ノ</sup>や<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>多<sup>シ</sup>し<sup>レ</sup>其<sup>ソレ</sup>も母<sup>ツ</sup>豆<sup>テ</sup>の<sup>レ</sup>  
歌<sup>ノ</sup>あ<sup>レ</sup>ゆ<sup>レ</sup>も多<sup>シ</sup>し古言<sup>ノ</sup>や<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>多<sup>シ</sup>し<sup>レ</sup>其<sup>ソレ</sup>も母<sup>ツ</sup>豆<sup>テ</sup>の<sup>レ</sup>  
後<sup>ノ</sup>世<sup>ノ</sup>乃<sup>イヤシキコト</sup>俚言<sup>ノ</sup>あ<sup>レ</sup>ゆ<sup>レ</sup>云<sup>ノ</sup>よ<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>母<sup>ツ</sup>豆<sup>テ</sup>の<sup>レ</sup>訓<sup>ム</sup>も畧<sup>ク</sup>ある<sup>レ</sup>辞<sup>アリ</sup>あり  
正<sup>シ</sup>しく<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>母<sup>ツ</sup>豆<sup>テ</sup>の<sup>レ</sup>訓<sup>ム</sup>は<sup>レ</sup>中<sup>ノ</sup>卷<sup>ノ</sup>歌<sup>ノ</sup>に<sup>レ</sup>岐<sup>キ</sup>許<sup>コシ</sup>志<sup>シ</sup>母<sup>ツ</sup>豆<sup>テ</sup>の<sup>レ</sup>訓<sup>ム</sup>は<sup>レ</sup>表<sup>セ</sup>勢<sup>セ</sup>下<sup>ノ</sup>卷<sup>ノ</sup>  
歌<sup>ノ</sup>に<sup>レ</sup>加<sup>カ</sup>微<sup>ミ</sup>能<sup>ノ</sup>美<sup>ミ</sup>豆<sup>テ</sup>母<sup>ツ</sup>豆<sup>テ</sup>の<sup>レ</sup>訓<sup>ム</sup>は<sup>レ</sup>比<sup>ヒ</sup>久<sup>ク</sup>許<sup>コト</sup>登<sup>ト</sup>尔<sup>ニ</sup>万<sup>ノ</sup>葉<sup>ノ</sup>二十<sup>ノ</sup>ふ<sup>ノ</sup>麻<sup>ノ</sup>蘘<sup>ノ</sup>渥<sup>ノ</sup>毛<sup>ノ</sup>知<sup>チ</sup>  
奈<sup>ナ</sup>美<sup>ミ</sup>太<sup>ダ</sup>乎<sup>ヲ</sup>能<sup>ノ</sup>其<sup>ゴ</sup>比<sup>ヒ</sup>母<sup>ツ</sup>豆<sup>テ</sup>の<sup>レ</sup>訓<sup>ム</sup>は<sup>レ</sup>後<sup>ノ</sup>世<sup>ノ</sup>の<sup>レ</sup>母<sup>ツ</sup>豆<sup>テ</sup>の<sup>レ</sup>訓<sup>ム</sup>は<sup>レ</sup>又<sup>ニ</sup>三<sup>ノ</sup>ふ<sup>ノ</sup>我<sup>ノ</sup>袖<sup>ノ</sup>用<sup>ノ</sup>手<sup>ノ</sup>將<sup>ノ</sup>隠<sup>ノ</sup>  
乎<sup>ヲ</sup>用<sup>ノ</sup>字<sup>ヲ</sup>を<sup>レ</sup>書<sup>ク</sup>る<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>石<sup>ノ</sup>ト<sup>ノ</sup>以<sup>レ</sup>而<sup>テ</sup>十一<sup>ノ</sup>は<sup>レ</sup>何<sup>ノ</sup>有<sup>レ</sup>依<sup>レ</sup>以<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>母<sup>ツ</sup>豆<sup>テ</sup>の<sup>レ</sup>訓<sup>ム</sup>は<sup>レ</sup>

豆<sup>テ</sup>て<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>辞<sup>ノ</sup>の<sup>レ</sup>例<sup>ナリ</sup>あり<sup>レ</sup>此<sup>モ</sup>外<sup>ニ</sup>は<sup>レ</sup>万<sup>ノ</sup>葉<sup>ノ</sup>中<sup>ノ</sup>ふ<sup>ノ</sup>以<sup>レ</sup>持<sup>レ</sup>用<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>字<sup>ナリ</sup>但<sup>シ</sup>  
同<sup>ノ</sup>十<sup>ノ</sup>ふ<sup>ノ</sup>手<sup>ノ</sup>折<sup>リ</sup>以<sup>レ</sup>而<sup>テ</sup>十五<sup>ノ</sup>ふ<sup>ノ</sup>奈<sup>ノ</sup>尔<sup>ニ</sup>毛<sup>ノ</sup>能<sup>ノ</sup>母<sup>ツ</sup>豆<sup>テ</sup>の<sup>レ</sup>訓<sup>ム</sup>は<sup>レ</sup>加<sup>カ</sup>伊<sup>ノ</sup>能<sup>ノ</sup>知<sup>チ</sup>都<sup>ノ</sup>我<sup>ノ</sup>麻<sup>ノ</sup>之<sup>レ</sup>  
也<sup>モ</sup>あ<sup>レ</sup>ゆ<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>母<sup>ツ</sup>豆<sup>テ</sup>の<sup>レ</sup>訓<sup>ム</sup>は<sup>レ</sup>比<sup>ヒ</sup>久<sup>ク</sup>許<sup>コト</sup>登<sup>ト</sup>尔<sup>ニ</sup>万<sup>ノ</sup>葉<sup>ノ</sup>二十<sup>ノ</sup>ふ<sup>ノ</sup>麻<sup>ノ</sup>蘘<sup>ノ</sup>渥<sup>ノ</sup>毛<sup>ノ</sup>知<sup>チ</sup>  
米<sup>メ</sup>流<sup>ル</sup>成<sup>ナレ</sup>を<sup>レ</sup>那<sup>ナ</sup>礼<sup>レ</sup>流<sup>ル</sup>の<sup>レ</sup>例<sup>ナリ</sup>あり<sup>レ</sup>此<sup>モ</sup>外<sup>ニ</sup>は<sup>レ</sup>万<sup>ノ</sup>葉<sup>ノ</sup>中<sup>ノ</sup>ふ<sup>ノ</sup>以<sup>レ</sup>持<sup>レ</sup>用<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>字<sup>ナリ</sup>但<sup>シ</sup>  
也<sup>モ</sup>あ<sup>レ</sup>ゆ<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>母<sup>ツ</sup>豆<sup>テ</sup>の<sup>レ</sup>訓<sup>ム</sup>は<sup>レ</sup>比<sup>ヒ</sup>久<sup>ク</sup>許<sup>コト</sup>登<sup>ト</sup>尔<sup>ニ</sup>万<sup>ノ</sup>葉<sup>ノ</sup>二十<sup>ノ</sup>ふ<sup>ノ</sup>麻<sup>ノ</sup>蘘<sup>ノ</sup>渥<sup>ノ</sup>毛<sup>ノ</sup>知<sup>チ</sup>  
成<sup>ナレ</sup>有<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>ゆ<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>母<sup>ツ</sup>豆<sup>テ</sup>の<sup>レ</sup>訓<sup>ム</sup>は<sup>レ</sup>比<sup>ヒ</sup>久<sup>ク</sup>許<sup>コト</sup>登<sup>ト</sup>尔<sup>ニ</sup>万<sup>ノ</sup>葉<sup>ノ</sup>二十<sup>ノ</sup>ふ<sup>ノ</sup>麻<sup>ノ</sup>蘘<sup>ノ</sup>渥<sup>ノ</sup>毛<sup>ノ</sup>知<sup>チ</sup>  
又<sup>ズ</sup>不<sup>レ</sup>知<sup>ラ</sup>所<sup>ノ</sup>出<sup>ル</sup>る<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>漢<sup>ノ</sup>文<sup>ノ</sup>の<sup>レ</sup>方<sup>ハ</sup>右<sup>ノ</sup>乃<sup>ノ</sup>所<sup>ノ</sup>生<sup>ル</sup>あ<sup>レ</sup>ゆ<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>母<sup>ツ</sup>豆<sup>テ</sup>の<sup>レ</sup>訓<sup>ム</sup>は<sup>レ</sup>比<sup>ヒ</sup>久<sup>ク</sup>許<sup>コト</sup>登<sup>ト</sup>尔<sup>ニ</sup>万<sup>ノ</sup>葉<sup>ノ</sup>二十<sup>ノ</sup>ふ<sup>ノ</sup>麻<sup>ノ</sup>蘘<sup>ノ</sup>渥<sup>ノ</sup>毛<sup>ノ</sup>知<sup>チ</sup>  
あ<sup>レ</sup>ゆ<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>母<sup>ツ</sup>豆<sup>テ</sup>の<sup>レ</sup>訓<sup>ム</sup>は<sup>レ</sup>比<sup>ヒ</sup>久<sup>ク</sup>許<sup>コト</sup>登<sup>ト</sup>尔<sup>ニ</sup>万<sup>ノ</sup>葉<sup>ノ</sup>二十<sup>ノ</sup>ふ<sup>ノ</sup>麻<sup>ノ</sup>蘘<sup>ノ</sup>渥<sup>ノ</sup>毛<sup>ノ</sup>知<sup>チ</sup>  
下<sup>ノ</sup>卷<sup>ノ</sup>高<sup>ノ</sup>津<sup>ノ</sup>宮<sup>ノ</sup>段<sup>ノ</sup>に<sup>レ</sup>女<sup>メ</sup>鳥<sup>ノ</sup>王<sup>ノ</sup>之<sup>ノ</sup>所<sup>ノ</sup>坐<sup>ル</sup>あ<sup>レ</sup>ゆ<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>母<sup>ツ</sup>豆<sup>テ</sup>の<sup>レ</sup>訓<sup>ム</sup>は<sup>レ</sup>比<sup>ヒ</sup>久<sup>ク</sup>許<sup>コト</sup>登<sup>ト</sup>尔<sup>ニ</sup>万<sup>ノ</sup>葉<sup>ノ</sup>二十<sup>ノ</sup>ふ<sup>ノ</sup>麻<sup>ノ</sup>蘘<sup>ノ</sup>渥<sup>ノ</sup>毛<sup>ノ</sup>知<sup>チ</sup>  
に<sup>レ</sup>同<sup>シ</sup>耳<sup>ヲ</sup>記<sup>ス</sup>中<sup>ノ</sup>此<sup>ノ</sup>字<sup>ヲ</sup>皆<sup>テ</sup>漢<sup>ノ</sup>文<sup>ノ</sup>の<sup>レ</sup>格<sup>ニ</sup>よ<sup>リ</sup>あ<sup>レ</sup>て<sup>レ</sup>置<sup>ク</sup>る<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>常<sup>ニ</sup>れ<sup>レ</sup>如<sup>シ</sup>







ろやあゝやあ。且又字や同じ格お用ひつゝあ。字書又也や。  
麻多や訓はし。加都や訓むの非あり。元て此字を訓ふ。麻多  
や加都やの差別をいはず。漢籍ふ。君子有酒多且旨や云ふ  
が如きの多きがう字ふまゝ。旨くさ字あめやの意ああ。  
此意の且字の何れも麻多や訓はし。加都や訓はあゝや。  
句頭よあゝも同じろやあ。漢籍やも乃古き本は句頭ふ  
ろやあり。そのまゝ。我歌且謡や云ふが如き。注は曲合樂  
謡やありて歌や。又謡ひもほの意ああ。かくさま  
の意乃且字の麻多や訓ても加都や訓ても宜きやあ。此二  
漢文よゝゝの同じ格あはれやも。此方れ言ふう知して訓ふ。

かく差別あり。其中の麻多の廣をぬぐ。何れももゝゝも。  
加都のゝゝ。此を志やう。又彼をもほるが如き。此の辭  
伊勢物語哥よ。う恨みぢやぢぢ戀しきや云ふが  
如き。恨をうもあやぢぢ。又戀しきもあやぢぢ。是  
加都乃意。其意なぬ處のうなや。知はし。然る  
をさや。世乃人の此差別をまゝ。且字をば。ほるのみな加都  
訓はし。故は麻多や訓はし。加都や訓ても違はぬが  
るや。おぢえ。誤訓は口。抑漢文の且字を訓誤るか。  
皇國文をわゝあも誤る。用ふまゝ。た處は加都やの辭  
を用ふ人多かる。故は。今かく委くの辨あや。此記ふ  
は且字のゝゝ。又字書はあや同じろや。意得るばうあぢ。  
但し麻豆や訓はし。處一二あり。其由の其処。及某及某やあ







有<sup>ラ</sup>びや<sup>リ</sup>り<sup>ル</sup>る<sup>ル</sup>無<sup>シ</sup>。是<sup>レ</sup>許<sup>レ</sup>礼<sup>ル</sup>ま<sup>シ</sup>。許<sup>レ</sup>能<sup>ル</sup>や<sup>リ</sup>訓<sup>ル</sup>る<sup>ル</sup>常<sup>レ</sup>れ<sup>ル</sup>る<sup>ル</sup>也<sup>シ</sup>。  
又<sup>レ</sup>許<sup>レ</sup>礼<sup>ル</sup>を<sup>レ</sup>許<sup>ル</sup>や<sup>リ</sup>のみ<sup>ニ</sup>あり<sup>シ</sup>。古<sup>ク</sup>言<sup>ハ</sup>れ<sup>ル</sup>一<sup>ツ</sup>なり<sup>シ</sup>。  
ト格<sup>ト</sup>。又<sup>レ</sup>許<sup>レ</sup>礼<sup>ル</sup>を<sup>レ</sup>許<sup>ル</sup>や<sup>リ</sup>の<sup>ニ</sup>多<sup>シ</sup>。其<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>曾<sup>レ</sup>許<sup>ル</sup>や<sup>リ</sup>の<sup>ニ</sup>同<sup>シ</sup>。  
於<sup>ニ</sup>是<sup>レ</sup>や<sup>リ</sup>ある<sup>ル</sup>法<sup>ヲ</sup>を<sup>レ</sup>是<sup>レ</sup>や<sup>リ</sup>一<sup>ツ</sup>字<sup>ニ</sup>小<sup>シ</sup>書<sup>ハ</sup>ふ<sup>ル</sup>處<sup>ニ</sup>あり<sup>シ</sup>。ま<sup>シ</sup>。天<sup>ノ</sup>菩<sup>ト</sup>比<sup>ト</sup>。  
神<sup>ニ</sup>是<sup>レ</sup>可<sup>ク</sup>遣<sup>ハ</sup>ま<sup>シ</sup>。八<sup>ツ</sup>重<sup>ク</sup>言<sup>ハ</sup>代<sup>メ</sup>主<sup>ト</sup>神<sup>ニ</sup>是<sup>レ</sup>可<sup>ク</sup>白<sup>ク</sup>なり<sup>シ</sup>。の<sup>ニ</sup>類<sup>ノ</sup>是<sup>レ</sup>字<sup>ニ</sup>。漢<sup>ノ</sup>文<sup>ニ</sup>。  
乃<sup>チ</sup>格<sup>ト</sup>似<sup>シ</sup>。然<sup>レ</sup>よ<sup>リ</sup>の<sup>ニ</sup>古<sup>ク</sup>語<sup>ナ</sup>なり<sup>シ</sup>。許<sup>レ</sup>礼<sup>ル</sup>や<sup>リ</sup>訓<sup>ル</sup>る<sup>ル</sup>也<sup>シ</sup>。  
こ<sup>ノ</sup>ハ<sup>ニ</sup>ま<sup>シ</sup>。其<sup>レ</sup>名<sup>ヲ</sup>を<sup>レ</sup>顯<sup>ハ</sup>し<sup>テ</sup>。是<sup>レ</sup>神<sup>ニ</sup>云<sup>ハ</sup>る<sup>ル</sup>や<sup>リ</sup>の<sup>ニ</sup>同<sup>シ</sup>。委<sup>ト</sup>。  
く<sup>ノ</sup>い<sup>ハ</sup>る<sup>ル</sup>や<sup>リ</sup>の<sup>ニ</sup>天<sup>ノ</sup>菩<sup>ト</sup>比<sup>ト</sup>。神<sup>ニ</sup>云<sup>ハ</sup>る<sup>ル</sup>。是<sup>レ</sup>神<sup>ニ</sup>遣<sup>ハ</sup>る<sup>ル</sup>や<sup>リ</sup>の<sup>ニ</sup>同<sup>シ</sup>。  
が<sup>ノ</sup>如<sup>ク</sup>。漢<sup>ノ</sup>文<sup>ニ</sup>。此<sup>レ</sup>字<sup>ニ</sup>。其<sup>レ</sup>初<sup>メ</sup>の<sup>ニ</sup>如<sup>ク</sup>。曾<sup>レ</sup>能<sup>ル</sup>や<sup>リ</sup>訓<sup>ル</sup>る<sup>ル</sup>也<sup>シ</sup>。但<sup>シ</sup>。此<sup>レ</sup>字<sup>ニ</sup>。  
を<sup>レ</sup>置<sup>キ</sup>。意<sup>ヲ</sup>の<sup>ニ</sup>異<sup>ナ</sup>なり<sup>シ</sup>。其<sup>レ</sup>初<sup>メ</sup>の<sup>ニ</sup>如<sup>ク</sup>。曾<sup>レ</sup>能<sup>ル</sup>や<sup>リ</sup>訓<sup>ル</sup>る<sup>ル</sup>也<sup>シ</sup>。但<sup>シ</sup>。此<sup>レ</sup>字<sup>ニ</sup>。  
の<sup>ニ</sup>ま<sup>シ</sup>。繁<sup>ク</sup>置<sup>キ</sup>。中<sup>ニ</sup>ふ<sup>リ</sup>捨<sup>テ</sup>讀<sup>ム</sup>ま<sup>シ</sup>。第<sup>ニ</sup>も<sup>シ</sup>あり<sup>シ</sup>。又<sup>レ</sup>彼<sup>レ</sup>字<sup>ニ</sup>。  
や<sup>リ</sup>相<sup>ト</sup>通<sup>ハ</sup>は<sup>シ</sup>て。共<sup>ニ</sup>曾<sup>レ</sup>能<sup>ル</sup>や<sup>リ</sup>も<sup>シ</sup>加<sup>ハ</sup>能<sup>ル</sup>や<sup>リ</sup>も<sup>シ</sup>訓<sup>ル</sup>る<sup>ル</sup>也<sup>シ</sup>。又<sup>レ</sup>許<sup>レ</sup>。

能<sup>ル</sup>や<sup>リ</sup>訓<sup>ル</sup>る<sup>ル</sup>也<sup>シ</sup>。宜<sup>シ</sup>き<sup>ニ</sup>處<sup>ニ</sup>も<sup>シ</sup>あり<sup>シ</sup>。ま<sup>シ</sup>。上<sup>ニ</sup>小<sup>シ</sup>云<sup>ハ</sup>ふ<sup>ル</sup>物<sup>ヲ</sup>を<sup>レ</sup>指<sup>シ</sup>て。曾<sup>レ</sup>礼<sup>ル</sup>や<sup>リ</sup>。  
い<sup>ハ</sup>る<sup>ル</sup>。此<sup>レ</sup>字<sup>ニ</sup>を用<sup>ヒ</sup>て。處<sup>ニ</sup>あり<sup>シ</sup>。如<sup>ク</sup>魚<sup>ノ</sup>鱗<sup>ノ</sup>所<sup>ニ</sup>造<sup>ル</sup>之<sup>ノ</sup>宮<sup>ニ</sup>室<sup>ニ</sup>。其<sup>レ</sup>綿<sup>ノ</sup>津<sup>ノ</sup>。  
見<sup>ル</sup>神<sup>ノ</sup>之<sup>ノ</sup>宮<sup>ニ</sup>者<sup>ト</sup>也<sup>シ</sup>。な<sup>リ</sup>ある<sup>ル</sup>是<sup>レ</sup>あり<sup>シ</sup>。中<sup>ニ</sup>昔<sup>ニ</sup>れ<sup>ル</sup>物<sup>ヲ</sup>語<sup>ヲ</sup>書<sup>キ</sup>も<sup>シ</sup>。人<sup>ノ</sup>名<sup>ヲ</sup>。  
子<sup>ノ</sup>る<sup>ル</sup>や<sup>リ</sup>多<sup>シ</sup>。同<sup>シ</sup>格<sup>ト</sup>。相<sup>ト</sup>阿<sup>ト</sup>比<sup>ト</sup>。訓<sup>ル</sup>る<sup>ル</sup>也<sup>シ</sup>。常<sup>レ</sup>れ<sup>ル</sup>如<sup>ク</sup>。此<sup>レ</sup>字<sup>ニ</sup>。  
なり<sup>シ</sup>。古<sup>ク</sup>語<sup>ナ</sup>なり<sup>シ</sup>。法<sup>ヲ</sup>。相<sup>ト</sup>阿<sup>ト</sup>比<sup>ト</sup>。訓<sup>ル</sup>る<sup>ル</sup>也<sup>シ</sup>。常<sup>レ</sup>れ<sup>ル</sup>如<sup>ク</sup>。此<sup>レ</sup>字<sup>ニ</sup>。  
や<sup>リ</sup>お<sup>シ</sup>。中<sup>ニ</sup>ふ<sup>リ</sup>捨<sup>テ</sup>よ<sup>シ</sup>ま<sup>シ</sup>。第<sup>ニ</sup>も<sup>シ</sup>あり<sup>シ</sup>。法<sup>ヲ</sup>。竟<sup>ト</sup>表<sup>ト</sup>波<sup>ト</sup>理<sup>ト</sup>且<sup>ト</sup>又<sup>ト</sup>。  
表<sup>ト</sup>閑<sup>ト</sup>且<sup>ト</sup>又<sup>ト</sup>波<sup>ト</sup>且<sup>ト</sup>。や<sup>リ</sup>訓<sup>ル</sup>る<sup>ル</sup>也<sup>シ</sup>。又<sup>レ</sup>然<sup>レ</sup>訓<sup>ル</sup>る<sup>ル</sup>也<sup>シ</sup>。煩<sup>ク</sup>。第<sup>ニ</sup>も<sup>シ</sup>あり<sup>シ</sup>。  
は<sup>ニ</sup>其<sup>レ</sup>捨<sup>テ</sup>讀<sup>ム</sup>ま<sup>シ</sup>。た<sup>カ</sup>なり<sup>シ</sup>。訖<sup>ト</sup>竟<sup>ト</sup>字<sup>ニ</sup>。全<sup>ク</sup>同<sup>シ</sup>。法<sup>ヲ</sup>。麻<sup>ト</sup>傳<sup>ト</sup>や<sup>リ</sup>訓<sup>ル</sup>る<sup>ル</sup>也<sup>シ</sup>。伊<sup>ト</sup>多<sup>ト</sup>。  
已<sup>ニ</sup>訓<sup>ル</sup>る<sup>ル</sup>也<sup>シ</sup>。法<sup>ヲ</sup>。同<sup>シ</sup>。至<sup>ト</sup>お<sup>シ</sup>。ハ<sup>ニ</sup>麻<sup>ト</sup>傳<sup>ト</sup>や<sup>リ</sup>訓<sup>ル</sup>る<sup>ル</sup>也<sup>シ</sup>。伊<sup>ト</sup>多<sup>ト</sup>。  
流<sup>ト</sup>麻<sup>ト</sup>傳<sup>ト</sup>や<sup>リ</sup>訓<sup>ル</sup>る<sup>ル</sup>也<sup>シ</sup>。處<sup>ニ</sup>あり<sup>シ</sup>。稀<sup>ク</sup>あり<sup>シ</sup>。八<sup>ツ</sup>拳<sup>ノ</sup>須<sup>ノ</sup>至<sup>ニ</sup>于<sup>ニ</sup>心<sup>ノ</sup>前<sup>ニ</sup>。  
ハ<sup>ニ</sup>至<sup>ニ</sup>到<sup>ル</sup>や<sup>リ</sup>の<sup>ニ</sup>意<sup>ヲ</sup>あり<sup>シ</sup>。其<sup>レ</sup>故<sup>ハ</sup>。須<sup>ノ</sup>乃<sup>チ</sup>心<sup>ノ</sup>前<sup>ニ</sup>。至<sup>ニ</sup>于<sup>ニ</sup>心<sup>ノ</sup>前<sup>ニ</sup>。  
あり<sup>シ</sup>。ま<sup>シ</sup>。伊<sup>ト</sup>多<sup>ト</sup>流<sup>ト</sup>の<sup>ニ</sup>意<sup>ヲ</sup>あり<sup>シ</sup>。伊<sup>ト</sup>多<sup>ト</sup>流<sup>ト</sup>の<sup>ニ</sup>意<sup>ヲ</sup>あり<sup>シ</sup>。















誨告の表志用多麻比都良久<sup>ツラク</sup>也<sup>ナリ</sup>訓<sup>レ</sup>之<sup>ル</sup>也<sup>ナリ</sup>又都良久<sup>ツラク</sup>也<sup>ナリ</sup>訓<sup>レ</sup>之<sup>ル</sup>也<sup>ナリ</sup>久<sup>ク</sup>也<sup>ナリ</sup>云<sup>ヒ</sup>て煩<sup>ワツラ</sup>は<sup>シ</sup>か<sup>ク</sup>多<sup>ク</sup>處<sup>ニ</sup>あ<sup>リ</sup>や<sup>ハ</sup>詔<sup>ノ</sup>之<sup>ヲ</sup>あ<sup>や</sup>む<sup>ル</sup>能<sup>レ</sup>理<sup>リ</sup>多<sup>ク</sup>麻<sup>ニ</sup>波<sup>ハ</sup>久<sup>ク</sup>白<sup>ク</sup>言<sup>フ</sup>や<sup>ハ</sup>麻<sup>ニ</sup>表<sup>サ</sup>佐<sup>サ</sup>久<sup>ク</sup>也<sup>ナリ</sup>訓<sup>レ</sup>ま<sup>ス</sup>む<sup>ル</sup>宜<sup>シ</sup>又<sup>ハ</sup>答<sup>ハ</sup>の<sup>ノ</sup>字<sup>ハ</sup>れ<sup>マ</sup>す<sup>ル</sup>小<sup>コ</sup>許<sup>コ</sup>多<sup>ク</sup>用<sup>ヘ</sup>や<sup>ハ</sup>訓<sup>レ</sup>て<sup>ハ</sup>煩<sup>ワツラ</sup>は<sup>シ</sup>一<sup>ニ</sup>筆<sup>ニ</sup>處<sup>ニ</sup>多<sup>ク</sup>し<sup>ル</sup>其<sup>ノ</sup>一<sup>ニ</sup>は<sup>シ</sup>答<sup>ハ</sup>詔<sup>ハ</sup>能<sup>レ</sup>理<sup>リ</sup>多<sup>ク</sup>麻<sup>ニ</sup>波<sup>ハ</sup>久<sup>ク</sup>答<sup>ハ</sup>白<sup>ク</sup>の<sup>ノ</sup>麻<sup>ニ</sup>表<sup>サ</sup>佐<sup>サ</sup>久<sup>ク</sup>あ<sup>や</sup>む<sup>ル</sup>も<sup>ハ</sup>訓<sup>レ</sup>之<sup>ル</sup>也<sup>ナリ</sup>又<sup>ハ</sup>告<sup>ハ</sup>字<sup>ハ</sup>の<sup>ノ</sup>古<sup>コ</sup>書<sup>シ</sup>や<sup>ハ</sup>も<sup>ハ</sup>能<sup>レ</sup>流<sup>レ</sup>て<sup>ハ</sup>言<sup>フ</sup>用<sup>ヒ</sup>て<sup>ハ</sup>故<sup>ニ</sup>也<sup>ナリ</sup>此<sup>レ</sup>記<sup>ス</sup>る<sup>ノ</sup>に<sup>ハ</sup>詔<sup>ノ</sup>字<sup>ハ</sup>や<sup>ハ</sup>同<sup>シ</sup>い<sup>ニ</sup>意<sup>ニ</sup>用<sup>ヒ</sup>て<sup>ハ</sup>訓<sup>レ</sup>も<sup>ハ</sup>詔<sup>ハ</sup>や<sup>ハ</sup>全<sup>ク</sup>同<sup>シ</sup>也<sup>ナリ</sup>又<sup>ハ</sup>右<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>字<sup>ハ</sup>や<sup>ハ</sup>も<sup>ハ</sup>何<sup>レ</sup>も<sup>ハ</sup>其<sup>ノ</sup>下<sup>ニ</sup>あ<sup>リ</sup>る<sup>ノ</sup>語<sup>ハ</sup>乃<sup>ハ</sup>短<sup>キ</sup>き<sup>ハ</sup>や<sup>ハ</sup>下<sup>ニ</sup>より<sup>ハ</sup>回<sup>ル</sup>て<sup>ハ</sup>詔<sup>ノ</sup>之<sup>ハ</sup>云<sup>フ</sup>云<sup>フ</sup>登<sup>ト</sup>詔<sup>ト</sup>多<sup>ク</sup>麻<sup>ニ</sup>布<sup>フ</sup>問<sup>フ</sup>曰<sup>ク</sup>云<sup>フ</sup>登<sup>ト</sup>問<sup>ト</sup>あ<sup>や</sup>む<sup>ル</sup>も<sup>ハ</sup>訓<sup>レ</sup>之<sup>ル</sup>也<sup>ナリ</sup>右<sup>ノ</sup>右<sup>ノ</sup>ふ<sup>ル</sup>其<sup>ノ</sup>處<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>勢<sup>ハ</sup>ふ<sup>ル</sup>も<sup>ハ</sup>淺<sup>キ</sup>き<sup>ハ</sup>や<sup>ハ</sup>あり<sup>ニ</sup>

葛城具純所持本

○凡て詔云々曰云々白云々<sup>ナリ</sup>也<sup>ナリ</sup>ある<sup>ノ</sup>文<sup>ハ</sup>を<sup>ハ</sup>訓<sup>レ</sup>よ<sup>ム</sup>の<sup>ノ</sup>先<sup>ニ</sup>初<sup>メ</sup>は<sup>シ</sup>詔<sup>ハ</sup>曰<sup>ク</sup>白<sup>ク</sup>や<sup>ハ</sup>も<sup>ハ</sup>みて<sup>ハ</sup>其<sup>ノ</sup>云<sup>フ</sup>に<sup>ハ</sup>語<sup>ハ</sup>の<sup>ノ</sup>終<sup>ニ</sup>は<sup>シ</sup>又<sup>ハ</sup>ふ<sup>ル</sup>も<sup>ハ</sup>び<sup>ニ</sup>登<sup>ト</sup>能<sup>レ</sup>理<sup>リ</sup>多<sup>ク</sup>麻<sup>ニ</sup>布<sup>フ</sup>登<sup>ト</sup>伊<sup>イ</sup>幣<sup>ヘ</sup>理<sup>リ</sup>登<sup>ト</sup>麻<sup>ニ</sup>表<sup>サ</sup>須<sup>ス</sup>あ<sup>や</sup>む<sup>ル</sup>云<sup>フ</sup>辞<sup>ハ</sup>を<sup>ハ</sup>訓<sup>レ</sup>附<sup>ル</sup>る<sup>ノ</sup>古<sup>コ</sup>語<sup>ハ</sup>の<sup>ノ</sup>格<sup>ハ</sup>や<sup>ハ</sup>古<sup>コ</sup>書<sup>ハ</sup>の<sup>ノ</sup>皆<sup>ハ</sup>漢<sup>ノ</sup>文<sup>ハ</sup>格<sup>ハ</sup>に<sup>ハ</sup>書<sup>ク</sup>は<sup>シ</sup>故<sup>ニ</sup>也<sup>ナリ</sup>終<sup>ニ</sup>は<sup>シ</sup>其<sup>ノ</sup>字<sup>ハ</sup>を<sup>ハ</sup>置<sup>ク</sup>ざ<sup>ル</sup>也<sup>ナリ</sup>也<sup>ナリ</sup>古<sup>コ</sup>語<sup>ハ</sup>乃<sup>ハ</sup>ま<sup>ハ</sup>る<sup>ノ</sup>不<sup>レ</sup>書<sup>ク</sup>る<sup>ノ</sup>物<sup>ハ</sup>の<sup>ノ</sup>皆<sup>ハ</sup>此<sup>レ</sup>辞<sup>ハ</sup>あり<sup>ニ</sup>記<sup>ス</sup>中<sup>ニ</sup>は<sup>シ</sup>詔<sup>ハ</sup>云<sup>フ</sup>豊<sup>ト</sup>葦<sup>シ</sup>原<sup>ハ</sup>之<sup>ノ</sup>水<sup>ハ</sup>穂<sup>ホ</sup>國<sup>ニ</sup>者<sup>ハ</sup>云<sup>フ</sup>有<sup>リ</sup>祁<sup>キ</sup>理<sup>リ</sup>告<sup>ス</sup>而<sup>シ</sup>も<sup>ハ</sup>詔<sup>ハ</sup>云<sup>フ</sup>此<sup>レ</sup>地<sup>ハ</sup>者<sup>ハ</sup>云<sup>フ</sup>甚<sup>シ</sup>吉<sup>ク</sup>地<sup>ハ</sup>詔<sup>ハ</sup>而<sup>シ</sup>も<sup>ハ</sup>あ<sup>や</sup>む<sup>ル</sup>書<sup>ク</sup>也<sup>ナリ</sup>也<sup>ナリ</sup>も<sup>ハ</sup>凡<sup>ト</sup>て<sup>ハ</sup>其<sup>ノ</sup>格<sup>ハ</sup>に<sup>ハ</sup>出<sup>ル</sup>雲<sup>ノ</sup>國<sup>ニ</sup>造<sup>ス</sup>神<sup>ノ</sup>賀<sup>ハ</sup>詞<sup>ハ</sup>乃<sup>ハ</sup>大<sup>ニ</sup>穴<sup>ヲ</sup>持<sup>テ</sup>命<sup>ヲ</sup>乃<sup>ハ</sup>申<sup>テ</sup>給<sup>フ</sup>久<sup>ク</sup>云<sup>フ</sup>申<sup>テ</sup>天<sup>ヲ</sup>ま<sup>ハ</sup>る<sup>ノ</sup>遷<sup>ル</sup>却<sup>シ</sup>崇<sup>ム</sup>神<sup>ノ</sup>祝<sup>ス</sup>詞<sup>ハ</sup>諸<sup>ノ</sup>神<sup>ヲ</sup>等<sup>ヲ</sup>皆<sup>ハ</sup>量<sup>ニ</sup>申<sup>テ</sup>久<sup>ク</sup>天<sup>ヲ</sup>穂<sup>ホ</sup>日<sup>ノ</sup>之<sup>ノ</sup>命<sup>ハ</sup>乎<sup>ハ</sup>遣<sup>ル</sup>而<sup>シ</sup>も<sup>ハ</sup>平<sup>ニ</sup>氣<sup>ヲ</sup>武<sup>ヲ</sup>止<sup>ム</sup>申<sup>テ</sup>支<sup>ス</sup>ま<sup>ス</sup>久<sup>ク</sup>續<sup>ク</sup>紀<sup>ハ</sup>宣<sup>ス</sup>命<sup>ヲ</sup>ふ<sup>ル</sup>云<sup>フ</sup>天<sup>ハ</sup>在<sup>リ</sup>良<sup>ク</sup>久<sup>ク</sup>云<sup>フ</sup>云<sup>フ</sup>云<sup>フ</sup>利<sup>ハ</sup>ま<sup>ハ</sup>る<sup>ノ</sup>謀<sup>ハ</sup>家<sup>ハ</sup>良<sup>ク</sup>久<sup>ク</sup>云<sup>フ</sup>云<sup>フ</sup>等<sup>ハ</sup>







ふ國よ此大御神乃大御徳かぐゆぬ國なりし。

大御神<sup>オホミテ</sup>大御手<sup>オホミテ</sup>乃天<sup>アメ</sup>の壘<sup>ニレン</sup>を捧持<sup>ササモテ</sup>して。

御代御代お御志<sup>ミ</sup>の<sup>ツタ</sup>傳<sup>ツタ</sup>けり來<sup>キ</sup>りたる。三種<sup>ミクサ</sup>の神寶<sup>カムガカラ</sup>の是<sup>ミ</sup>ぞ。

萬<sup>ヨロツチ</sup>千秋<sup>チアキ</sup>の長秋<sup>ナカアキ</sup>よ吾<sup>アガ</sup>御子<sup>ミコ</sup>れをろく<sup>ク</sup>とせ<sup>セ</sup>を國<sup>クニ</sup>なりし<sup>シ</sup>を<sup>ヲ</sup>よ<sup>ヨ</sup>と<sup>ト</sup>賜<sup>タマ</sup>ふ<sup>マ</sup>し<sup>シ</sup>ま<sup>マ</sup>よ<sup>ヨ</sup>。

天津日嗣<sup>アマツヒヒコ</sup>高御座<sup>タカミイラ</sup>乃天地<sup>アメノツチ</sup>の共動<sup>トモウゴ</sup>かぬ<sup>カ</sup>る<sup>ル</sup>なり。既<sup>ハヤ</sup>く<sup>ク</sup>よ<sup>ヨ</sup>と定<sup>サ</sup>ま<sup>マ</sup>め<sup>メ</sup>た<sup>タ</sup>。

天雲<sup>アメノクモ</sup>れむ<sup>ム</sup>ま<sup>マ</sup>は<sup>ハ</sup>ら<sup>ラ</sup>ま<sup>マ</sup>あ<sup>ア</sup>谷<sup>タニ</sup>蟻<sup>アリ</sup>乃<sup>ノ</sup>は<sup>ハ</sup>ら<sup>ラ</sup>む<sup>ム</sup>る<sup>ル</sup>筈<sup>ハコ</sup>のみ。皇<sup>スメ</sup>御孫<sup>ミミコ</sup>命<sup>ノミコト</sup>乃<sup>ノ</sup>大<sup>オホ</sup>御<sup>ミ</sup>食<sup>シ</sup>國<sup>クニ</sup>なり<sup>ニ</sup>ま<sup>マ</sup>あ<sup>ア</sup>て<sup>テ</sup>天<sup>アメ</sup>下<sup>ノ</sup>み<sup>ミ</sup>の<sup>ノ</sup>あ<sup>ア</sup>ら<sup>ラ</sup>む<sup>ム</sup>る<sup>ル</sup>神<sup>カミ</sup>も<sup>モ</sup>な<sup>ナ</sup>ら<sup>ラ</sup>ま<sup>マ</sup>。

ちろのぬ人もな。

い<sup>イ</sup>く<sup>ク</sup>萬<sup>マン</sup>代<sup>ダイ</sup>を<sup>ヲ</sup>経<sup>ケ</sup>り<sup>リ</sup>も<sup>モ</sup>誰<sup>タレ</sup>も<sup>モ</sup>此<sup>ココ</sup>奴<sup>ヌ</sup>ら<sup>ラ</sup>大<sup>オホ</sup>皇<sup>キミ</sup>お<sup>オ</sup>背<sup>セ</sup>き<sup>キ</sup>奉<sup>ホウ</sup>む<sup>ム</sup>あ<sup>ア</sup>な<sup>ナ</sup>か<sup>カ</sup>あ<sup>ア</sup>御<sup>ミ</sup>代<sup>ダイ</sup>乃<sup>ノ</sup>間<sup>マ</sup>よ<sup>ヨ</sup>ふ<sup>フ</sup>も<sup>モ</sup>不<sup>フ</sup>伏<sup>ボク</sup>惡<sup>アク</sup>穢<sup>セ</sup>奴<sup>ヌ</sup>も<sup>モ</sup>あ<sup>ア</sup>れ<sup>レ</sup>ば<sup>バ</sup>神<sup>カミ</sup>代<sup>ダイ</sup>乃<sup>ノ</sup>古<sup>コ</sup>事<sup>コト</sup>れ<sup>レ</sup>ま<sup>マ</sup>あ<sup>ア</sup>く<sup>ク</sup>大<sup>オホ</sup>御<sup>ミ</sup>稜<sup>レイ</sup>威<sup>イ</sup>を<sup>ヲ</sup>か<sup>カ</sup>ぎ<sup>ギ</sup>や<sup>ヤ</sup>う<sup>ウ</sup>して<sup>シ</sup>と<sup>ト</sup>ち<sup>チ</sup>ま<sup>マ</sup>ら<sup>ラ</sup>ふ<sup>フ</sup>ら<sup>ラ</sup>滅<sup>ホト</sup>し<sup>シ</sup>給<sup>キ</sup>ふ<sup>フ</sup>物<sup>モノ</sup>ぞ。

千<sup>チ</sup>萬<sup>マン</sup>御<sup>ミ</sup>世<sup>セ</sup>れ<sup>レ</sup>御<sup>ミ</sup>末<sup>マシ</sup>の<sup>ノ</sup>御<sup>ミ</sup>代<sup>ダイ</sup>ま<sup>マ</sup>ご<sup>ゴ</sup>天<sup>スメ</sup>皇<sup>ラ</sup>命<sup>ノミコト</sup>の<sup>ノ</sup>大<sup>オホ</sup>御<sup>ミ</sup>神<sup>カミ</sup>の<sup>ノ</sup>御<sup>ミ</sup>子<sup>コ</sup>なり<sup>ニ</sup>。

御<sup>ミ</sup>世<sup>セ</sup>御<sup>ミ</sup>世<sup>セ</sup>天<sup>スメ</sup>皇<sup>ラ</sup>の<sup>ノ</sup>治<sup>チ</sup>なり<sup>ニ</sup>ら<sup>ラ</sup>天<sup>アメノ</sup>照<sup>テ</sup>大<sup>オホ</sup>御<sup>ミ</sup>神<sup>カミ</sup>の<sup>ノ</sup>御<sup>ミ</sup>子<sup>コ</sup>よ<sup>ヨ</sup>な<sup>ナ</sup>も<sup>モ</sup>大<sup>オホ</sup>坐<sup>マシ</sup>なり<sup>ニ</sup>故<sup>カレ</sup>天<sup>アメ</sup>乃<sup>ノ</sup>神<sup>カミ</sup>乃<sup>ノ</sup>御<sup>ミ</sup>子<sup>コ</sup>なり<sup>ニ</sup>日<sup>ヒ</sup>乃<sup>ノ</sup>御<sup>ミ</sup>子<sup>コ</sup>なり<sup>ニ</sup>ま<sup>マ</sup>あ<sup>ア</sup>せ<sup>セ</sup>り。





天<sup>アメ</sup>於神乃御心を大御心<sup>ニ</sup>也<sup>ニ</sup>して

何<sup>ナニ</sup>も<sup>レ</sup>成<sup>ス</sup>り<sup>テ</sup>已<sup>レ</sup>命<sup>ノ</sup>の御心<sup>も</sup>して<sup>レ</sup>成<sup>ス</sup>り<sup>シ</sup>たら<sup>ニ</sup>賜<sup>ハ</sup>り<sup>ト</sup>び<sup>テ</sup>す<sup>ト</sup>

神代乃古事<sup>フルコト</sup>れ<sup>ま</sup>ふ<sup>ニ</sup>お<sup>も</sup>ひ<sup>ニ</sup>し<sup>テ</sup>治<sup>ヲ</sup>免<sup>サ</sup>賜<sup>ヒ</sup>て<sup>レ</sup>疑<sup>タ</sup>

ひ<sup>お</sup>も<sup>ひ</sup>の事<sup>ニ</sup>あ<sup>る</sup>を<sup>り</sup>の<sup>御</sup>ト事<sup>ト</sup>して<sup>レ</sup>天神<sup>ツ</sup>の御心<sup>ヲ</sup>

を<sup>問</sup>して<sup>レ</sup>物<sup>ヲ</sup>給<sup>ふ</sup>

神代も今も可<sup>レ</sup>ぶ<sup>レ</sup>て<sup>レ</sup>也<sup>ニ</sup>

天津<sup>アメツク</sup>日嗣<sup>ヒツギ</sup>乃然<sup>シカ</sup>ま<sup>り</sup>の<sup>み</sup>な<sup>り</sup>の<sup>臣</sup>連<sup>オミムラシ</sup>八十<sup>ヤソト</sup>伴<sup>トモ</sup>

緒<sup>ヲ</sup>よ<sup>り</sup>し<sup>る</sup>ま<sup>ご</sup>氏<sup>ウヂ</sup>わ<sup>が</sup>縁<sup>ヰ</sup>を<sup>重</sup>み<sup>し</sup>て<sup>レ</sup>子孫<sup>ウミノコ</sup>の八十<sup>ヤソ</sup>續<sup>ツギ</sup>

その家<sup>イヘ</sup>に<sup>レ</sup>職業<sup>シヨウギ</sup>成<sup>る</sup>け<sup>レ</sup>お<sup>も</sup>ひ<sup>に</sup>ち<sup>か</sup>祖<sup>オヤガミ</sup>神<sup>カミ</sup>と<sup>ら</sup>る<sup>ニ</sup>異<sup>コト</sup>あ

ら<sup>ズ</sup>只<sup>タギ</sup>一<sup>ヒト</sup>世<sup>ヨ</sup>の如<sup>ク</sup>み<sup>し</sup>て<sup>レ</sup>神代<sup>カミヨ</sup>乃<sup>モ</sup>ま<sup>ご</sup>ふ<sup>ニ</sup>奉<sup>ツク</sup>仕<sup>ム</sup>ら<sup>り</sup>

神<sup>カミ</sup>あ<sup>ら</sup>づ<sup>く</sup>安<sup>ヤスクニ</sup>國<sup>クニ</sup>や<sup>タヒラ</sup>平<sup>ヒラ</sup>を<sup>レ</sup>所<sup>シ</sup>知<sup>シ</sup>者<sup>メ</sup>も<sup>も</sup>る<sup>ニ</sup>大<sup>オホ</sup>御<sup>ミ</sup>國<sup>クニ</sup>の<sup>も</sup>も<sup>り</sup>

あ<sup>ら</sup>づ<sup>く</sup>

書<sup>ナニ</sup>紀<sup>ハ</sup>乃<sup>ハ</sup>難<sup>ナニ</sup>波<sup>ハ</sup>長<sup>ナガ</sup>柄<sup>ハ</sup>朝<sup>アサ</sup>廷<sup>テイ</sup>御<sup>ミ</sup>卷<sup>マキ</sup>に<sup>カミ</sup>惟<sup>カミ</sup>神<sup>カミ</sup>者<sup>ヲ</sup>謂<sup>イフ</sup>隨<sup>カミ</sup>神<sup>カミ</sup>道<sup>ミチ</sup>亦<sup>ナニ</sup>自<sup>ニ</sup>有<sup>リ</sup>

神<sup>ミチ</sup>道<sup>アル</sup>也<sup>ナリ</sup>何<sup>ナニ</sup>も<sup>レ</sup>成<sup>ス</sup>り<sup>テ</sup>思<sup>おも</sup>ひ<sup>に</sup>ち<sup>か</sup>神<sup>カミ</sup>道<sup>ミチ</sup>は<sup>レ</sup>隨<sup>シ</sup>ふ<sup>ニ</sup>や<sup>ら</sup>ん<sup>ニ</sup>天<sup>アメ</sup>

治<sup>ヲ</sup>免<sup>サ</sup>賜<sup>ヒ</sup>ふ<sup>ニ</sup>御<sup>ミ</sup>志<sup>シ</sup>も<sup>も</sup>ご<sup>ら</sup>ん<sup>ニ</sup>神<sup>カミ</sup>代<sup>ヨ</sup>の<sup>も</sup>も<sup>り</sup>有<sup>リ</sup>あ<sup>ら</sup>し<sup>ま</sup>し<sup>ま</sup>し<sup>ま</sup>す<sup>ニ</sup>物

し<sup>賜</sup>ひ<sup>き</sup>し<sup>る</sup>し<sup>る</sup>か<sup>も</sup>は<sup>ら</sup>し<sup>る</sup>所<sup>シ</sup>字<sup>ジ</sup>加<sup>カ</sup>可<sup>カ</sup>給<sup>キ</sup>ふ<sup>ニ</sup>や<sup>ら</sup>ん<sup>ニ</sup>也<sup>ナリ</sup>

を<sup>い</sup>ふ<sup>に</sup>し<sup>る</sup>志<sup>シ</sup>も<sup>も</sup>ご<sup>ら</sup>ん<sup>ニ</sup>神<sup>カミ</sup>代<sup>ヨ</sup>の<sup>も</sup>も<sup>り</sup>く<sup>レ</sup>大<sup>オホ</sup>ら<sup>り</sup>る<sup>ニ</sup>所<sup>シ</sup>知<sup>シ</sup>者<sup>メ</sup>せ<sup>ば</sup>

わ<sup>の</sup>お<sup>も</sup>ひ<sup>に</sup>し<sup>る</sup>神<sup>カミ</sup>乃<sup>モ</sup>道<sup>ミチ</sup>の<sup>も</sup>も<sup>り</sup>ひ<sup>て</sup>他<sup>ホカ</sup>も<sup>も</sup>ち<sup>か</sup>ら<sup>ず</sup>し<sup>る</sup>也<sup>ナリ</sup>

な<sup>ら</sup>ず<sup>に</sup>自<sup>オソ</sup>有<sup>リ</sup>神<sup>カミ</sup>道<sup>ミチ</sup>の<sup>も</sup>も<sup>り</sup>い<sup>は</sup>れ<sup>ら</sup>る<sup>に</sup>あ<sup>ら</sup>し<sup>ま</sup>し<sup>ま</sup>す<sup>ニ</sup>現<sup>アキ</sup>御<sup>ミ</sup>神<sup>カミ</sup>の<sup>も</sup>も<sup>り</sup>大<sup>オホ</sup>

八<sup>ヤ</sup>洲<sup>シユ</sup>國<sup>クニ</sup>あ<sup>ら</sup>る<sup>に</sup>し<sup>る</sup>の<sup>も</sup>も<sup>り</sup>申<sup>マウ</sup>ひ<sup>に</sup>其<sup>ソノ</sup>御<sup>ミ</sup>世<sup>ヨ</sup>く<sup>レ</sup>天<sup>アメ</sup>皇<sup>ミコ</sup>の<sup>も</sup>も<sup>り</sup>御<sup>ミ</sup>







ひ取て又人よりづはまが事量コトバカリをよして志が  
一國をよく治りて後の法リもあはるる人をとら  
しよの聖人やぞ云はるる乱ミダる世タカヒの戦  
よなふゆゑはわの都ヨキノイハレの名将ヨキノイハレあはるるが  
如く國の風俗オラシあはるる治まらばあはるる思ひ  
ふ治まらばあはるる世よその治まらばあはるる思ひ  
あはるる為シあはるるゆゑは志のわはるる人あはるる  
もいできむるなりまら然るもこの聖人やりのもの  
の神のよゆよふひがふてあはるる小奇コノの徳イキホヒあ  
はるる思ふひがふるなりして其聖人やもれ作

まかまらして定ちあはるるあはるる道のりいあは  
はあはるるあはるる道のりい物も其旨シメをま  
のせはるる人の國をうづらうあはるる人よ奪ウバり  
はまがたあはるるの二よの治まらばあはるるその  
人の國を奪ひ取らばあはるるのよらうあはるる心をも  
き身をもしあはるる善ヨキのあはるる諸人モロビトを  
あはるる故よ聖人のまらばあはるる善人ヨキヒトあはるる又  
そのあはるるあはるる道のりいあはるるあはるる  
よらうあはるるあはるる見ゆあはるるあはるる已オシら  
れ道よ背ソムきて君をあらがひ國をうづらるるものあし















貴きをあらぬ癡人の志もまじりあはざや。

然るをやく降<sup>シ</sup>りて書籍<sup>ミ</sup>やいふ物渡<sup>ワタリ</sup>参<sup>マキ</sup>来<sup>キ</sup>て其<sup>ソノ</sup>を學<sup>マナ</sup>びよむ事始<sup>ハジ</sup>まりて後<sup>ノチ</sup>其國<sup>クニ</sup>れてより成<sup>ナリ</sup>あしひてやく萬<sup>マン</sup>のう言<sup>コト</sup>よまじり用<sup>ヨウ</sup>ひは御代<sup>ミヨ</sup>よなりてぞ大御國<sup>オホミクニ</sup>の古<sup>コ</sup>乃<sup>ナラ</sup>大御<sup>オホミ</sup>てま<sup>マ</sup>をば取<sup>トリ</sup>別<sup>ワケ</sup>て神道<sup>カミミチ</sup>やいふおぼ<sup>オボ</sup>しけらふしあ<sup>ア</sup>をさる<sup>サ</sup>そのかの外<sup>トクシニ</sup>國<sup>クニ</sup>乃<sup>ナラ</sup>道<sup>ミチ</sup>よふまが<sup>マ</sup>あがゆ<sup>ユ</sup>急<sup>イサ</sup>よ神<sup>カミ</sup>やいひ又<sup>マタ</sup>かの名<sup>ナ</sup>を借<sup>カ</sup>りてあ<sup>ア</sup>も<sup>モ</sup>道<sup>ミチ</sup>やいひあ<sup>ア</sup>ひあり。

神の道<sup>カミノミチ</sup>やいひ多<sup>オホク</sup>所<sup>ユ</sup>由<sup>ユ</sup>の<sup>ノ</sup>下<sup>ノ</sup>お<sup>オ</sup>お<sup>オ</sup>づ<sup>ク</sup>う<sup>ウ</sup>あ<sup>ア</sup>や<sup>ヤ</sup>。

ちのありて御代<sup>ミヨ</sup>よを<sup>ヲ</sup>経<sup>ケ</sup>る<sup>ル</sup>ま<sup>マ</sup>あ<sup>ア</sup>しや<sup>ヤ</sup>ま<sup>マ</sup>の<sup>ノ</sup>く<sup>ク</sup>よ<sup>ヨ</sup>その漢<sup>カラ</sup>國<sup>クニ</sup>の<sup>ノ</sup>て<sup>テ</sup>ぶ<sup>ブ</sup>り<sup>リ</sup>な<sup>ナ</sup>志<sup>シ</sup>よ<sup>ヨ</sup>い<sup>イ</sup>ま<sup>マ</sup>結<sup>ムス</sup>ぶ<sup>ブ</sup>こ<sup>コ</sup>や<sup>ヤ</sup>盛<sup>サカ</sup>よ<sup>ヨ</sup>ひ<sup>ヒ</sup>の<sup>ノ</sup>と<sup>ト</sup>て<sup>テ</sup>ゆ<sup>ユ</sup>よ<sup>ヨ</sup>お<sup>オ</sup>。

お<sup>オ</sup>ひ<sup>ヒ</sup>よ<sup>ヨ</sup>天<sup>アメ</sup>の<sup>ノ</sup>下<sup>ノ</sup>所<sup>シ</sup>知<sup>チ</sup>看<sup>ミ</sup>る<sup>ル</sup>大<sup>オホ</sup>御<sup>ミ</sup>政<sup>サマ</sup>も<sup>モ</sup>は<sup>ハ</sup>漢<sup>カラ</sup>様<sup>ザマ</sup>よ<sup>ヨ</sup>為<sup>ナ</sup>り<sup>ル</sup>。

難<sup>ナ</sup>波<sup>ハ</sup>の<sup>ノ</sup>長<sup>ナガ</sup>柄<sup>ハ</sup>宮<sup>ミヤ</sup>淡<sup>アワ</sup>海<sup>ミ</sup>の<sup>ノ</sup>大<sup>オホ</sup>津<sup>ツ</sup>宮<sup>ミヤ</sup>れ<sup>レ</sup>り<sup>リ</sup>や<sup>ヤ</sup>よ<sup>ヨ</sup>至<sup>イ</sup>り<sup>ル</sup>天<sup>アメ</sup>の<sup>ノ</sup>下<sup>ノ</sup>乃<sup>ナラ</sup>御<sup>ミ</sup>制<sup>サダ</sup>度<sup>メ</sup>も<sup>モ</sup>み<sup>ミ</sup>な<sup>ナ</sup>漢<sup>カラ</sup>よ<sup>ヨ</sup>なり<sup>ル</sup>業<sup>ノ</sup>か<sup>カ</sup>こ<sup>コ</sup>て<sup>テ</sup>後<sup>ノチ</sup>の<sup>ノ</sup>古<sup>コ</sup>の<sup>ノ</sup>御<sup>ミ</sup>て<sup>テ</sup>お<sup>オ</sup>ま<sup>マ</sup>の<sup>ノ</sup>し<sup>シ</sup>神<sup>カミ</sup>事<sup>ワザ</sup>よ<sup>ヨ</sup>み<sup>ミ</sup>用<sup>ヨウ</sup>ひ<sup>ヒ</sup>賜<sup>タマ</sup>はり<sup>リ</sup>故<sup>シ</sup>後<sup>ノチ</sup>代<sup>ノチ</sup>ま<sup>マ</sup>ごと<sup>ト</sup>も<sup>モ</sup>神<sup>カミ</sup>事<sup>ワザ</sup>ふ<sup>フ</sup>の<sup>ノ</sup>み<sup>ミ</sup>の<sup>ノ</sup>皇<sup>スメラ</sup>國<sup>ミコト</sup>乃<sup>ナラ</sup>て<sup>テ</sup>ま<sup>マ</sup>りの<sup>ノ</sup>な<sup>ナ</sup>り<sup>ル</sup>乃<sup>ナラ</sup>こ<sup>コ</sup>ゆ<sup>ユ</sup>こ<sup>コ</sup>ゆ<sup>ユ</sup>お<sup>オ</sup>ち<sup>チ</sup>よ<sup>ヨ</sup>や<sup>ヤ</sup>。

青<sup>アヲ</sup>人<sup>ヒト</sup>草<sup>クサ</sup>れ<sup>レ</sup>心<sup>ココロ</sup>ま<sup>マ</sup>ごと<sup>ト</sup>ぞ<sup>ゾ</sup>其<sup>ソノ</sup>意<sup>イ</sup>よ<sup>ヨ</sup>ち<sup>チ</sup>り<sup>リ</sup>あ<sup>ア</sup>ま<sup>マ</sup>。

天<sup>スメラ</sup>皇<sup>ミコト</sup>尊<sup>ミタマ</sup>れ<sup>レ</sup>大<sup>オホ</sup>御<sup>ミ</sup>心<sup>ココロ</sup>を<sup>ヲ</sup>心<sup>ココロ</sup>や<sup>ヤ</sup>せ<sup>セ</sup>び<sup>ビ</sup>し<sup>シ</sup>て<sup>テ</sup>已<sup>オウ</sup>こ<sup>コ</sup>が<sup>ガ</sup>ま<sup>マ</sup>あ<sup>ア</sup>ら<sup>ラ</sup>お<sup>オ</sup>こ<sup>コ</sup>を<sup>ヲ</sup>心<sup>ココロ</sup>や<sup>ヤ</sup>し<sup>シ</sup>る<sup>ル</sup>の<sup>ノ</sup>漢<sup>カラ</sup>意<sup>イ</sup>の<sup>ノ</sup>移<sup>ウツ</sup>り<sup>リ</sup>の<sup>ノ</sup>なり。

ま<sup>マ</sup>ごと<sup>ト</sup>り<sup>リ</sup>安<sup>ヤス</sup>き<sup>キ</sup>く<sup>ク</sup>平<sup>ヒラ</sup>け<sup>ケ</sup>て<sup>テ</sup>有<sup>アリ</sup>来<sup>キ</sup>し<sup>シ</sup>御<sup>ミ</sup>國<sup>クニ</sup>の<sup>ノ</sup>み<sup>ミ</sup>ご<sup>ゴ</sup>り<sup>リ</sup>が<sup>ガ</sup>り<sup>リ</sup>業<sup>ノ</sup>



さやしくもさやしく異國アズシクニもやしく似ニゆるさやしくも後よりまじりて  
きよまされ。

いやはもあぐさき大御國の道をおよびて。他國ヒトクニ乃と  
かコチタ言痛き意行ココロシラサをよびてゆるして。ひまは法  
はりナホ直キヨく清めり。心も行オコチひも。みま穢キヌナ悪ナくまがり  
ゆよて後起ヒトクニひよ。かの他國ヒトクニのまじり。等道ありて  
の治まりがさよが如くゆるさる。ける後のあり  
さゆを見て。聖人の道ありて。國の治まりがさよ  
物ぞゆる思あはる。い。治まりがさよゆるる。い。と  
や聖人の道乃蔽ツミなる。ゆるさる。ゆるさる。ぬかり。古の大

御代も其道をわびて。いやはよく治まりしと思ふ。  
そもく此天地アマツチ乃ありて。有リゆる事。悉コトク皆よ神の御心  
ゆる中み。

凡て此世中れ事。春秋のゆよりり。雨ふり風ふり  
あがひ。又國乃ゆる人乃ゆる。吉凶ヨキアレき萬事。みなゆる  
おゆる神の御所ミシラサ為あり。さそ神ヨキの善ヨキもあり。悪アレきも  
有リて。所行シラサもゆる。さる。い。大ヨソツネ尋常のあ  
やあり。さよ。い。測ハカる。か。さ。さ。然シる。世  
人。か。ゆる。も。ゆる。い。あ。あ。外トククニ國の道  
の説コトよ。乃み惑マドひりて。此意をあらび。皇國の學問モノマタヒ







をりわすれみづねるは秦始皇がどゆ荒ふる人し  
と興アタす人草ヒトクサ茂シレ苦クしむといひける天乃ひびく  
後ぞいひくといふ始皇の天乃あさす非  
は故よ久しといひくもいひ枉マダシ法をいひく  
も暫キザシくもいひく悪人アレキヒトはあさす理リのまやも又  
國をさす君乃さす天命のいひく下モロなる諸人のう  
すも善ヨキ悪アレはあさす見せて善人のいひく福サカえ悪  
人の速スミヤく禍ヒガふ法は理なるをいひくあさすよき人  
も凶アレくあさす人ヒトも吉ヨキきふが昔ムカシも今も多かるはい  
りふもいひく天乃あさすいひくまはるいひく

がゆのいひくもあさす後世はあさすはあさす  
人心さあさすいひくも又國を奪ひて天命ぞいひく  
世人乃諾ウケむる福ユヅはうは法ホウの禪ゼンらせ取トルるもあさ  
すいひくもいひくぬあさすいひくも古乃聖人セイジンも  
も實ミコトの是コトは異コトなるぬ物をあさす後世乃王の天命ぞい  
ひくも信ウケぬもの古乃天命をいひくも心得を  
いひくもいひくもあさすいひくも古乃天命をいひく後よいな  
まはるいひくもいひく或人舜の堯が國をいひく禹も又  
舜が國を奪すいひくもいひくもさも有レ法ホウをいひく  
ぞ後世の王莽曹操がいひくもいひくもうはるいひくを受ウケ



て嗣<sup>シキ</sup>ちも<sup>シカ</sup>も實<sup>ミコト</sup>の纂<sup>サガ</sup>す<sup>マ</sup>を以て思<sup>シ</sup>ふ<sup>ル</sup>。舜禹<sup>シユウ</sup>あ<sup>ハ</sup>も  
さ<sup>サ</sup>や<sup>ヤ</sup>あ<sup>ハ</sup>も<sup>シカ</sup>を<sup>シカ</sup>上<sup>ツ</sup>代<sup>ノ</sup>の<sup>スナホ</sup>朴<sup>ノ</sup>を<sup>シカ</sup>禪<sup>シ</sup>り<sup>テ</sup>や<sup>シカ</sup>云<sup>ヒ</sup>せ<sup>ル</sup>  
を<sup>シカ</sup>内<sup>ノ</sup>乃<sup>ハ</sup>人<sup>ノ</sup>や<sup>シカ</sup>も<sup>シカ</sup>み<sup>ナ</sup>あ<sup>ハ</sup>を<sup>シカ</sup>し<sup>メ</sup>  
き<sup>シ</sup>の<sup>シカ</sup>恭<sup>シ</sup>操<sup>シ</sup>が<sup>シカ</sup>の<sup>シカ</sup>世<sup>ノ</sup>人<sup>ノ</sup>さ<sup>シ</sup>の<sup>シカ</sup>を<sup>シカ</sup>さ<sup>シ</sup>  
の<sup>シカ</sup>故<sup>ニ</sup>悪<sup>ク</sup>き<sup>シ</sup>の<sup>シカ</sup>所<sup>ノ</sup>の<sup>シカ</sup>を<sup>シカ</sup>を<sup>シカ</sup>り<sup>テ</sup>ぬ<sup>ル</sup>  
如<sup>ク</sup>く<sup>シ</sup>る<sup>ル</sup>輩<sup>ト</sup>も<sup>シカ</sup>上<sup>ツ</sup>代<sup>ノ</sup>の<sup>シカ</sup>ま<sup>シ</sup>り<sup>バ</sup>あ<sup>ハ</sup>れ<sup>ル</sup>聖<sup>ノ</sup>人<sup>ノ</sup>や<sup>シカ</sup>仰<sup>グ</sup>  
ま<sup>シ</sup>る<sup>ル</sup>もの<sup>ナ</sup>。

禍<sup>マガ</sup>津<sup>ツ</sup>日<sup>ヒ</sup>神<sup>ノ</sup>の<sup>シカ</sup>御<sup>ミ</sup>心<sup>ノ</sup>乃<sup>ハ</sup>何<sup>ニ</sup>も<sup>シカ</sup>び<sup>ハ</sup>は<sup>シ</sup>も<sup>シカ</sup>せ<sup>シ</sup>の<sup>シカ</sup>を<sup>シカ</sup>り<sup>テ</sup>ぬ<sup>ル</sup>も<sup>シカ</sup>悲<sup>シ</sup>  
し<sup>キ</sup>あ<sup>ハ</sup>り<sup>テ</sup>あ<sup>ハ</sup>り<sup>テ</sup>。

世<sup>ヨ</sup>間<sup>ノ</sup>の<sup>シカ</sup>物<sup>ノ</sup>何<sup>レ</sup>も<sup>シカ</sup>を<sup>シカ</sup>ひ<sup>テ</sup>あ<sup>ハ</sup>り<sup>テ</sup>何<sup>ニ</sup>も<sup>シカ</sup>正<sup>シ</sup>し<sup>テ</sup>理<sup>ル</sup>

れ<sup>マ</sup>も<sup>シカ</sup>あ<sup>ハ</sup>り<sup>テ</sup>あ<sup>ハ</sup>り<sup>テ</sup>邪<sup>ヨ</sup>ある<sup>ル</sup>も<sup>シカ</sup>多<sup>ク</sup>か<sup>ル</sup>。の<sup>シカ</sup>皆<sup>シ</sup>此<sup>レ</sup>  
神<sup>ノ</sup>の<sup>シカ</sup>御<sup>ミ</sup>心<sup>ノ</sup>乃<sup>ハ</sup>甚<sup>ク</sup>く<sup>シ</sup>荒<sup>ラ</sup>び<sup>シ</sup>坐<sup>ス</sup>時<sup>ノ</sup>天<sup>ノ</sup>照<sup>ノ</sup>大<sup>ノ</sup>御<sup>ノ</sup>神<sup>ノ</sup>高<sup>ノ</sup>木<sup>ノ</sup>大<sup>ノ</sup>  
神<sup>ノ</sup>乃<sup>ハ</sup>大<sup>ノ</sup>御<sup>ノ</sup>力<sup>ノ</sup>乃<sup>ハ</sup>制<sup>ス</sup>み<sup>テ</sup>の<sup>シカ</sup>賜<sup>ヲ</sup>を<sup>シカ</sup>り<sup>テ</sup>あ<sup>ハ</sup>り<sup>テ</sup>ま<sup>シ</sup>り<sup>テ</sup>  
人<sup>ノ</sup>の<sup>シカ</sup>力<sup>ノ</sup>乃<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>り<sup>テ</sup>あ<sup>ハ</sup>り<sup>テ</sup>せ<sup>シ</sup>の<sup>シカ</sup>を<sup>シカ</sup>り<sup>テ</sup>ぬ<sup>ル</sup>も<sup>シカ</sup>善<sup>キ</sup>人<sup>ノ</sup>も<sup>シカ</sup>禍<sup>ガ</sup>  
を<sup>シカ</sup>悪<sup>ク</sup>人<sup>ノ</sup>も<sup>シカ</sup>福<sup>サ</sup>ゆ<sup>ク</sup>も<sup>シカ</sup>あ<sup>ハ</sup>り<sup>テ</sup>尋<sup>ニ</sup>常<sup>ノ</sup>れ<sup>シ</sup>理<sup>ル</sup>乃<sup>ハ</sup>の<sup>シカ</sup>事<sup>ノ</sup>の<sup>シカ</sup>多<sup>ク</sup>  
か<sup>ル</sup>も<sup>シカ</sup>皆<sup>シ</sup>此<sup>レ</sup>神<sup>ノ</sup>の<sup>シカ</sup>所<sup>ノ</sup>為<sup>シ</sup>る<sup>ル</sup>も<sup>シカ</sup>外<sup>ノ</sup>國<sup>ノ</sup>乃<sup>ハ</sup>神<sup>ノ</sup>代<sup>ノ</sup>の<sup>シカ</sup>正<sup>シ</sup>し<sup>テ</sup>  
傳<sup>ハ</sup>説<sup>ス</sup>ひ<sup>テ</sup>し<sup>テ</sup>此<sup>ノ</sup>所<sup>ノ</sup>由<sup>ヲ</sup>を<sup>シカ</sup>え<sup>ル</sup>も<sup>シカ</sup>故<sup>ニ</sup>も<sup>シカ</sup>天<sup>ノ</sup>命<sup>ヲ</sup>  
乃<sup>ハ</sup>説<sup>ク</sup>を<sup>シカ</sup>立<sup>テ</sup>何<sup>ニ</sup>も<sup>シカ</sup>み<sup>ナ</sup>當<sup>ニ</sup>然<sup>ノ</sup>理<sup>ヲ</sup>を<sup>シカ</sup>以<sup>テ</sup>定<sup>ム</sup>る<sup>ル</sup>も<sup>シカ</sup>あ<sup>ハ</sup>り<sup>テ</sup>ぬ<sup>ル</sup>  
も<sup>シカ</sup>。

然<sup>シ</sup>も<sup>シカ</sup>天<sup>ノ</sup>照<sup>ノ</sup>大<sup>ノ</sup>御<sup>ノ</sup>神<sup>ノ</sup>高<sup>ノ</sup>天<sup>ノ</sup>原<sup>ノ</sup>乃<sup>ハ</sup>大<sup>ノ</sup>坐<sup>ス</sup>り<sup>テ</sup>大<sup>ノ</sup>御<sup>ノ</sup>光<sup>ノ</sup>の<sup>シカ</sup>い<sup>ハ</sup>り<sup>テ</sup>ぬ<sup>ル</sup>



かも曇クモたまさば此世を御照ミテラましく天津御璽アメツツミシレシつはあ  
まのあは傳ツタりあ坐ミシて事依コトヨサ賜ミタひくふく天の下の御孫  
命ミコトれ所知食シロシメて。

異國アゲレシニの本よめ主乃定まぬるがやもぬべく人ヒトもと  
あまの王よめり王もくもまらく人もあま亡ホロび  
くせものる古よめれ風俗ナラハレあまて國を取ラや謀ハカて  
てあやぐふ者モノを賊ムスやしひく賤イサくもくみ取得  
く者モノを聖人タラシやしひく尊タフトみ仰アツぐぬめさぬは  
ゆる聖人もく賊乃為レやげく者モノぞ有リもる掛カケま  
くも可畏カレコまや吾天皇尊ワガスメラミコトりも然サるしやした國クニれ

王ミコトのや等ヒトやみよの坐カまさば此御國を生成ウミナレくま  
く神祖命カムロギノれ御ミみびく授賜サツクする皇統アミツヒツギよましく  
天地乃始アメノより大御食國オホミケクニや定サまぬる天下アマあて大  
御神の大命オホミコトも天皇アメ悪く坐カまさば莫ナまぬるひそや  
の詔ノリくまらばあぬる善ヨく坐カまも悪アレく坐カまも側カタハラよめ  
くあひひりり奉ホウるくやあて天地のあまの  
み月日の照テラり限リのく萬代を經ヘても動ウツき坐カぬ大君  
よ坐カま故古語フルコトも當代ソノヨ乃天皇アメをく神カミや申ウケして實ミコト  
ふ神カミよし坐カませば善ヨキ悪アレき御ミく論アヤツラひをひてひ  
くあまの畏カレコみ敬キヤひ奉仕ホウジるあまの道ミチの有リもる然



る。成中ぶられ世乃みづぬ。此道は背きて畏るも大  
朝廷は射向ひて。天皇尊をひやまし奉れあり。北條義  
時泰時又足利尊氏ひやごが如きあり。あ。天照日  
大御神の大御蔭をもねもひのかさぶ。穢悪き賊奴  
やもひやもるふ。禍津日神れ心のあやき物として。世  
人乃あひ衆従ひて。子孫の末まで。志づき榮え居し  
るや。抑此世を御照し坐まは天津日神をば。必しあ  
やみ奉る。はよるやなまぬやも。天皇を必畏るみ奉る  
はよるやも。あ。ぬ奴もよるありある。漢籍意は  
まやひて。彼國のみづぬなる。風俗をか。こきこやよ

ねもぬて。正しき皇國の道をあ。づ。今世を照しま  
しるは天津日神即天照大御神よまし。ゆはるやも。信  
は。今れ天皇は。あ。ら。天照大御神の御子よ坐まはる  
やも。忘き。こきこや。

天津日嗣乃高御座り。

天皇の御統を日嗣や申は。日神の御心を御心やし  
て。其御業を嗣坐が故なり。又その御座を高御座や申  
は。唯は高き由のみは。あ。日神の御座なるが故  
なり。日よ。高照やも。高日やも。日高やも。申は古語の  
あ。成思ふ。よ。日神乃御座を。次るよ。受傳り坐て。其







乃位<sup>ニ</sup>は<sup>シ</sup>たり。王<sup>ノ</sup>女<sup>ヲ</sup>をも<sup>シ</sup>は<sup>シ</sup>ら<sup>ズ</sup>き<sup>ニ</sup>男<sup>ニ</sup>あり<sup>セ</sup>て<sup>ハ</sup>耻<sup>シ</sup>  
ゆ<sup>ル</sup>も<sup>ト</sup>す<sup>ル</sup>べ<sup>シ</sup>。又<sup>キ</sup>昨日<sup>ノ</sup>ま<sup>デ</sup>山<sup>ノ</sup>賤<sup>ナ</sup>り<sup>シ</sup>者<sup>モ</sup>。今日<sup>ノ</sup>  
ふ<sup>リ</sup>う<sup>レ</sup>。國<sup>ノ</sup>乃<sup>レ</sup>政<sup>ヲ</sup>や<sup>ル</sup>。高<sup>キ</sup>官<sup>ニ</sup>も<sup>ナ</sup>り<sup>登</sup>る<sup>ノ</sup>を<sup>ハ</sup>凡<sup>テ</sup>  
貴<sup>キ</sup>賤<sup>キ</sup>品<sup>ト</sup>さ<sup>ぶ</sup>る<sup>ル</sup>べ<sup>シ</sup>。鳥<sup>ノ</sup>獸<sup>ノ</sup>乃<sup>レ</sup>あり<sup>さ</sup>る<sup>ル</sup>。異<sup>ナ</sup>る<sup>ル</sup>べ<sup>シ</sup>。  
と<sup>ハ</sup>あり<sup>ま</sup>る<sup>ル</sup>。

是<sup>レ</sup>も<sup>ハ</sup>此<sup>ノ</sup>道<sup>ノ</sup>の<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>る<sup>ル</sup>道<sup>ヲ</sup>や<sup>ハ</sup>尋<sup>ハ</sup>ね<sup>る</sup>。天地<sup>ノ</sup>の<sup>ハ</sup>お<sup>レ</sup>ぢ<sup>う</sup>  
なる<sup>ル</sup>道<sup>ニ</sup>も<sup>ハ</sup>あり<sup>ま</sup>る<sup>ル</sup>。

是<sup>レ</sup>を<sup>ハ</sup>よく<sup>ハ</sup>辨<sup>ハ</sup>別<sup>ス</sup>て<sup>ハ</sup>。の<sup>ハ</sup>漢<sup>ノ</sup>國<sup>ノ</sup>の<sup>ハ</sup>老<sup>ノ</sup>莊<sup>ノ</sup>を<sup>ハ</sup>見<sup>ル</sup>ゆ<sup>ハ</sup>び<sup>ハ</sup>や<sup>ハ</sup>  
る<sup>ル</sup>を<sup>ハ</sup>思<sup>ハ</sup>ひ<sup>ま</sup>る<sup>ル</sup>。

人<sup>ノ</sup>の<sup>ハ</sup>作<sup>ら</sup>る<sup>ル</sup>道<sup>ニ</sup>も<sup>ハ</sup>あり<sup>ま</sup>る<sup>ル</sup>。此<sup>ノ</sup>道<sup>ノ</sup>の<sup>ハ</sup>も<sup>ハ</sup>可<sup>シ</sup>畏<sup>キ</sup>や<sup>ハ</sup>高<sup>キ</sup>御<sup>ノ</sup>産<sup>ノ</sup>巢<sup>ト</sup>

日<sup>ノ</sup>神<sup>ノ</sup>乃<sup>レ</sup>御<sup>ノ</sup>靈<sup>ニ</sup>よ<sup>リ</sup>あり<sup>て</sup>。

世<sup>ノ</sup>中<sup>ニ</sup>は<sup>ハ</sup>あり<sup>ま</sup>る<sup>ル</sup>事<sup>ト</sup>も<sup>ハ</sup>物<sup>ト</sup>も<sup>ハ</sup>皆<sup>ク</sup>悉<sup>ク</sup>は<sup>ハ</sup>此<sup>ノ</sup>大<sup>ノ</sup>神<sup>ノ</sup>の<sup>ハ</sup>み<sup>ま</sup>る<sup>ル</sup>よ<sup>リ</sup>  
り<sup>て</sup>成<sup>ら</sup>る<sup>ル</sup>。

神<sup>ノ</sup>祖<sup>ト</sup>伊<sup>ノ</sup>邪<sup>ノ</sup>那<sup>ノ</sup>岐<sup>ノ</sup>大<sup>ノ</sup>神<sup>ト</sup>伊<sup>ノ</sup>邪<sup>ノ</sup>那<sup>ノ</sup>美<sup>ノ</sup>大<sup>ノ</sup>神<sup>ト</sup>の<sup>ハ</sup>始<sup>メ</sup>り<sup>て</sup>。

よ<sup>ノ</sup>の<sup>ハ</sup>なり<sup>ま</sup>る<sup>ル</sup>ふ<sup>ハ</sup>あり<sup>ま</sup>る<sup>ル</sup>事<sup>ト</sup>も<sup>ハ</sup>物<sup>ト</sup>も<sup>ハ</sup>此<sup>ノ</sup>二<sup>ノ</sup>柱<sup>ノ</sup>大<sup>ノ</sup>神<sup>ノ</sup>より<sup>ハ</sup>は<sup>じ</sup>  
まり<sup>り</sup>。

天<sup>ノ</sup>照<sup>大</sup>御<sup>ノ</sup>神<sup>ノ</sup>の<sup>ハ</sup>受<sup>ケ</sup>る<sup>ル</sup>も<sup>ハ</sup>ひ<sup>ま</sup>る<sup>ル</sup>も<sup>ハ</sup>ら<sup>し</sup>む<sup>ル</sup>。傳<sup>ハ</sup>り<sup>賜</sup>ふ<sup>ル</sup>道<sup>ヲ</sup>なり<sup>。故</sup>  
是<sup>レ</sup>以<sup>テ</sup>神<sup>ノ</sup>の<sup>ハ</sup>道<sup>ノ</sup>の<sup>ハ</sup>申<sup>ハ</sup>は<sup>り</sup>ぞ<sup>し</sup>。

神<sup>ノ</sup>道<sup>ヲ</sup>申<sup>ハ</sup>は<sup>り</sup>名<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>書<sup>ノ</sup>紀<sup>ノ</sup>乃<sup>レ</sup>石<sup>ノ</sup>村<sup>ノ</sup>池<sup>ノ</sup>邊<sup>ノ</sup>宮<sup>ノ</sup>に<sup>ハ</sup>御<sup>ノ</sup>卷<sup>ニ</sup>は<sup>じ</sup>り<sup>て</sup>  
見<sup>え</sup>る<sup>ル</sup>。其<sup>ノ</sup>の<sup>ハ</sup>只<sup>ニ</sup>神<sup>ヲ</sup>を<sup>ハ</sup>い<sup>は</sup>る<sup>ル</sup>。祭<sup>ヲ</sup>も<sup>ハ</sup>る<sup>ル</sup>。







よびみ惑ひして思ひやねもむりひやりのみなるみなる佛や  
漢の意としてはるやの道のころをわあさやらびな  
もある。

古の道やりの言擧がうりし故よ古書やもよちゆび  
かめも道くし知意も語も見えぬ故舎人親王を始  
奉て世々此識者やも道の意をわやうまびくかの  
道くし知るやうらうら云はうら書の説のみ心の底  
よみ着て其を天地のわのわうらなる理や思居る  
故よはがあやの思ひぬやもあのわうらやぬよま  
らぬく彼方まのみ流をゆくわめさぬら異國の道を

道の羽翼やあるほき物や思ひも即其心のわらう  
奪りぬるなりをう大か漢國の説のわの陰陽乾  
坤やわたりぬ諸皆もや聖人やもの己が智をもて  
わらはうりふ作をかまうら物あわらうら聞よ  
あやうり深むよまきうゆわぬやも彼が垣内を離れて  
外よりのよく見まら何ばうりれらやもむく中よ浅  
はのむるらやもぬりうらさぬや昔も今も世人乃  
此垣内よ迷入て得出離まぬらうら字をぬ大御  
國の説の神代より傳り来しまらうらわらわらわら  
人乃さかみを加るらる故ようらわらうら浅くや



聞ゆれども實ニコトのやれども人の智サト乃得測度ぬ。  
深き妙ミホクなる理のこもゆる字其意をあらぬ。りの  
漢國書乃垣内カキツにまよひ居る故なり。此をりてわれ  
ざらざらやれり。よやひ百年千年れ力を起して物學  
まゆも道のつちよ何の益エヒもなきいづれもなきな  
らざらし。但し古書キのみを漢文カラブミより却して書キれり。  
彼國乃るやも一もつちの知りてあるは文字モジれりや  
やれども漢籍カラブミをもいれども學びぬ  
はし皇國魂クニガミ乃定まめり。こよりぬる害サメの  
なきものぞ。

故カレわのが身ミは受行ウケオコナふは神道の教ノなりてとさぐ  
ものゆたもみまかの道ミチをいふをうやみて  
近き世ヨはかまら出デるわらうとやあり。

秘説ヒメコトあや云て人えりして密ヒソカは傳ツケふる類タガヒ  
あや皆後世イシハリは偽造イツクリするやぞ。凡てよきこやのい  
よもく世ヨは廣ヒロまるるをよむれびんかして。あま  
く人ヒトは知ラせび已オンら私物ワタクシモノはせやゆり。いれり  
きこひまわらひあり。

あなり。あオホ天皇キミの天下テンカをたらし。其の道ミチを下シモが下シモして已オン  
がわらう。れ物モノやせやうやよ。







せる強事シヒゴトなれば、まゝの道よりなりぬ。故カシコチ口より人  
みふくやぐい言イヒひぐい、まゝの道は然行シカオコテふ人の世  
よいや有リぐい天理のまゝなる道や思ふに、い  
くゑの事あり、又其道よそを、心を人慾やいひして、  
とすも、ろろえび、その人慾やいひ物の、い  
とよりいゝなる、故コトいゝき、いゝき、いゝき、然るは  
き理リよ、いゝ出来イデキいゝ法を、いゝ人慾も即天理な  
らびや、又百世を經モ、ツギても、同姓シウジヤや、婚ムカヒは、いゝゆるさ  
いゝいゝ制サダメあや、かの國クニよ、上代ウツより然るよ、  
いゝいゝ周れ代のさゝあなり、かくきび、いゝ定サダメなる

故の國の俗ヤシいゝいゝ親子同母兄弟あやの間アミダも、  
みぐりある事ツネなみ常多ツネくて、別ワキあゝ治まりかゝり、  
いゝ故コトあや、いゝ制サダメのきび、第一、かゝりて國の耻チ  
ひるを、いゝ何ナニの上、いゝ法の嚴キシまる、犯オカひもの、  
多オホシきがゆるぎ、いゝ其制サダメの制サダメや立タテいゝかゝり、いゝ  
いゝの道は、いゝ人の情ココロより、いゝぬゝいゝなる、故コトよ、志  
いゝいゝ人のいゝいゝあり、後ノチいゝいゝいゝいゝ、  
いゝ周の代乃、いゝいゝ諸侯シヨウや、いゝいゝの者も、  
いゝ破ヤブる、いゝ多オホシも、いゝいゝいゝいゝ、  
姉妹あや、いゝいゝ新アトも、いゝ例アトも、いゝ物も、いゝ然シカるを、儒者ズサ







國の制を規ササゆリて論ワカまラばシてハやハめハらズ。

いハしテもレ大御代ノの志もが志ももレどモがレ天皇の大御心を心を心をして。

天皇の所思オホホシ看御心のまよく奉任ツクて己オノが私心の心を心をひき。

ひこまらるる大命オホミコトをわらみあやびまらるるひき。おらみうらみ乃御蔭ミカゲをわらひておのもく祖神オヤガミを齋祭イツキニツリせらるる。

天皇の大御皇祖神の御前ミマヘを拜祭イツキニツリ坐スがらひき。臣連オミムラジヤ八十伴緒ソトモノヲ天下オホミタカラに百姓オホミタカラに至ルまで各祖神オノノを祭ルの常トシ也。又天皇の朝廷ミカドのよも天下オホミタカラにあるる天神國神アマツカミクニツカミ諸モロクを

も祭リ坐スが如く下なる人やも。事ふみらてハ福サチを求モトむる。善神ヨキよこひらず。禍をらがらぬ。や悪神アクキをも和免ナギ祭ス。又こもく身ニ罪穢ツミケガレもあらず。被清ハラヒキヨむるならば。みから人の情ココロをして。からず。有レ法ヨもごひらり。然る。成心だよ。まらるの道より。いはらる。云はらる。佛の教ヲ儒ヲ見コトよ。して。さらにも。あらず。神の道より。甚と。さらにも。又異國オホシクニの神ヲを祭スも。この理ヲを先サキとして。さらにも。議論のより。淫祀ヲをして。いま。して。さらにも。色あらる。みならず。一に。凡て神ノ佛ヲをして。いはらる。物の趣オモヒの異コトをして。善神ノのみらるあらず。いはらる。悪きも有リ。



て心も所行と然ある物やれは悪き事とほる人も福  
え善事ほる人も禍る事あるもの如きはなりさるべ  
神の理の當不をもて思ひほるはよそのよは  
もその御怒を畏みてひるまはよい事よまはるは  
きなりさるべ祭るもそのころるは有りていうよ  
も其神の歡喜び坐はよまをわも為はよそのまは  
萬を齋忌清まりめて穢惡あるは堪へる限美好物  
多よ献記或の琴ひよ笛ふよ歌舞ひやわたりよ  
まはてして祭るもみな神代の例よして古の道か  
も然るをよ心の至るに至らぬをのみひて献る物

みもたのほるまもかあはぬの漢意のひるるやあ  
まもて又神を祭るよ何まもりも先火を重く忌  
清むはよる神代書れ黄泉段を見て知はし是の神  
事れみもあはる大なる常みもはるははるるな  
らびみまもよはまはるまはるは火穢あるはま  
の禍津日神まもるまあは荒び坐ゆるよ世中も萬の  
禍事のねるまはるあまはる世のくはる民のくはる  
もはるて天下も火の穢の忌まはるまはるまはる今  
代よの唯神事れまも又神の坐地まはるまはる  
も此忌の物はあはるはる然る事まもあまよの火







や聖人の意れおのびくくやうよ了れ何事よる事の  
事乃神乃御心より出てその御所為なるをわしむ  
あゝ細い大旨れ甚くくする物をや。

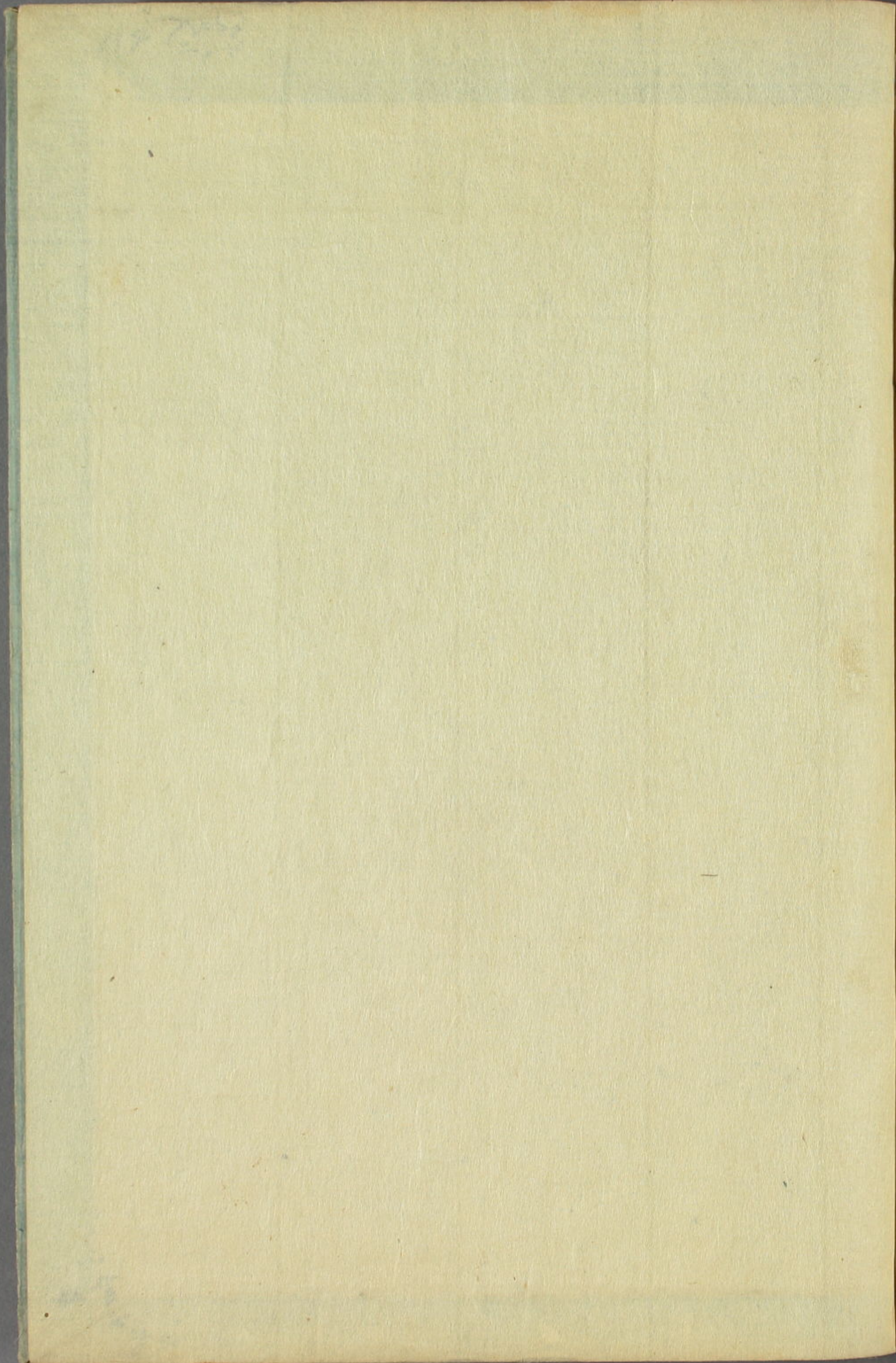
とてひて求中あゝるさゝぬきかゝまみくろ字被  
ひよふて清く御國くろもて古典やも字よく学  
びくよ然せの受行は道あよる中のおのびくく知て  
其をよるさゝるら神の道をけねるなふらありむ  
体あゝるら如此まど論ふも道乃意より何れも禍津  
日神のみくもど見く黙止あゝる神直毘神大直毘神  
の御霊くばりてこのまどをもて直まをやるよ。

上の件はなして已ぐ私のころもていふは何れも  
やぐよ古典よはやころあるをやうし何れもよ  
見む人の疑はし。

かくりあり。明和の八年やいあやしれあみな月九日の  
日伊勢國飯高郡の御民平阿曾美宣長くこみあゝるみ  
もゝる。







萬曆御覽  
酒齋



三卷

三卷  
三卷



